



平成30(2018)年度

科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業
「次世代研究者育成プログラム」

未来を拓く地方協奏プラットフォーム 成果報告書

平成31(2019)年3月

科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業
「次世代研究者育成プログラム」

未来を拓く 地方協奏プラットフォーム

平成 30(2018)年度

成果報告書

平成 31(2019)年3月

目 次

1. はじめに	1
2. 「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」の概要	2
2-1. 概要	2
2-2. 連携機関	3
2-3. 推進体制	5
2-3-1. 平成 30(2018)年度の推進体制	6
2-3-2. HIRAKU 運営協議会事務局	7
2-3-3. HIRAKU 運営協議会開催実績	8
2-4. 年次計画（数値目標）	10
2-4-1. コンソーシアム教員の採用人数	10
2-4-2. 長期インターンシップ生の派遣人数	10
3. テニュアトラック導入による若手研究者の自立・流動促進プログラム	11
3-1. コンソーシアム教員の公募・審査・採用実績	11
3-2. コンソーシアム教員の着任状況	15
3-3. コンソーシアム教員の育成	18
3-3-1. 自立的な研究環境確保等について	18
3-3-2. コンソーシアム教員研修について	18
3-3-3. メンター制度など	20
3-4. コンソーシアム教員の評価	21
4. イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラム	23
4-1. 長期インターンシップ生の募集	23
4-1-1. 第 8 期（平成 30(2018)年度前期）	23
4-1-2. 第 9 期（平成 30(2018)年度後期）	23
4-2. 長期インターンシップの派遣実績	24
4-2-1. 平成 30(2018)年度前期派遣者	24
4-2-2. 平成 30(2018)年度後期派遣者	25
5. 成果報告会	26
5-1. 第 7 回成果報告会	26
5-2. 第 8 回成果報告会	27

5-3. 国際シンポジウム.....	28
6. DC や PD が積極的に関与する取組	30
6-1. 未来博士3分間コンペティション 2018.....	30
6-2. 第3回課題提案型ワークショップ.....	32
6-3. ナノ・バイオ・インフォ化学シンポジウム.....	34
7. コンソーシアム人材セミナー	35
8. 若手研究人材の意識啓発を促す取組	44
8-1. ウェブサイト.....	44
8-2. 学生むけ小冊子 HIRAKU.....	46
8-3. 学生むけ小冊子 HAKUSHI.....	51
8-4. 4年手帳.....	53
9. 若手研究人材のキャリアスタート支援.....	54
9-1. 若手研究人材ポートフォリオ HIRAKU-PF.....	54
9-2. 博士人材キャリア相談室.....	62
10. 代表機関および共同実施機関独自の取組	63
10-1. 広島大学独自の取組.....	63
10-1-1. 広島大学特別研究員 成果報告会.....	63
10-1-2. HIRAKU 実践プログラム.....	65
10-1-3. 研究者等紹介.....	68
10-2. 山口大学独自の取組.....	76
10-2-1. 実施体制.....	76
10-2-2. イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラム.....	76
10-2-3. テニユアトラック導入による若手研究者の自立・流動促進プログラム.....	78
10-3. 徳島大学独自の取組.....	80
10-3-1. 実施体制.....	80
10-3-2. 若手研究者の自立・流動促進プログラム.....	80
10-3-3. イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラム.....	82
11. 外部評価	85
11-1. 外部評価委員会	85
11-1-1. 第4回外部評価委員会	85

1. はじめに

本報告書は、平成26(2014)年度 文部科学省科学技術人材育成費補助事業「科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業(次世代研究者育成プログラム)」に採択された「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」(HIRAKU)の、開始後 5年目である平成30(2018)年度の活動とその成果をまとめたものです。

「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」は、広島大学が代表機関、山口大学と徳島大学が共同実施機関として、また、本書で述べるように、多くの連携機関の協力を得て、推進しています。博士課程後期学生を含む若手研究人材の育成を目的とするプラットフォーム(HIRAKU-PF)を共同で構築し、自己啓発や専門的能力開発の環境をつくり、また、長期インターンシップや共同研究等の機会を増やしています。さらに、テニュアトラック研究者をコンソーシアムとして共同で公募・選考し、より多くの優秀な若手研究人材を国内外から集め、多様な研究環境と雇用形態を提供しています。また、優秀な女性研究者に活躍の場を提供する取組も進めています。

若手研究人材の養成やキャリアスタート支援は、一つの大学だけでできるものではありません。社会全体の問題として、多くの機関が協力して行うものです。本コンソーシアムはこの考え方を基調として、問題意識を共有している大学や企業等が、組織の壁を越えて、連携し実施しています。HIRAKUでは、代表及び共同実施機関の3大学だけでなく、多くの連携大学に所属する大学院生にも、長期インターンシップに派遣する機会を提供しています。

広島大学では、科学技術人材育成費補助金「イノベーション創出若手研究人材養成」に採択された「地方協奏による挑戦する若手人材の養成計画」(平成21(2009)～平成25(2013)年度)の取組により、若手研究人材を社会に輩出する、ということ意識して実施するようになりました。また、科学技術人材育成費補助金「女性研究者養成システム改革加速」に採択された「広大システム改革による女性研究者活躍促進」(平成22(2010)～平成26(2014)年度)の取組により、女性限定公募と女性研究者支援を実施してきました。「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」は、これら二つの取組を実施してきた経験と実績をふまえて、事業全体を設計し、実行しています。

本事業は、平成28(2016)年度に中間評価を受けました。すべての項目で所期の計画どおりに取組を進めている、と認められ、また、大きな波及効果も評価していただきました。この事業は、平成26(2014)～平成33(2021)年度の8年間の予定で実施していますが、平成30(2018)年度で補助期間が終了します。今後、持続可能な、そして、より良い取組としていくために、これまでの取組内容と成果を検証していくこととしております。ここに、開始5年目の活動と実績をまとめております。本事業の活動状況をご覧いただき、ご忌憚のないご意見をいただきたいと考えております。

これからも若手研究人材の育成と多様なキャリアパスの構築にご支援いただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

平成31(2019)年3月10日
広島大学 理事・副学長(大学改革担当)
大学院理学研究科 教授
相田 美砂子

2. 「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」の概要

「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」は、平成26(2014)年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業(次世代研究者育成プログラム)」に申請し、採択された。

本報告書は、開始後5年目となった平成30(2018)年度の成果をまとめたものである。

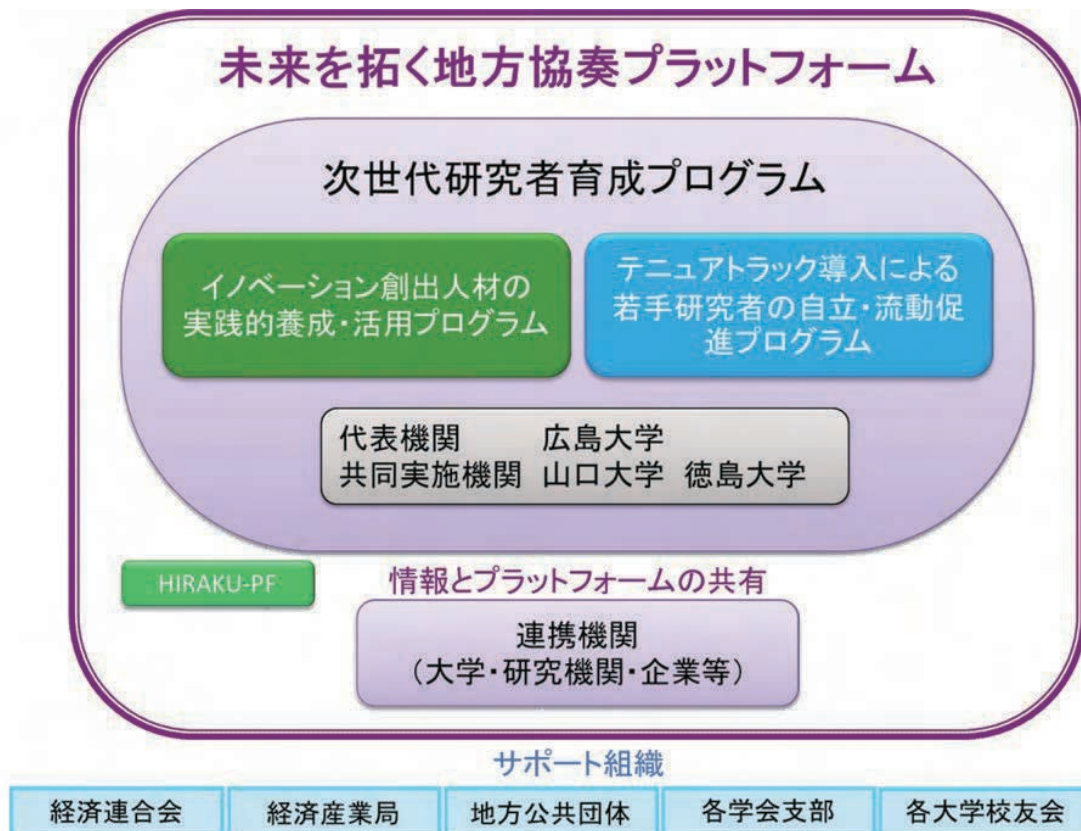
2-1. 概要

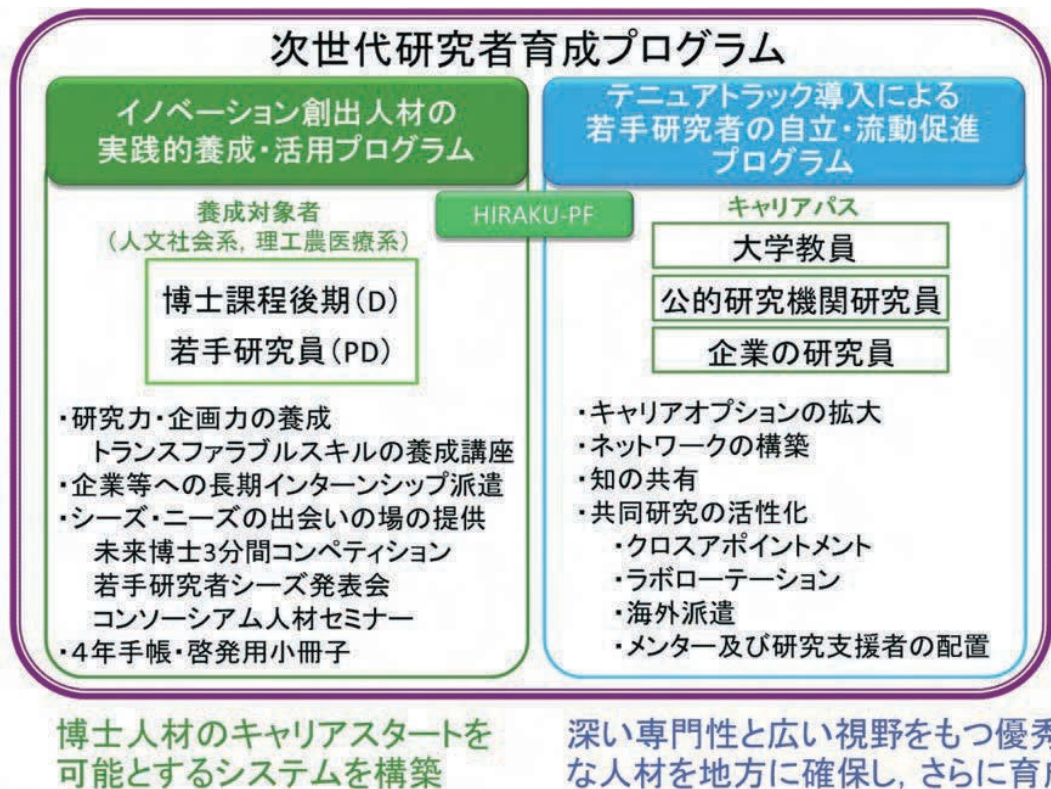
コンソーシアムの名称： 未来を拓く地方協奏プラットフォーム
代表機関名： 国立大学法人広島大学
総括責任者名： 広島大学長
共同実施機関名： 国立大学法人山口大学, 国立大学法人徳島大学
実施予定期間： 平成26(2014)年度～平成33(2021)年度
取組の概要：

中国・四国地方を中心とする西日本の大学等を中心としたコンソーシアムを構築し、共同でテニュアトラック研究者を公募、選考する。より多くの優秀な若手研究人材を国内外から集める。多様な雇用・流動形態(クロスアポイントメント、ラボローテーション等)の導入により、彼らが異なる知と交わり、ネットワークを構築できるよう支援する。女性枠を設定し、女性の活躍促進につなげる。

博士課程後期学生を含む若手研究人材が、地域や国際社会を変革するイノベーターとして自立できるよう、彼らの実践的な養成・活用を可能とするプラットフォームを共同で構築する。トランスファラブルスキル養成に必要なリソースの共有を図り、シーズ・ニーズのマッチングにより、インターンシップ、就職、共同研究等の機会を増やす。

若手研究人材の養成・活用を通じて、コンソーシアム内外の知の循環を加速させ、地域全体の社会的課題の解決やイノベーション創出を図り、地方創生につなげる。





2-2. 連携機関

平成31(2019)年2月末現在の連携機関は次のとおりであり、計59機関(50音順)である。

国立大学法人

1	愛媛大学
2	岡山大学
3	香川大学
4	岐阜大学
5	高知大学
6	島根大学
7	鳥取大学
8	鳴門教育大学
9	国立遺伝学研究所/ 総合研究大学院大学生命科学研究科 遺伝学専攻

公私立大学法人

1	県立広島大学
2	高知工科大学
3	広島市立大学
4	広島国際大学
5	立命館大学

行政

1	広島県
---	-----

公的研究機関

1	国立研究開発法人産業技術総合研究所中国センター
2	国立研究開発法人産業技術総合研究所四国センター
3	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 西日本農業研究センター
4	独立行政法人酒類総合研究所

公的団体

1	公益財団法人くれ産業振興センター
2	一般社団法人中国経済連合会
3	一般社団法人中国地域ニュービジネス協議会
4	地方独立行政法人山口県産業技術センター

企業

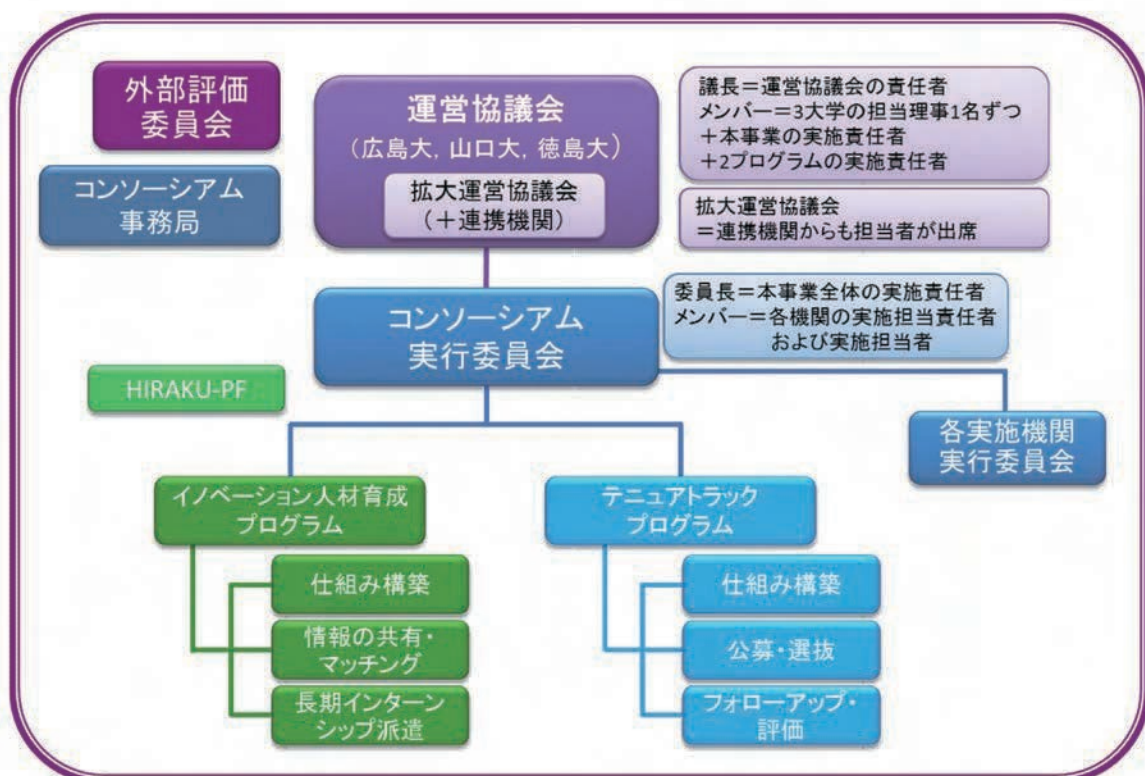
1	株式会社あじかん
2	株式会社アビー
3	EYアドバイザリー・アンド・コンサルティング株式会社
4	大塚製薬株式会社
5	株式会社計測リサーチコンサルタント
6	株式会社サタケ
7	三新化学工業株式会社
8	JFEスチール株式会社
9	株式会社ジェイ・エム・エス
10	株式会社ジェーイーエル
11	シュプリンガー・ネイチャー
12	中外テクノス株式会社
13	中国電力株式会社エネルギー総合研究所
14	帝人ナカシマメディカル株式会社
15	東ソー株式会社
16	株式会社東洋高压
17	株式会社トクヤマ 徳山製造所
18	戸田工業株式会社
19	西川ゴム工業株式会社
20	日本アイ・ビー・エム株式会社
21	株式会社日本製鋼所広島製作所
22	日本ハム株式会社中央研究所

23	株式会社フェニックスバイオ
24	富士通株式会社 西日本営業本部 関西文教統括営業部
25	フマキラー株式会社
26	ベネッセ教育総合研究所
27	株式会社ペンタスネット
28	マツダ株式会社
29	株式会社MICOTOテクノロジー
30	三菱ケミカル株式会社大竹研究所
31	三菱重工株式会社広島製作所
32	三菱日立パワーシステムズ株式会社 呉工場
33	メドエルジャパン株式会社
34	矢崎総業株式会社 技術研究所
35	株式会社リバネス

海外機関

1	Vitae (イギリス)
---	--------------

2-3. 推進体制



運営協議会は、実施機関である広島大学、山口大学、徳島大学の各担当理事、本事業の実施責任者、およびプログラム責任者で構成する。また、運営協議会のサブ組織として拡大運営協議会を置く。拡大運営協議会は、運営協議会に連携機関の実施責任者を加えたメンバーで構成する。運営協議会において、コンソーシアム全体および各機関の意思疎通を図る。運営協議会の下にコンソーシアム実行委員会を設置し、コンソーシアムとしての活動を進める。各実施機関においては、それぞれ実行委員会等を設置し、活動を進める。

運営協議会、拡大運営協議会、コンソーシアム実行委員会を必要に応じ開催し、各機関の事情をふまえながらコンソーシアム全体としての方針を決定し、実行する。

2-3-1. 平成30(2018)年度の推進体制

(1) コンソーシアムとしての責任者

総括責任者:	広島大学 学長	越智 光夫
実施責任者:	広島大学 理事・副学長(大学改革担当)	相田 美砂子
運営協議会責任者:	広島大学 理事・副学長(社会産学連携担当) (担当事務:広島大学社会産学連携室社会連携 GL 角田 尚子)	高田 隆
運営協議会メンバー:	山口大学 理事・副学長(学術研究担当)	堀 憲次
	徳島大学 理事・副学長(研究担当)	佐々木 卓也
	広島大学 理事・副学長(大学改革担当)	相田 美砂子
	広島大学 グローバルキャリアデザインセンター副センター長 教授	三須 敏幸

コンソーシアム実行委員会:

「テニュアトラック導入による若手研究者の自立・流動促進プログラム」責任者

広島大学 理事・副学長(大学改革担当) 相田 美砂子

「イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラム」責任者

広島大学 グローバルキャリアデザインセンター副センター長 教授
三須 敏幸

(2) 各実施機関の責任者

◆広島大学

「テニュアトラック導入による若手研究者の自立・流動促進プログラム」

広島大学 理事・副学長(研究担当) 山本 陽介
(担当事務:学術室研究企画室室長 小左古 学)

「イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラム」

広島大学 グローバルキャリアデザインセンター長 江坂 宗春
(担当事務:教育室キャリア支援GL 地藏堂 聡)

◆山口大学

山口大学 理事・副学長(学術研究担当) 堀 憲次
(担当事務:学術研究部研究推進課長 高橋 健二)

◆徳島大学

徳島大学 理事・副学長(研究担当) 佐々木 卓也
(担当事務:研究推進部産学連携・研究推進課長 小西 浩司)

2-3-2. HIRAKU 運営協議会事務局

◆平成30(2018)年度

専任職員

推進員(事務統括)	山本 正和
事務職員(教育室)	梶田 真理(キャリア支援G 主任)
コーディネーター	都留 良男
コーディネーター	宮地 壽
推進員	岡崎 亜紀子
推進員	福見 朋子
推進員	久保 叔子
事業担当システム開発	細川 志織
事業担当システム開発	坂宗 和明

協力職員

社会産学連携室	角田 尚子(社会産学連携 GL)
	大財 健司(社会産学連携G 主任)
学術室	田尾 若菜(研究企画室 主任)

2-3-3. HIRAKU 運営協議会開催実績

(1) 第26回 HIRAKU 運営協議会

【日 時】平成30(2018)年6月7日(木)17:10～18:10

【場 所】シェラトングランドホテル広島4F 華

【出席者】(山口大学)高橋課長(堀理事代理), (徳島大学)小西課長(佐々木理事代理)
(広島大学)相田理事, 原社会連携部長(高田理事代理), 原教育部長

他 8名(合計 15名)

【議題と報告事項】

- ・第9期(平成30(2018)年度後期)コンソーシアム教員公募の公開ヒアリング対象者の決定
- ・テニュアトラック教員の勤務状況記録について
- ・第10期(平成31(2019)年度前期)コンソーシアム教員公募について
- ・英国Vitaeワークショップについて
- ・「未来博士3分間コンペティション2018」発表者募集について ほか

(2) 第27回 HIRAKU 運営協議会

【日 時】平成30(2018)年7月19日(木)16:20～17:00

【場 所】シェラトングランドホテル広島3F 美波A

【出席者】(山口大学)堀理事, (徳島大学)佐々木理事

(広島大学)高田理事, 相田理事, 三須教授, 江坂グローバルキャリアデザインセンター長,
原社会連携部長, (連携機関)岡山大学町田准教授, 中国経済連合会山下部長,
株式会社ジェイ・エム・エス中川部長 他 17名(計 27名)

【議題と報告事項】

- ・先立って行われた第9期(平成30(2018)年度後期)コンソーシアム教員審査結果について
- ・第10期(平成31(2019)年度前期)コンソーシアム教員公募について
- ・コンソーシアム教員の間評価について
- ・コンソーシアム教員の年度評価について
- ・「未来博士3分間コンペティション 2018」準備進捗状況について ほか

(3) 第28回 HIRAKU 運営協議会

【日 時】平成30(2018)年11月19日(月)16:00～17:20

【場 所】シェラトングランドホテル広島4F 華

【出席者】(山口大学)高橋課長(堀理事代理), (徳島大学)小西課長(佐々木理事代理)
(広島大学)相田理事, 三須教授, 原社会連携部長(高田理事代理)

他 10名(計 15名)

【議事と報告事項】

- ・第10期(平成31(2019)年度前期)コンソーシアム教員公募の公開ヒアリング対象者の決定
- ・第11期(平成31(2019)年度後期)コンソーシアム教員公募について
- ・国際シンポジウムの開催について
- ・第8回成果報告会及び英国Vitaeワークショップの開催について
- ・「世界で活躍できる研究者戦略育成事業」について ほか

(4) 第29回 HIRAKU 運営協議会

【日 時】 平成30(2018)年12月13日(木)16:00~17:00

【場 所】 シェラトングランドホテル広島3F 美波A

【出席者】 (山口大学)堀理事, (徳島大学)佐々木理事

(広島大学)高田理事, 相田理事, 三須教授, 江坂グローバルキャリアデザインセンター長,
原社会連携部長, 原教育部長, (連携機関)岡山大学町田准教授, 中国経済連合会
山下部長, 中国地域ニュービジネス協議会大原常務理事 他 13名(計 24名)

【議題と報告事項】

- ・先立って行われた第10期(平成31(2019)年度前期)コンソーシアム教員審査結果について
- ・コテニューアトラック教員の最終評価方法について
- ・第 11期(平成 31(2019)年度後期)コンソーシアム教員公募について
- ・コンソーシアム教員の間評価について
- ・コンソーシアム教員の年度評価について
- ・国際シンポジウムの開催について
- ・第8回成果報告会及び英国Vitaeワークショップの開催について
- ・「世界で活躍できる研究者戦略育成事業」について ほか

(5) 第30回 HIRAKU 運営協議会 (開催予定)

【日 時】 平成31(2019)年3月25日(月)9:30~10:30(予定)

【場 所】 広島大学医学部基礎・社会医学棟2階 セミナー室2

【出席者】 (山口大学)堀理事, (徳島大学:TV会議)佐々木理事

(広島大学)高田理事, 相田理事, 三須教授 他(予定)

【議題と報告事項】

- ・平成31(2019)年度以降のHIRAKU事業の運営について
- ・平成31(2019)年度の実施計画について
- ・長期インターンシップ募集要項について
- ・HIRAKU連携機関の登録・変更について
- ・HIRAKU-PF の新機能の説明及び登録・利用の促進について ほか

2-4. 年次計画(数値目標)

2-4-1. コンソーシアム教員の採用人数

	平成 26 (2014) 年度	平成 27 (2015) 年度	平成 28 (2016) 年度	平成 29 (2017) 年度	平成 30 (2018) 年度	平成 31 (2019) 年度	平成 32 (2020) 年度	平成 33 (2021) 年度
春着任		第 2 期	第 4 期	第 6 期	第 8 期	第 10 期	第 12 期	第 14 期
秋着任	第 1 期 (冬)	第 3 期	第 5 期	第 7 期	第 9 期	第 11 期	第 13 期	第 15 期
広島大学	4	5	6	6	6	6	6	6
山口大学	0	2	1	1	1	1	1	1
徳島大学	0	1	1	1	1	1	1	1
計	4	8	8	8	8	8	8	8

2-4-2. 長期インターンシップ生の派遣人数

	平成 26 (2014) 年度	平成 27 (2015) 年度	平成 28 (2016) 年度	平成 29 (2017) 年度	平成 30 (2018) 年度	平成 31 (2019) 年度	平成 32 (2020) 年度	平成 33 (2021) 年度
前期		第 2 期	第 4 期	第 6 期	第 8 期	第 10 期	第 12 期	第 14 期
後期	第 1 期	第 3 期	第 5 期	第 7 期	第 9 期	第 11 期	第 13 期	第 15 期
広島大学	4	14	14	14	14	14	14	14
山口大学	0	2	2	2	2	2	2	2
徳島大学	2	2	2	2	2	2	2	2
計	6	18	18	18	18	18	18	18

3. テニユアトラック導入による若手研究者の自立・流動促進プログラム

3-1. コンソーシアム教員の公募・審査・採用実績

	平成26(2014)年度	平成27(2015)年度		平成28(2016)年度	
春着任		第2期		第4期	
秋着任	第1期(冬)		第3期		第5期
広島大学	4	2(2)	3(1)	2(2)	4(4)
山口大学	0	2	0	1(1)	0
徳島大学	0	0	1	1	0
公募開始	平成26(2014)年 11月25日	平成26(2014)年 12月26日	平成27(2015)年 4月28日	平成27(2015)年 10月13日	平成28(2016)年 4月28日
公募締切	平成26(2014)年 12月22日	平成27(2015)年 1月29日	平成27(2015)年 6月25日	平成27(2015)年 12月10日	平成28(2016)年 6月30日
コンソーシアム内 公開ヒアリング	平成27(2015)年 1月23日	平成27(2015)年 3月5日	平成27(2015)年 8月26日	平成28(2016)年 2月29日	平成28(2016)年 8月26日
採用者計	4[2]	4[2]	4[1]	4[4]	4[4]
	平成29(2017)年度		平成30(2018)年度		平成31(2019)年度
春着任	第6期		第8期		第10期
秋着任		第7期		第9期	
広島大学	2(1)	4(2)	3(2)	3(2)	3(1)
山口大学	0	1	0	1	0
徳島大学	1	0	0	1	0
公募開始	平成28(2016)年 10月11日	平成29(2017)年 3月10日	平成29(2017)年 9月1日	平成30(2018)年 2月2日	平成30(2018)年 8月2日
公募締切	平成28(2016)年 12月12日	平成29(2017)年 5月15日	平成29(2017)年 10月31日	平成30(2018)年 4月2日	平成30(2018)年 10月1日
コンソーシアム内 公開ヒアリング	平成29(2017)年 2月1日	平成29(2017)年 7月31日	平成29(2017)年 12月25日	平成30(2018)年 7月19日	平成30(2018)年 12月13日
採用者計	3[1]	5[2]	3[2]	5[3]	3[1]

(括弧内の数)→女性限定公募の件数(内数)

[括弧内の数]→採用者の内の女性の数[内数]

「次世代研究者」の公募について、本コンソーシアムでは、実施機関(広島大学、山口大学、徳島大学)がそれぞれ事業計画及び大学の計画に従った募集分野・人数・職階の候補を提案し、コンソーシアム運営協議会において決定した後、コンソーシアムで公募、選考を行い、実施機関で採用を行っている(本スキームで採用された教員を、以下コンソーシアム教員と記す)。公募の実施にあたっては、運営協議会での決定を受けて、コンソーシアム実行委員会と事務局が実施している。

コンソーシアム教員の公募にあたっては、実施機関側にはその職に求める条件として、テニユアトラック制、年俸制での処遇を求めている。また、各実施機関内での早期定着、安定的で迅速な研究環境の確保、雇用後の流動性の担保などの観点から、各大学の制度に則った上で、いわゆる定員枠の教員と可能な限り同じ取扱いを求めている。そのため、広島大学では、コンソーシアム教員について、特殊な職階を設定せず、全て(通常の)助教として公募、採用している。

コンソーシアム教員となるものについては、以下の点を共通した要件としている。

- ・ 博士号を取得後10年以内(※1)又は同等程度の研究経歴(※2)を有し、かつ、40歳未満(※3)である若手研究者(ただし、臨床研修を課せられた医学系分野においては43歳未満)
- ※1 産前・産後休暇および育児休暇を取得した方は、その取得期間について10年を越えることが可能。
- ※2 博士課程に標準年限以上在学し、所定の単位を修得した上、退学した(いわゆる「満期退学者」)で、退学後10年以内の研究者。
- ※3 文部科学省の平成26(2014)年度科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業による補助対象のため、雇用対策法施行規則第1条の3第1項第3号ニに該当するとして実施。
- ・ 英語によるコミュニケーション能力を有すること。
- ・ 日本語又は英語による学部・大学院生への授業及び研究指導ができること。
- ・ 科学技術イノベーションの実現に向けて積極的な研究活動を行う意志をもつこと。

これらの共通する要件に加え、各機関・分野で必要と認められた要件については、特有事項として加えている。

世界中から優秀かつ多様な人材を呼び込むために、国際公募とし、海外にも積極的に情報を展開している。また、公募要領上では、各機関で共通する内容については、可能な限り詳細な情報を掲示すると共に、各機関・分野のHPなどを紹介し、外国在住者でも応募しやすくなるよう心がけた。さらに、国内外から寄せられた問い合わせに対しては、事務局で可能な限り迅速かつ丁寧な対応を行った。

従来の教員公募においては、各機関の人事担当部署及び各公募の責任教員が直接個別に対応しており、特に国際公募では大きな負担となっているが、これをコンソーシアムとして一括で対応し、Q&Aとして公開することで、応募者、事務双方の負担の軽減を図っている。

加えて、女性教員の少ない分野では、各実施機関に対して女性限定公募を行うよう積極的に働きかけており、その結果、第9期(平成30(2018)年度後期採用)までの36件の公募のうち17件を女性限定公募として行った。また、女性限定公募でない場合も、公募要領上に女性研究者への支援を明記し、各機関の環境整備状況を明記することにより、女性への積極的な応募を促している。

第9期(平成30(2018)年度後期採用)までに、外国籍教員の採用は2割近い7名となっており、全採用教員36名のうち半数以上にあたる21名の女性教員の採用につながった。研究分野のみでなく、ジェンダー、国籍などで多様なメンバーで構成されていると言える。

コンソーシアム教員は、各分野での優秀な教員候補であるのみならず、多様な人材に対してリーダーシップを発揮しなければならない将来の産学官のリーダー候補であるが、本コンソーシアムではその目的に沿った人材を公正なシステムに基づいて採用できている。

なお、応募にあたっては、以下の内容を共通して求めている。

- ①履歴書
- ②業績リスト※ 主要論文(5編以内)のコピーを添付すること。
- ③これまでの研究概要(A4 4ページ以内、図表含む)
- ④本コンソーシアムにおける研究計画(A4 4ページ以内、今後5年間の研究計画)
- ⑤科学技術イノベーションへの貢献に向けた抱負
- ⑥推薦者リスト(推薦者の所属、氏名、電話番号、電子メールアドレスを2名分記載)

公募情報は、JREC-IN Portal, コンソーシアムHP, 各大学 HP等において英語及び日本語で公開し、公募を実施し、公募期間は2か月以上となるように設定している。

応募者は、コンソーシアムが指定する日英共通様式(フォーム)に記入して提出する。世界中から幅広い人材の応募を得るために、応募書類はすべて電子メールで受け付けている。

選考にあたっては、コンソーシアム事務局における応募の取りまとめの後、各公募分野における一次選考を経て、コンソーシアム内公開ヒアリングによる二次選考を行う。その後、コンソーシアム内公開ヒアリングによる結果を受け、審査委員会が最終候補者の推薦を運営協議会に対して行い、コンソーシアム運営協議会が採用候補者を決定する。その結果を各大学に通知し、各大学が採用手続きを進める形で行った。

二次選考のコンソーシアム内公開ヒアリングは、運営協議会メンバーを中心とした各大学の理事クラスにより面接形式で実施する。応募者はヒアリングにあたって、日本語又は英語で発表を行う。審査にあたるメンバーは、1分野につき6名であり、その中には他大学の理事が少なくとも2名入っており、他分野、他機関の高い学識経験者を含めた構成となっている。

また公開ヒアリングでは、コンソーシアム内の各機関からの参加者が質疑への参加、コメントを付すことができるようなシステムとしている。これにより、中国四国地方に新たに呼び込む優秀な若手研究人材(=コンソーシアム教員)を、採用前からコンソーシアム内の他機関も知ることができる貴重な機会となっている。

従来の大学教員採用においては、他機関がその人材を知る機会が少なかったが、コンソーシアムとしての強みである、複数大学での共同実施による協力体制のもと、優秀な若手研究人材を積極的に活かすための仕組みを構築できており、中国四国地域を活性化するための一歩となっていると言える。

◆第8期公募(平成30(2018)年度前期)

- ・JREC-IN, コンソーシアムHP, 各大学HPにて英語及び日本語で公募。各分野の国内学会HP, メールリスト等においても周知。
- ・平成29(2017)年9月1日(金)公募開始, 平成29(2017)年10月31日(火)締切, 平成29(2017)年12月25日(月) コンソーシアム内公開ヒアリング, 平成30(2018)年4月1日(日)以降採用。
- ・公募分野: 構造生物学(広島大学), 生命医療科学(広島大学・女性限定公募), 天文学(広島大学・女性限定公募), シミュレーション工学(広島大学・女性限定公募)
- ・4分野合計で34名の応募を得た(うち女性27名)
- ・シミュレーション工学分野は一次選考において適任者がなく, 採用予定機関において公募分野から再検討を行う(再公募を実施しない)こととなった。天文学分野は二次選考において適任者がなく, 同分野で再公募を実施する。

◆第9期公募(平成30(2018)年度後期)

- ・JREC-IN, コンソーシアムHP, 各大学HPにて英語及び日本語で公募。各分野の国内学会HP, メールリスト等においても周知。
- ・平成30(2018)年2月2日(金)公募開始, 平成30(2018)年4月2日(火)締切(分野により, 平成30(2018)年5月1日(火)まで募集期間延長), 平成30(2018)年7月19日(月)コンソーシアム内公開ヒアリング, 平成30(2018)年10月1日(月)以降採用。
- ・公募分野: ロボット工学(徳島大学), 循環環境工学(山口大学), 物理化学(広島大学), 生命医療科学(広島大学・女性限定公募), 構造材料工学(広島大学・女性限定公募), 天文学(広島大学・女性限定公募・第8期再公募)
- ・6分野合計で29名の応募を得た(うち女性17名)

◆第10期公募(平成31(2019)年度前期)

- JREC-IN, コンソーシアムHP, 各大学HPにて英語及び日本語で公募。各分野の国内学会HP, メールングリスト等においても周知。
- 平成30(2018)年8月2日(木)公募開始, 平成30(2018)年10月1日(月)締切(分野により, 平成30(2018)年10月9日(火)まで募集期間延長), 平成30(2018)年12月13日(木)コンソーシアム内公開ヒアリング, 平成31(2019)年4月1日(月)以降採用予定。
- 公募分野:統計学(広島大学), 農学応用生命科学(広島大学・女性限定公募), 数理モデリング・数理生命科学(広島大学)
- 3分野合計で19名の応募を得た(うち女性5名)

3-2. コンソーシアム教員の着任状況

※所属先名称は着任時のもの

公募分野	所属先	氏名	着任日
第 1 期			
欧米文学語学・言語学	広島大学 大学院文学研究科	松本 舞	平成27(2015)年 3月1日
マクロ経済学	広島大学 大学院社会科学研究科	中川 雅央	平成27(2015)年 3月1日
反応性機能分子の化学	広島大学 大学院理学研究科	Shang Rong	平成27(2015)年 3月1日
宇宙科学	広島大学 大学院理学研究科	岡部 信広	平成27(2015)年 3月1日
第 2 期			
病態制御学講座(獣医衛生学分野)	山口大学 共同獣医学部	渋谷 周作	平成27(2015)年 4月1日
整形外科学	広島大学 大学院医歯薬保健学研究院	中島 祐子 ※1	平成27(2015)年 4月1日
細胞生物学もしくは発生生物学	山口大学 大学院医学系研究科	原 裕貴	平成27(2015)年 6月1日
水産生物学	広島大学 大学院生物圏科学研究科	若林 香織	平成27(2015)年 7月1日
第 3 期			
家畜繁殖学	広島大学 大学院生物圏科学研究科	星野 由美	平成27(2015)年 11月1日
地球環境計画学	広島大学 大学院工学研究院	Lam Chi Yung	平成27(2015)年 11月1日
老年看護学	広島大学 大学院医歯薬保健学研究院	梶原 弘平	平成28(2016)年 2月1日
家畜繁殖学	徳島大学大学院社会産業理工学研究部	谷原 史倫	平成28(2016)年 2月1日
第 4 期			
果樹園芸学	山口大学 大学院創成科学研究科	金 貞希	平成28(2016)年 4月1日
有機合成薬学	徳島大学 大学院医歯薬学研究部	Karanjit Sangita	平成28(2016)年 4月1日

食品科学	広島大学大学院 (大学院生物圏科学研究科)	Kumrungsee Thanutchaporn	平成28(2016)年 4月1日
スポーツ栄養学	広島大学大学院 (大学院総合科学研究科)	緒形 ひとみ	平成28(2016)年 9月1日
第 5 期			
物性物理	広島大学大学院 (大学院理学研究科)	真木 祥千子 ※2	平成28(2016)年 11月1日
大気海洋循環制御 論	広島大学大学院 (大学院生物圏科学研究科)	岩本 洋子	平成29(2017)年 2月1日
半導体・ナノテクノ ロジー	広島大学大学院 (大学院先端物質科学研究科)	水川 友里	平成29(2017)年 3月1日
文化人類学	広島大学大学院 (大学院総合科学研究科)	栗田 梨津子	平成29(2017)年 3月1日
第 6 期			
メタボローム栄養学	徳島大学 大学院医歯薬学研究 部 栄養科学部門	黒田 雅士	平成29(2017)年 4月1日
生理化学	広島大学大学院 (大学院医歯薬保健学研究科(薬))	小藤 智史	平成29(2017)年 6月1日
放射線防護・線量 評価	広島大学大学院 (原爆放射線医科学研究所)	廣田 誠子	平成29(2017)年 10月1日
第 7 期			
実験心理学	広島大学大学院 (大学院総合科学研究科)	吉本 早苗	平成29(2017)年 10月1日
応用動物遺伝学	広島大学大学院 (大学院生物圏科学研究科)	中村 隼明	平成29(2017)年 10月1日
生物情報工学	広島大学大学院 (大学院先端物質科学研究科)	加藤 節	平成29(2017)年 12月1日
統計学	広島大学大学院 (大学院理学研究科)	伊森 晋平	平成30(2018)年 1月18日
応用化学	山口大学 大学院創成科学研究科工学系学 域	吉田 真明	平成30(2018)年 3月1日
第 8 期			
構造生物学	広島大学大学院 (大学院医歯薬保健学研究科(医))	東浦 彰史	平成30(2018)年 4月1日
生命医療科学	広島大学大学院 (大学院理学研究科)	高橋 治子	平成30(2018)年 4月1日

天文学	広島大学大学院 (宇宙科学センター)	稲見 華恵	平成31(2019)年 2月1日
第 9 期			
ロボット工学	徳島大学 大学院 社会産業理工 学研究部	松井 保子	平成30(2018)年 10月1日
物理化学	広島大学大学院 (大学院理学研究科)	村松 悟	平成30(2018)年 10月1日
生命医療科学	広島大学大学院 (大学院医歯薬保健学研究科(医))	Kasaragod Deepa Kamath	平成30(2018)年 11月1日
構造材料工学	広島大学大学院 (大学院工学研究科)	George Riya Catherine	平成30(2018)年 12月1日
循環環境工学	山口大学大学院創成科学研究科 (工学系学域)	石井 治之	平成31(2019)年 2月1日

※1: 第 2 期採用 TT 教員については、平成 30(2018)年 4 月から企業との共同研究講座の設置により、共同研究講座准教授として自立した研究活動の基盤を構築したため、平成 30 年(2018)3 月末日をもってコンソーシアム助教を退職した。

※2: 第 5 期採用 TT 教員については、平成 30(2018)年 11 月から東北大学講師としてキャリアアップを図り、平成 30(2018)年 10 月末をもってコンソーシアム助教を退職した。

3-3. コンソーシアム教員の育成

3-3-1. 自立的な研究環境確保等について

コンソーシアムを通じた公募により採用された若手研究者は、基本的には各機関のテニュアトラック教員として採用されている。これにより、外部資金雇用の若手研究者等と比較し、各段に安定した身分と共に、研究内容・研究場所の自由を与え、安定性と流動性を同時に満たしている。

テニュアトラック教員として採用されることで、任期中の自立的な環境を得ると共に、業績に応じて将来の安定した職が担保されている。また、PI(Principal Investigator)としての自覚を促し、研究環境を担保することで、外部資金を獲得し自律的に責任をもって研究を遂行することができている。さらに、年俸制で雇用されることで退職金や諸手当等において、異動することの不利益を被ることがない。

また、通常の教員としての取扱いをコンソーシアムとして各機関に強く求めており、例えば広島大学においてコンソーシアム教員は、教育研究基盤経費(校費)の面においても、他の助教と同じ取り扱いを受けている。加えて、本事業からのスタートアップ経費の支出により、真に自立的な研究環境の確保を担保した。

あわせて、コンソーシアム教員には積極的なラボローテーションやクロスアポイントメントを推奨しており、各機関・部局との協力体制のもと、これまで数件のラボローテーションの実施に繋がっている。クロスアポイントメントに関しては、可能性を含めて現在検討中である。また、コンソーシアム教員内での、今後の共同研究に向け相談を開始する事例も発生している。

研究環境状況については、定期的な四半期毎の進捗状況・研究エフォートの報告を受けている他、各年度の評価で、コンソーシアム実行委員会及び事務局が実情を常時把握している。これらを通して、必要に応じて所属する部局長等との相談も実施している。所属内だけでは解決が困難であることも、コンソーシアムが客観的に関わることで、研究エフォートの確保、研究と教育のバランス、本人のキャリア段階に応じた職務の割振り等を目指している。

3-3-2. コンソーシアム教員研修について

コンソーシアム教員は、各大学で通常の助教として採用されるため、各大学で新任教員に対するファカルティーディベロップメント(FD)などを通じて、助教としての基礎力を身に着けることになる。例えば、広島大学では、教育の質保証に資するため、新任教員に対して、教員として働くために知っておくべき基本的知識の獲得やスキル向上の機会を提供することを目的として、平成25(2013)年10月以降新たに着任する教員に対して、新任教員研修プログラムの20時間以上の受講を必須化し、平成26(2014)年4月からプログラムの運用を開始している。広島大学に在籍するコンソーシアム教員は現在まですべてこの対象者であり、随時、新採用教職員研修や大学教育論などを通年で受講している。

加えて、コンソーシアム教員には、産学連携等を通じ幅広い舞台で活躍する能力、異分野と連携する能力が求められている。コンソーシアムとしては、教員の状況をモニタリング(評価)し、必要に応じて情報提供・指導を行い、またFD等と相補的な研修を実施する、無駄の少ない継続的な仕組みの構築を目指している。FD研修に加えて、コンソーシアム教員に求められる能力開発のために、コンソーシアム教員研修を企画・実施している。コンソーシアムの特徴である、複数大学・複数分野の教員が参加することにより、効果が高まるような工夫し、外国人教員も積極的に参加できるよう、基本的には英語でセミナー等を実施している。

また、他の組織が主催するセミナー等についても、その目的が合致するものについてコンソーシアムが共催となり、コンソーシアム教員への多様な研修機会を提供している(以下、事務局・コンソーシアム教員が主催したものに○を、他の組織が主催したものに□を付した)。また、平成28(2016)年度以降開催の研修については、積極的にTV会議システムを用いて、参加しやすい環境を構築している。

平成30(2018)年度

○The9th HIRAKU Consortium Researchers' Conversations

(第24回コンソーシアム教員研修)(平成 30(2018)年6月25日(月))

広島大学の緒形ひとみ助教, 栗田梨津子助教がオーガナイザーを務めた。「科研費申請書の書き方」と題して, 同じコンソーシアム教員の科研費採択経験者(若林香織助教, 梶原弘平助教, 小藤智史助教, 中村隼明助教)から科学研究費補助金の計画調書を作成する際の留意点等について体験談・気付きの情報を提供した。徳島大学・広島大学(東広島・霞)の3地点にTV会議システム配信した。

また, 徳島大学とのTV会議システム配信終了後, 「審査員の立場から見た科研費を獲得するコツ」「科研費を継続して獲得するための戦略」といった視点から, 本学のシニア教員2名によるアドバイスを受けた。

○Vitaeワークショップ: Successful Workshops

(第25回コンソーシアム教員研修)(平成30(2018)年6月28日(木))

英国VitaeのJennifer Allanson氏をファシリテーターとして迎え, 自らワークショップを開発し運営する若手研究者のための半日コースのワークショップを開催した。参加者は, ワークショップの対象設定, 目標設定, 効果, タイムマネジメント, リソース確保, ファシリテーションスキル等の計画と開発の原則について学んだ。

また, 希望者に対しては翌29日(金)~30日(土)のProject Managementワークショップへのファシリテーターとしての参加を促した。

○Vitaeワークショップ: Project Management for Innovation

(第26回コンソーシアム教員研修)(平成30(2018)年6月29日(金)~30日(土))

第25回コンソーシアム教員研修に引き続き, Jennifer Allanson氏(英国Vitae)のファシリテーションのもと, プロジェクト管理プロセスを実践するためのケーススタディを行った。スコーピング, 優先順位付と計画立案, リスク分析, 計画立案と組織化, 関係者の特定, チーム管理, タスクの委任, プロジェクト管理ツール, 予算作成, 進捗状況の監視, 完了とプロジェクトの引渡しなどの項目からケーススタディの内容を選択し, 選択した項目について, 最終的に各チームでプレゼンを行った。

□平成30年度広島大学全学FD「Scopusを活用した論文投稿セミナー」

(第27回コンソーシアム教員研修)(平成30(2018)年11月16日(金))

広島大学 学術室 主催

エルゼビア・ジャパン ソリューション・コンサルタント 高橋昭治氏を講師に迎え, 「英語論文執筆のポイントと研究倫理 ~出版社の立場から~」と題した講演を行った。出版社の立場から, ジャーナル英語論文執筆のポイントと研究倫理に関する内容であった。参加した若手研究者は, 大学全体の研究力強化に向け, 自信を持って投稿し, アクセプトされる可能性を高めるための, 英語論文執筆の基礎を学ぶことが出来た。東広島キャンパス・霞キャンパスそれぞれの会場で開催され, コンソーシアム教員は大学の新任教員として積極的に出席した。

□平成30年度広島大学全学FD「研究マネジメント研修」

(第28回コンソーシアム教員研修)(平成30(2018)年11月26日(月))

広島大学 学術室 主催

大学教員として, 様々な業務と並行してどのように研究をマネジメントするかについて理解し, 学術室で行っている研究活動支援や研究者として順守すべき事柄について学ぶことを目標とした。広島大学吉村幸則副理事(研究企画担当)が「研究室を進めるうえでの『人・金・モノ』」と題して講義を行った。

続いて、島田昌之教授(広島大学DR)が「研究者のマネジメント」、小左古学高度専門職(研究企画室)が「学術室が行う研究活動支援」と題して講義を行った。

後半は全教職員を対象としたセミナー「剽窃防止ソフト iThenticateを活用しよう」が開催され、木戸一浩氏(アシストマイクロ株式会社)がその使用方法についてシミュレーションを交えて講演を行い、研究倫理に対する意識啓発を行った。

○第29回コンソーシアム教員研修

(平成30年度広島大学全学FD「特許セミナー」(平成30(2018)年12月12日(水))

研究活動における特許とは何か、研究成果を特許出願する必要性や重要性、出願する際の注意事項等、基礎科学分野の研究者にこそ必要となる特許に関する基礎知識を習得した。参加者の便宜を図り山口大学・徳島大学・広島大学(東広島・霞)の4地点にTV会議システム配信した。

TV会議システム配信終了後、広島大学の受講者に対しては、本学における学内手続きについて、高橋一平氏(広島大学産学・地域連携センター・知財マネージャー)から説明を受けた。



□平成30年度広島大学全学FD「研究力強化概論」

(第30回コンソーシアム教員研修)(平成30(2018)年12月14日(金))

広島大学 学術室 主催

広島大学の研究力に関する現状を理解し、広島大学が掲げる研究力に関する理念・目標を共有することを目的とした。総合科学技術・イノベーション会議 常勤議員 上山隆大氏から「大学の戦略的ガバナンスとアカデミアの成長：CSTIIにおける大学改革」という題目でこれからの大学経営に関する講演があった。続いて、科学技術・学術政策研究所 科学技術・学術基盤調査研究室長 伊神正貫氏からは「科学研究の俯瞰・ベンチマーク-論文分析から見る広島大学-」として、広島大学の分野の強みや国内外との比較について、様々なデータからの分析結果の報告があった。

○Vitaeワークショップ: Building and leading research collaborations

(第31回コンソーシアム教員研修)(平成31(2019)年2月7日(木))

英国VitaeのJanet Metcalfe氏をファシリテーターとして迎え、コンソーシアムのテニュアトラック教員を中心とする若手研究者に向けてワークショップを開催した。分野や所属組織の枠組みを超えて、効果的に研究プロジェクトを立案し推進することを目的とした。異分野の若手教員及び企業からの参加者を交えてグループを形成し、持続可能な開発目標 SDGsをテーマとした研究助成事業への申請を想定した上で、分野融合プロジェクトの企画立案を行い、それぞれのグループがまとめた計画の発表を行った。



3-3-3. メンター制度など

各コンソーシアム教員には、2人ずつメンターが配置されている。コンソーシアムとして、企業等における研究経験の豊富な方をコンソーシアムメンターとして雇用し、産学連携を目指したコンソーシアムからの立場で、各コンソーシアム教員に助言・指導を行っている(鈴木榮一郎広島大学客員教授)。加えて、各コンソーシアム教員と同じ専門性を持つ教員(通常は所属する部局のシニア教員)を、部局メンターとしている。部局メンターは、分野の特性に応じた指導を行うと共に、身近にいて日々の指導、助言を行う。この、コンソーシアムメンターと部局メンターの二人で両面から助言、指導を行うことで、産学連

携からの視点を培うと同時に、教員としてのキャリア構築に向けた支援を受けることができる。

また、自立的、主体的に研究を実施するためには、競争的資金の獲得は特に欠かすことができない。このため、コンソーシアム実行委員会および事務局から、個々のコンソーシアム教員の専門分野・特性に応じて日本語及び英語により、情報の提供、科研費等の申請書作成支援を実施している。こうした実行委員会・事務局の支援と、部局メンターの指導により着任直後から競争的資金獲得に向けて動くことが可能となっている。科研費獲得についても積極的に取り組んでおり、平成30年度は広島大学所属のコンソーシアム教員のうち5名が、新たに研究代表者として採択された。このうち1名は、AMED平成30年度ナショナルバイオリソースプロジェクトへも採択された。また、本学のコンソーシアム教員4名が、その活発な研究活動について学会賞等を授与されている。

3-4. コンソーシアム教員の評価

コンソーシアム実行委員会が中心となり、コンソーシアムとして毎年の評価を実施している。コンソーシアム教員の着任後1年目、2年目の評価は面談を中心としたものであり、そこで得た情報を元に、より良い研究キャリア構築に向けて、必要に応じて所属(配属)部局への働きかけ、部局メンターとの相談を行っている。

また着任3年後までには中間評価、4年半後までには最終評価を実施し、各教員の所属部局のテニュア移行審査と連携して行った。

◆毎年度評価

1年目評価及び2年目評価は、コンソーシアム教員の現状確認及びモニタリングを主とし、以下に基づき実施している。

評価目的:

コンソーシアム教員の活動状況や研究環境等を把握し、必要に応じて助言を与え、状況を改善する。

評価主体:

「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」コンソーシアム実行委員会に評価部会を設置し、実施する。評価部会は、実行委員長が必要と認める者、2名以上で構成する。

評価方法:

- ① 以下の内容について、被評価者が資料を作成し、提出。
 - 1.原著論文数、研究発表数、共同研究数、外部資金獲得実績、講義数等の定量的な状況報告
 - 2.自己評価(自己アピール) 次年度計画の記述
 - 3.上記1に関連してそれぞれの具体的な情報の記述
- ② ①で提出された資料を元に評価者が各教員の現状を把握。
- ③ 評価部会による被評価者への面談。
- ④ 評価部会は運営協議会に評価結果を提出。

評価結果のフィードバック:

評価結果を被評価者、メンターに通知する。必要に応じて被評価者への新たな支援の検討や、各大学、部局に状況の改善について働きかけを行う。

◆中間評価

コンソーシアム教員に対して、着任から3年後までの間に、中間評価を以下のとおり実施している。教員に求めている情報及び基本的な流れは、毎年度評価とほぼ同様の内容である。平成30(2018)年度は、第2期・第3期採用教員8名について中間評価を実施した。また第4期採用教員2名についても中間評価を実施した。

中間評価の目的:

コンソーシアム教員としての任期の半分を過ぎるにあたり、これまでの教員としての活動状況を元に、コンソーシアムとしての評価を行う。また、各教員のテニユア審査に向けた進捗状況に照らし合わせて、必要に応じて本人に助言を与え、また所属機関及びコンソーシアム等各組織に評価結果を伝えることで、コンソーシアム教員のより良いキャリアに資することを旨とする。

評価の実施:

コンソーシアム実行委員会に評価部会を設置し、実施する。評価部会は、実行委員長が必要と認める者、3名以上で構成する。

評価の方法:

コンソーシアム教員が作成した報告書及び事務局が作成したコンソーシアムでの活動実績等を元に、評価部会において面談を実施し評価を行う。

評価項目は、研究、教育、外部資金獲得、社会貢献、コンソーシアム活動の各項目及び総合評価とする。コンソーシアム活動については、外部との共同研究のほか教員研修への参加状況、その他コンソーシアム事業への積極的な関与等をもとに評価する。

評価結果の取扱い:

コンソーシアム実行委員長が各評価委員の評価結果を取りまとめる。その評価結果を、コンソーシアム教員、各所属組織長及びコンソーシアム運営協議会にそれぞれ通知、報告を行う。

◆最終評価

コンソーシアム教員に対して、着任から4年半後までの間に、最終評価を以下のとおり実施している。教員に求めている情報及び基本的な流れは、毎年度評価とほぼ同様の内容である。平成30(2018)年度は、第1期採用教員4名について最終評価を実施した。

最終評価の目的:

テニユアトラック期間が満了するまでに、コンソーシアム教員の活動状況や研究実績等を評価し、テニユアを付与するかどうかの最終審査を実施する。なお、最終審査の時期は、所属(配属)先の規則等に定められた時期によるものとする。

評価の実施:

コンソーシアム実行委員会に評価部会を設置し、実施する。評価部会は、実行委員長が必要と認める者、3名以上で構成する。

評価の方法:

コンソーシアム教員が作成した報告書及び事務局が作成したコンソーシアムでの活動実績等を元に、評価部会において面談を実施し評価を行う。

評価項目は、研究、教育、外部資金獲得、社会貢献、コンソーシアム活動の各項目及び総合評価とする。コンソーシアム活動については、外部との共同研究のほか教員研修への参加状況、その他コンソーシアム事業への積極的な関与等をもとに評価する。

評価の取扱い:

コンソーシアム実行委員長が各評価委員の評価結果を取りまとめる。その評価結果を、コンソーシアム教員、各所属組織長及びコンソーシアム運営協議会にそれぞれ通知、報告を行う。

4. イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラム

4-1. 長期インターンシップ生の募集

イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラムでは、理工農系、医療系、人文社会系の枠組みにとらわれず、若手研究者が異なる領域にも果敢に挑戦し、社会を変革する意識と情熱を持った人材を育てることを目指している。その一環として、若手研究者が実際の企業や社会の課題解決に貢献しつつ、実践的な能力の養成とキャリアオプションの拡大を図ることを目的として、長期インターンシップ派遣制度を設けている。

コンソーシアムとして共通の公募要領を作成し、運営協議会で承認の後、コンソーシアム全体として公募を開始した。

4-1-1. 第8期（平成30(2018)年度前期）

【募集期間】平成30(2018)年4月1日(日)～平成30(2018)年9月30日(日)

【募集対象】(代表実施機関)広島大学、(共同実施機関)山口大学、徳島大学、(連携機関)岡山大学、島根大学、鳥取大学、愛媛大学、香川大学、高知大学、鳴門教育大学、岐阜大学、国立遺伝学研究所、県立広島大学、高知工科大学、広島市立大学、広島国際大学、立命館大学に在籍中の博士課程(博士課程前期を除く。)の学生あるいは博士課程(博士課程前期を除く。)修了後5年程度以内の任期付研究者。

博士課程後期在籍者・ポスドク対象

つながる、見つかる

有給インターンシップ 希望者募集

給与/宿泊費/交通費等 支援金あり

第8期募集期間 2018年4月1日～9月30日

募集対象: 博士課程後期学生、ポスドク、若手研究者(若手若手20以内)

支援金: 給与(内経費最大15万円)、宿泊費、交通費等

インターンシップの概要: インターンシップ期間 原則2ヵ月以上、派遣先: 企業、研究開発機関(海外を含む)、行政機関

問い合わせ先: 未来を拓く地方協業プラットフォーム(運営協議会事務局)

未来を拓く地方協業プラットフォーム

HIRAKU

本県を拓く地方協業プラットフォーム「HIRAKU」は、広島大学、山口大学、徳島大学を中心に、中国地方を中心とする県内外の協業大学等、企業とより密に連携した若手研究者を支援する。様々なプログラムを通じて、若手人材のキャリアスタート支援や、人材育成・キャリアパス形成を支援します。

博士課程後期・ポスドク研究者の育成

イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラム

学芸アトラクティブによる若手研究者の自立・活動促進プログラム

長期インターンシップ

代表機関: 広島大学 グローバルイノベーションセンター (若手研究者育成担当)

共同実施機関: 山口大学 大学院産学連携研究推進事務局 広島大学 コンソーシアム担当

4-1-2. 第9期（平成30(2018)年度後期）

【募集期間】平成30(2018)年10月1日(月)～平成30(2018)年12月31日(月)

【募集対象】(代表実施機関)広島大学、(共同実施機関)山口大学、徳島大学、(連携機関)岡山大学、島根大学、鳥取大学、愛媛大学、香川大学、高知大学、鳴門教育大学、岐阜大学、国立遺伝学研究所、県立広島大学、高知工科大学、広島市立大学、広島国際大学、立命館大学に在籍中の博士課程(博士課程前期を除く。)の学生あるいは博士課程(博士課程前期を除く。)修了後5年程度以内の任期付研究者。

博士課程
後期在籍者
・ポスドク
対象

つながる、
見つかる

**有給インターンシップ
希望者募集**

給与/宿泊費/交通費等 支援金あり

第9期募集期間 2018年10月1日～12月31日

募集対象

- 博士課程後期学生
- ポスドク
- 若手研究員 (卒業7年以内)

募集人数

- 1名程度 (うち若手は女性優先)

支給金

- 給与(月額最大15万円)、宿泊費、交通費等

インターンシップの種類

- インターンシップ期間: 原則2か月以上、2019年3月31日まで
- 派遣先: 企業、研究開発機関(海外を含む)、行政機関等

問い合わせ先: 「未来を拓く地方協働プラットフォーム」運営協議会事務局
Tel: 082-424-4563 E-mail: hiraku@hiroshima-u.ac.jp
http://home.hiroshima-u.ac.jp/hiraku/younger_internship/

未来を拓く地方協働プラットフォーム
HIRAKU

未来を拓く地方協働プラットフォーム「HIRAKU」は、広島大学、山口大学、徳島大学を中心とした中国地方の府県中心とする日本の国立広島大学、企業等により構成した産学官共同事業体です。産学官プラットフォームを通じて、博士人材のキャリアスタート支援や、人材育成・キャリアパス形成を促進します。

博士課程後期・ポスドク・若手研究者の支援

- インバシジョン型個人赴任の開始支援、赴任プログラム
- 学術・産学官連携
- 博士課程後期学生・ポスドク・若手研究者の共同研究
- 産学官インターンシップ支援
- 企業・産学官連携型共同研究
- 産学官連携型共同研究
- 産学官連携型共同研究
- 産学官連携型共同研究

学術研究者の支援

- 学術研究者の赴任・活動促進プログラム
- 学術研究者の赴任・活動促進プログラム
- 学術研究者の赴任・活動促進プログラム
- 学術研究者の赴任・活動促進プログラム

長期インターンシップ

※キャリアアドバイザー、派遣先の指導員、セブリング、企業側のマネジメント等にインターンシップを実施します。必ず事前連絡にお願いいたします。

代表機関
広島大学 グローバルキャリアデザインセンター (産学官共同研究拠点)
TEL: 082-424-4563 E-mail: vsk@hiroshima-u.ac.jp

共同実施機関
山口大学 大学研究推進機構研究推進部 広島大学 コネクション推進センター
TEL: 083-943-5255 / 083-456-9990

共同実施機関
徳島大学 研究支援・産学官連携センター(リサーチ・アドミニストレーション部門)
TEL: 088-656-9759

4-2. 長期インターンシップの派遣実績

4-2-1. 平成30(2018)年度前期派遣者 ※学年は派遣時

名前	所属	性別	国籍	学年/職名	派遣先	派遣期間	審査状況
1 Tun Ahmad Gazali	山口大学 大学院創科学研究科(工学)	男	インドネシア	学術研究員	(株)ケイズラブ	2018/5/1 ～ 2018/7/4	山口大学(2018/4)
2 Shahira Said Ahmed Mohamed Aly	山口大学 大学院創成科学研究科(工学)	女	エジプト	学術研究員	(株)ヤナギヤ	2018/5/7 ～ 2018/7/13	山口大学(2018/4)
3 Shree Kumar Maharjan	広島大学 大学院国際協力研究科教育文化専攻	男	ネパール	D2	国連訓練調査研究所(ユニタール)広島事務所	2018/5/29 ～ 2018/8/30	広島大学(2018/2)
4 長江 綾子	広島大学 大学院教育学研究科学習開発学講座	女	日本	研究員	Nurture UK (イギリス)	2018/6/20 ～ 2018/8/28	広島大学(2018/3)
5 高宮 一徳	広島大学 大学院理学研究科数理分子生命理学専攻	男	日本	D2	テクノスデータサイエンス・エンジニアリング株式会社	2018/6/18 ～ 2018/8/17	広島大学(2018/4)
6 劉 曉婧	広島大学 大学院文学研究科人文学専攻	女	中国	D2	株式会社日本僑報社	2018/7/31 ～ 2018/10/12	広島大学(2018/2)
7 辻 浩明	広島大学 大学院生物圏科学研究科環境循環系制御学専攻	男	日本	D1	日本水産株式会社 食品分析部	2018/9/3 ～ 2018/11/2	広島大学(2018/5)
8 山谷 浩史	広島大学 グローバルキャリアデザインセンター (大学院理学研究科生物科学専攻)	男	日本	特別研究員	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 次世代作物開発研究センター	2018/9/10 ～ 2018/11/9	広島大学(2018/8)
9 澁谷 九輝	徳島大学 大学院先端技術科学教育部	男	日本	D3	国立研究開発法人理化学研究所(仙台)	2018/9/18 ～ 2018/12/17	徳島大学(2018/8)

4-2-2. 平成30(2018)年度後期派遣者 ※学年は派遣時

	名前	所属		性別	国籍	学年/職名	派遣先	派遣期間	審査状況
1	駱 愛文	広島大学 グローバル キャリアデ ザインセン ター	(大学院先 端物質科 学研究科 半導体集積 科学専攻)	女	中国	特別 研究員	株式会社デンソ ー	2018/10/1 ～ 2018/12/27	広島大学 (2018/3)
2	高山 善光	広島大学	大学院総合 科学研究科 総合科学専 攻	男	日本	研究員	株式会社アカリ ク	2018/10/1 ～ 2018/12/28	広島大学 (2018/8)
3	劉 伝霞	山口大学	大学院東ア ジア研究科	女	中国	D1	山口県立山口 図書館	2018/10/1 ～ 2018/12/27	山口大学 (2018/7)
4	Thakur Gajender	広島大学	大学院文学 研究科 人文学専攻	男	インド	D1	社会福祉法人 ロータス福祉会	2018/10/29 ～ 2018/12/28	広島大学 (2018/5)
5	姜 睿	広島大学 グローバル キャリアデ ザインセン ター	(大学院国 際協力研究 科 開発科学専 攻)	女	中国	特別 研究員	八千代エンジニ ヤリング株式会 社	2018/11/26 ～ 2019/2/22	広島大学 (2018/10)
6	浅野 早知	岐阜大学	連合農学研 究科	女	日本	D1	国立研究開発 法人理化学研 究所(和光)	2018/12/3 ～ 2019/1/31	未来博士 3分間コ ンペティ ション 2018 グロ ーバルチ ャレンジ 賞受賞
7	笹尾 知世	徳島大学	地域創生セ ンター	女	日本	助教	北欧研究所 (デンマーク)	2018/12/29 ～ 2019/3/29	徳島大学 (2018/12)
8	吉川 遼	広島大学	大学院先端 物質科学研 究科 量子物質科 学専攻	男	日本	D2	日本電信電話 株式会社 NT T先端集積デバ イス研究所	2019/1/9 ～ 2019/3/8	広島大学 (2018/9)
9	阿部 夏希	広島大学	大学院教育 学研究科 教育学習科 学専攻	女	日本	D2	株式会社ベネッ セホールディン グス ベネッセ 教育総合研究 所	2019/1/7 ～ 2019/3/8	広島大学 (2018/11)
10	関 俊剛	広島大学	HiSIM 研究 センター	男	中国	研究員	矢崎総業株式 会社 技術研究 所	2019/1/9 ～ 2019/3/15	広島大学 (2018/8)
11	高 偉高	広島大学	大学院文学 研究科 人文学専攻	男	中国	D1	公益財団法人 平山郁夫美術 館	2019/1/15 ～ 2019/3/20	広島大学 (2018/11)
12	小島 玲子	広島大学	大学院医歯 薬保健学研 究科 医歯薬学専 攻	女	日本	D3	ウィーン医科大 学 (オーストリア)	2019/1/15 ～ 2019/3/15	未来博士 3分間コ ンペティ ション 2018 優秀 賞(日本語 部門) 受賞
13	Islam Mohammed Zahidul	島根大学	総合理工学 研究科	男	バング ラデシ ユ	研究員	一般財団法人 こゆ地域づくり 推進機構 教育 事業部	2019/1/18 ～ 2019/3/18	広島大学 (2018/12)

5. 成果報告会

5-1. 第7回成果報告会

【日 時】平成30(2018)年7月23日(月) 13:30~17:40

【会 場】徳島大学(常三島キャンパス) 日垂ホール

【参加者】55名

◆開会挨拶 徳島大学 理事・副学長 佐々木 卓也

◆テニュアトラック教員による着任報告(広島大学, 山口大学)

(1) 伊森 晋平 / 広島大学大学院 助教(大学院理学研究科)

(2) 高橋 治子 / 広島大学大学院 助教(大学院理学研究科)

(3) 東浦 彰史 / 広島大学大学院 助教
(大学院医歯薬保健学研究科)

(4) 吉田 真明 / 山口大学大学院創成科学研究科 准教授

◆未来博士3分間コンペティション学内選考会(徳島大学)

平成30(2018)年9月15日(土)「未来博士3分間コンペティション2018」に向けた徳島大学代表を選考する学内選考会を実施。日本語部門6名, 英語部門7名の博士後期課程学生が, 自身の研究のビジョンと魅力について, スライド一枚を背景にし, 制限時間3分以内のスピーチを行った。

◆長期インターンシップ派遣者による報告(広島大学, 山口大学, 徳島大学の博士後期課程学生)

(1) 佐藤 倫治(広島大学大学院理学研究科 D1)

受入機関 : 大阪国際がんセンター がん対策センター

(2) 閔 智群(広島大学大学院生物圏科学研究科 D2)

受入機関 : 三島食品株式会社

(3) Tehreem Chaudhry(広島大学グローバルキャリアデザインセンター 特別研究員)

受入機関 : ユニタール(国連訓練調査研究所)

(4) 楊 典(山口大学大学院東アジア研究科 D3)

受入機関 : 株式会社イズミ ゆめタウン廿日市店

(5) Shahira Said Ahmed Mohamed Aly(山口大学大学院創成科学研究科(工学) 学術研究員)

受入機関 : 株式会社ヤナギヤ

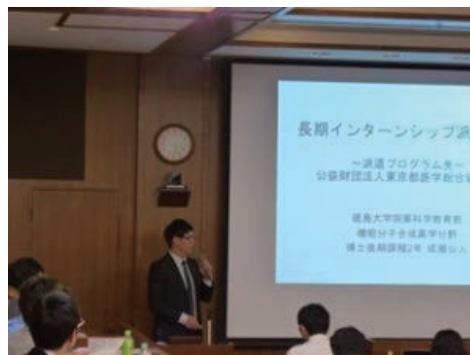
(6) Tun Ahmad Gazali(山口大学大学院創成科学研究科(工学) 学術研究員)

受入機関 : 株式会社ケイズラブ

(7) 成瀬 公人(徳島大学大学院薬科学教育部 D1)

受入機関 : 公益財団法人東京都医学総合研究所

◆閉会挨拶(次回開催校) 広島大学 理事・副学長(大学改革担当) 相田 美砂子



5-2. 第8回成果報告会

【日 時】平成31(2019)年2月9日(土) 9:30~12:15

【会 場】広島大学(東広島キャンパス)
学士会館 2階 レセプションホール

【参加者】50名

- ◆開会挨拶 広島大学 理事・副学長 高田 隆
- ◆HIRAKU事業の概要 広島大学 理事・副学長 相田 美砂子
- ◆テニュアトラック教員による着任報告
 - (1) 松井 保子 / 徳島大学大学院社会産業理工学研究部 助教
 - (2) 村松 悟 / 広島大学大学院 助教(大学院理学研究科)
 - (3) Kasaragod Deepa Kamath / 広島大学大学院 助教
(大学院医歯薬保健学研究科)
 - (4) George Riya Catherine / 広島大学大学院 助教(大学院工学研究科)
- ◆長期インターンシップ実施対象者による報告
長期インターンシップ実施対象者5名による報告, 受入機関の方からの報告。
(代読やビデオメッセージ等も一部含む)
 - (1) 辻 浩明 (広島大学大学院生物圏科学研究科 D1)
受入機関: 日本水産株式会社 食品分析部
 - (2) 劉 曉婧 (広島大学大学院文学研究科 D2)
受入機関: 株式会社日本僑報社
 - (3) 長江 綾子 (広島大学大学院教育学研究科 研究員)
受入機関: Nurture UK
 - (4) 劉 伝霞 (山口大学大学院東アジア研究科 D1)
受入機関: 山口県立山口図書館
 - (5) 駱 愛文 (広島大学グローバルキャリアデザインセンター 特別研究員)
受入機関: 株式会社デンソー
- ◆閉会挨拶(次回開催校) 山口大学 理事・副学長 堀 憲次



5-3. 国際シンポジウム

「世界の最先端事例が示す 研究者養成のこれから」



【日 時】平成31(2019)年2月8日(金) 13:00~17:40

【場 所】広島大学サタケメモリアルホール

【参加者】177名

◆開会式

主催者挨拶 広島大学長 越智 光夫

来賓挨拶 文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課人材政策推進室長 楠目 聖 氏

◆〈第1部〉基調講演

○「次世代に託す」

原山 優子 氏

東北大学名誉教授／前総合科学技術・イノベーション会議 常勤議員

○“NSF Funding and Training Opportunities to Support Future Scientists”

Kellina M Craig-Henderson 氏

米国国立科学財団(NSF)社会科学局副局長／前NSF東京事務所所長

○“Creating an environment for researchers to flourish”

Janet Metcalfe 氏

英国Vitae代表

○“PhDs and Postdocs in Australia—developing a new generation of graduate researchers”

Alastair McEwan 氏

豪州クイーンズランド大学副総長(研究養成担当)／豪州大学院研究評議会実行委員

◆〈第2部〉HIRAKU事業5年間の成果報告

○HIRAKU事業の5年間

広島大学 理事・副学長 相田 美砂子

○テニュアトラック教員の未来への挑戦

広島大学 学術院 助教(大学院文学研究科)

松本 舞

山口大学 大学院創成科学研究科(理学系) 助教

原 裕貴

徳島大学 大学院社会産業理工学研究部 特任助教

谷原 史倫

○長期インターンシップが拓く未来

一般企業に就職したインターンシップ派遣者による発表

山田 朋範 (特許業務法人 前田特許事務所／広島大学大学院理学研究科博士課程修了)

Maskey Bijan (西川ゴム工業株式会社／広島大学大学院国際協力研究科博士課程修了)

谷口 純一 (株式会社東京建設コンサルタント／

徳島大学大学院先端技術科学教育部博士課程修了)

○未来博士3分間コンペティション

過去大会受賞者による発表

Hossain Md Shahadat (愛媛大学(香川大学配属)／2018年 最優秀賞受賞者)

銭谷 宙 (広島大学／2017年 JSW日本製鋼所賞受賞者)

◆〈第3部〉 パネルディスカッション

基調講演講師の方々によるパネルディスカッション。若手研究者の育成のために、今何が必要なのか、実践から生まれた成果について検証しながら探り、日本の若手研究者養成の今後について、グローバルな視点から議論した。

◆閉会式

閉会挨拶 徳島大学 理事・副学長 佐々木 卓也



6. DC や PD が積極的に関与する取組

6-1. 未来博士3分間コンペティション2018

大学院博士課程後期の学生が、3分間の限られた時間内に自身の研究ビジョンや魅力を、中学生、高校生を含む一般聴衆にもわかるように伝える。学生のコミュニケーション力の向上を図ると同時に、社会における博士人材と博士研究に対する肯定的な理解の向上につなげる。

【日 時】平成30(2018)年9月15日(土) 10:30~17:15

【場 所】東広島芸術文化ホール くらら 大ホール

【参加者】280名



10:30 開会式

開会挨拶:広島大学 理事・副学長 高田 隆 (社会産学連携担当)

10:35 未来を拓く!おもしろ研究最前線

「HIRAKUの取組」 広島大学 理事・副学長(大学改革担当) 相田 美砂子

「お肉だけではない,ブタの魅力」 徳島大学 大学院社会産業理工学研究部
特任助教 谷原 史倫

「いつやるの?“いま”じゃないかも?」 広島大学学術院 助教(大学院総合科学研究科)
緒形 ひとみ

11:00 基調スピーチ「Unleash your potential 可能性を解き放て!」

スピーカー: 増井 玲子(2016年国際スピーチコンテスト日本代表)

11:15 3分間で未来を拓く!プレゼンテーション(英語部門)

12:15 ランチ休憩

13:00 特別セッション「西日本豪雨災害からの教訓」

～現地訪問とデータから読み解く,災害の過去,現在,未来～

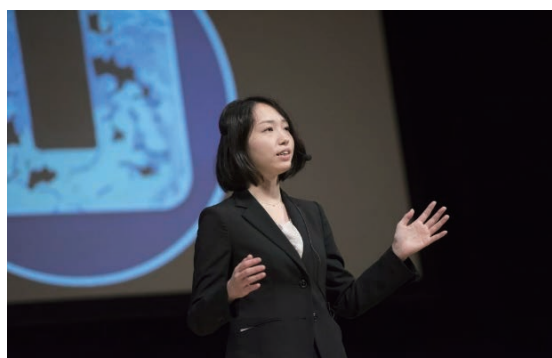
13:50 3分間で未来を拓く!プレゼンテーション(日本語部門)

14:50 [同時開催]1枚で未来を拓く!ポスターセッション

15:50 スピーチ・ワークショップ by トーストマスターズ

16:30 審査発表・表彰

17:00 閉会式





◆審査結果

賞名	受賞者		タイトル
優秀賞	愛媛大学 (香川大学配属)	Hossain Md Shahadat	How Can We Protect Crop Plants from Multiple Stresses?
グローバルチャレンジ賞	岐阜大学	浅野 早知	見えない分子が「一個ずつ」見える！ ～細胞の顔「糖鎖」の実体を探る～
オーディエンス賞 (英語部門)	愛媛大学 (香川大学配属)	Hossain Md Shahadat	How Can We Protect Crop Plants from Multiple Stresses?
オーディエンス賞 (日本語部門)	山口大学	田代 啓悟	太陽と一緒に地球をお掃除！
優秀賞 (英語部門)	徳島大学	Khurel Ochir Tsendsuren	Role of a cell-building protein (p21) on osteoarthritis of the Jaw Joints
優秀賞 (日本語部門)	広島大学	小島 玲子	チタンで骨を創る
企業賞/大塚賞	岐阜大学	尾関 智恵	小さな親切を集めるエージェント: 向社会的行動の要因を探る
企業賞/協和発酵バイオ賞	岐阜大学	Yolani Syaputri	Bacteriocin (protein) of Lactobacillus plantarum from Fermented Tea
企業賞/シュプリンガー・ネイチャー賞	愛媛大学 (香川大学配属)	Hossain Md Shahadat	How Can We Protect Crop Plants from Multiple Stresses?
企業賞/中外テクノス賞	広島大学	小島 玲子	チタンで骨を創る
企業賞/戸田工業賞	山口大学	田代 啓悟	太陽と一緒に地球をお掃除！
企業賞/IBM賞	広島大学	Tatiana Sherstobitova	All Your Data on One Molecule?
企業賞/JSW日本製鋼所賞	愛媛大学	塩屋 亮平	サメが作る特殊な抗体～その利用法の開発～
企業賞/マツダ賞	岡山大学	福間 早紀	人工細胞膜を, 環境に優しい分離膜にしよう!

6-2. 第3回課題提案型ワークショップ

若手研究者と社会をつなぎ、企業や地域社会の課題解決に貢献するためのマッチング事業の一環として開催した。社会が抱えている実際の課題やニーズを理解し、それらの課題解決のための種を一緒に探していくワークショップ。課題解決に向けたプロセスの中で、自分の専門性にとらわれない柔軟な発想力と応用力を身につけることを目的とし、企業3社からのテーマに基づき、計6回のワークショップを通じて解決策をチームで練り上げ、最終回にその成果を公開発表した。広島大学大学院共通授業科目「イノベーション演習」の一環として行い、履修生5名および特別研究員(ポスドク)2名、連携大学からの聴講生1名が、10名前後の企業・団体参加者と共にワークショップを進めた。



◆課題提案

1. 「どのように、ある地域で“屋上”を活用するか」 課題提案企業 株式会社ラックス
2. 「どのように、“住み続けたい”と思う“地域”を下見に作るか」
課題提案企業 株式会社プランニングサプライ
3. 「どのように、西条酒蔵通りの入口で“窓口”になれるか」
課題提案企業 株式会社小泉新聞舗

◆スケジュール

第1回	課題提案と研究紹介	10月10日(水) 13:00~17:05 (会場:広島大学東広島キャンパス)
第2回	企業見学と現場訪問	10月17日(水) 13:00~17:50 (会場:佐伯工業団地)
第3回	検討ワークショップ	10月31日(水) 13:00~17:05 (会場:広島大学東広島キャンパス)
第4回	検討ワークショップ	11月14日(水) 13:00~17:05 (会場:広島大学東広島キャンパス)
第5回	検討ワークショップ	11月28日(水) 13:00~17:05 (会場:広島大学東広島キャンパス)
第6回	成果発表会(*)	12月12日(水) 14:00~17:05

(*)第6回成果発表会は公開開催された。詳細は以下の通り。

【日時】平成30(2018)年12月12日(水)14:00~17:05

【場所】広島大学東広島キャンパス

中央図書館1F ライブラリーホール

【参加者】計 42名

(履修生8名, 提案企業9名, 一般8名, 学内17名)

◆プログラム

- 14:00 開会挨拶
- 14:05 「イノベーション演習」を振り返って
- 14:15 提案企業&提案課題紹介
- 14:40 フィールドワーク
- 15:00 未来洞察



15:30 企画発表
16:10 パネルトーク
16:40 全体総評
16:55 閉会挨拶

◆成果発表の内容

グループ 1: 株式会社ラックスおよび顧客社屋の屋上見学, ヒアリングを通して得た気づきから, 地域の人口, 環境, 経済について未来洞察を行い, 具体的なシナリオを3種類作成した。それらを基に, 高齢者が働くことができる場所, 介護療養施設で一人暮らしをする高齢者が活用できるデイケアの場所, 大気汚染が進んだ場合の若年夫婦が活用する場所, というパターンごとに屋上の活用法について提案した。提案企業からは, 「非常によくデータを調べて感心した。一方, 学生ならではのぶっ飛んだアイデアもほしかった。ただ, これまで自分たちが思いつきもしなかった『若年夫婦』などのキーワードが出てきて非常に参考になった。地域という枠組みにこだわらず, 世界の中の地域という位置づけで, 例えばSDGsに関連づけて検討してみてもよかったのでは」との講評を得た。



グループ 2: 株式会社プランニングサプライが運営するオープンスペース“Ripple”でのフィールドワークを足掛かりに, 10年後の下見地域に外国人が増加した場合と減少した場合という両極端なシナリオを立て, それぞれに対応するオープンスペースの活用法について提案した。前者については, 留学生の履修生自身の体験から, 留学生向けの情報提供サービスや異文化交流イベントの開催場所としての活用を提案, 後者については, 学生が地域の子供たちと関わりを持てる環境づくりを目指し, 高い専門性を持つ学生, 院生, 研究員, 教授ならではの実験教室や歴史, 文化教室を, 各年代の子供たちに向けて開講することを提案した。提案企業からは, 「両極端なシナリオを基に提案を立ててもらったが, 実際にはどちらも挑戦する価値のあるアイデアだと思う。ここから実践するのは自分たちなので, 参考にしていきたい。」との講評を得た。その結果, 提案企業との継続的な地域活性プロジェクトに繋がっている。

グループ 3: 株式会社小泉新聞舗の共有スペース「小泉サロン」でヒアリングした歴史, 経営陣の想い, 今後の新聞業界が抱えるリスクなどを基に, 綿密なPESTLE分析, ステークホルダー分析を行い, 地元コミュニティへの情報支援を行うための商品, サービス強化を提案した。その提案には, SNSやスマートテクノロジーを活用した商品・サービス・広報等の強化に加え, 配達サービスを活用した資産活用, そしてイベントスペースの最大活用化が挙げられた。提案企業からは「これまでやらなければと思っていたながら見てこられなかった部分を色々と指摘してもらった。商品やサービスの活用などは, 専門スタッフを雇用するなどして前向きに検討したい。配達サービスの詳細案などは非常に面白い。今すぐにも地元で協力者を得られると思われる提案もあるので, 早速検討したい。」との講評を得た。



6-3. ナノ・バイオ・インフォ化学シンポジウム

(The 15th Nano Bio Info Chemistry Symposium)

融合領域研究の英語による口頭発表で構成するナノ・バイオ・インフォ化学シンポジウムを開催している。

英語による口頭発表をした学生のうち、一般参加者の投票により、The Best Student Presentation Award と Student Award を授与している。

【日 時】平成 30(2018)年 12 月 8 日(土)

【場 所】広島大学学生会館レセプションホール(東広島キャンパス)

【一般講演】14 件(内 : 学生の発表 13)

【参加者】69 名(学生 48 名, 一般 21 名)

【学生賞】参加者(学生は除く)の投票により, 上位 2 名に The Best Student Presentation Award が, 2 名に Student Award が授与された。

The Best Student Presentation Award (2 名)

Katsuya Ichihashi(D3)

“Development of a molecular transistor operated by solid-state ion exchange”

Shuhei Maeda (M1)

“Synthesis and Reactivity of Phosphorus Compounds with a Tridentate Ligand”

Student Award (2 名)

Shogo Tendo (M2)

“Nascent vibrational energy distributions of $S_2(X^3\Sigma g^-)$ generated in the $S(^1D) + OCS$ reaction”

Shiho Terada (M2)

“Optical properties of silicon quantum dots synthesized from rice husks”



7. コンソーシアム人材セミナー

主に企業の研究開発部署で活躍している方々や人事担当者から、最新の研究開発動向や人材活用の状況を学ぶことを目的としている。

	開催地	日程	講演テーマ	講師
第53回	広島	平成30(2018)年 4月24日(火) 14:35~16:05	逆境を愉快地に生きる	(株)デンソー 価値創造プロジェクト(兼) デザイン部 担当部長 技師 伊藤 義人 氏
第54回	広島	平成30(2018)年 5月8日(火) 14:35~16:05	経済産業省スマートホーム実証 における当社の取り組み	大和ハウス工業(株) 総合技術研究所 主任研究員 吉田 博之 氏
第55回	広島	平成30(2018)年 5月22日(火) 14:35~16:05	福島原発の廃炉に向けて中外 テクノスの専門・技術サービス	中外テクノス(株) 原子力保全システム開 発部 企画室課長 技術士(機械部門) 小林 強志 氏
第56回	広島	平成30(2018)年 6月5日(火) 14:35~16:05	国際化社会での活躍~グローバ ルマーケットで広がるキャリア~	Business Planning and Process Management Vice President Micron Technology, Inc Karen Metz 氏
第57回	広島	平成30(2018)年 6月19日(火) 14:35~16:05	三島食品における研究・開発業 務の事例紹介	三島食品(株) 研究所 中村 聡 氏
第58回	広島	平成30(2018)年 7月3日(火) 14:35~16:05	人生の大半を過ごす会社生活を 充実させるには	ハリマ化成(株) 常務取締役, 研究開発部 門統括, 研究開発カンパニー長 西岡 務 氏
第59回	広島	平成30(2018)年 7月17日(火) 14:35~16:05	ヒトを彩るサイエンス	(株)資生堂 GIC 統括運営部マネージャー 石舘 周三 氏
第60回	広島	平成30(2018)年 7月31日(火) 14:35~16:05	やりたいこと, みつけよう。	日本電信電話(株) 研究企画部門 R&D 推進担当 担当部長 兵頭 守 氏
第61回	広島	平成30(2018)年 10月9日(火) 14:35~16:05	鉄鋼~究極のテクノロジー~	新日鐵住金(株) 技術開発本部 先端技 術研究所 基盤メタラジー研究部 上席主 幹研究員 米村 光治 氏
第62回	広島	平成30(2018)年 10月23日(火) 14:35~16:05	研究職ではない生き方を見つけ たデータサイエンティスト達から のアドバイス	テクノスデータサイエンス・エンジニアリング (株) 第2 データサイエンスグループ 第2 チーム チーム長 和田 吉満 氏
第63回	広島	平成30(2018)年 11月6日(火) 14:35~16:05	グローバル化した製薬企業にお ける理系研究者のキャリアパス	武田薬品工業(株) 薬剤安全性研究所 主席研究員 兼 再生医療ユニット 主席 研究員 篠澤 忠紘 氏

第64回	広島	平成30(2018)年 11月20日(火) 14:35~16:05	戦略コンサルティングと思考力	(株)野村総合研究所 コンサルティング事業本部 プリンシパル 上席コンサルタント 木下 貴史 氏
第65回	広島	平成30(2018)年 12月4日(火) 14:35~16:05	地方シンクタンクの業務紹介～ 地方でできること、やるべきこと～	(公財)中国地域創造研究センター 調査・ 研究部 地域づくりグループ長/主席研究 員 吉原 俊朗 氏
第66回	広島	平成30(2018)年 12月18日(火) 14:35~16:05	研究者から学術論文誌編集者 へ	シュプリンガー・ネイチャー Senior Editor, Nature Photonics 堀内 典明 氏
第67回	広島	平成31(2019)年 1月15日(火) 14:35~16:05	スペシャリスト&ジェネラリスト 審 査官の魅力とは？	経済産業省 特許庁 審査第四部伝送シ ステム(移動体通信システム)審査官 行武 哲太郎 氏
第68回	広島	平成31(2019)年 1月29日(火) 14:35~16:05	文部科学省の業務と私の経験	文部科学省 研究開発局 原子力課 廃炉 技術開発企画官 井出 太郎 氏
第69回	山口	平成30(2018)年 7月18日(水) 14:30~16:00	グローバル化時代の研究者・技 術者ー技術系社員の海外駐在 経験談	安川電機みらい館 岡林 千夫 氏
第70回	徳島	平成30(2018)年 8月10日(金) 18:00~19:30	規模の大小を問わず、お客様を 驚かす、売れる商品・サービスの づくり方や、お客様を喜ばし続け る商売人としての考え方、アクシ ョンとは！	(株)ウェイビー 伊藤 健太 氏
第71回	徳島	平成30(2018)年 11月14日(金) 18:00~19:30	変化の時代における融合コスト マネジメント	甲南大学 学長・経営学部教授 長坂 悦敬 氏
第72回	山口	平成31(2019)年 1月22日(火) 16:10~17:40	地球深部探査船「ちきゅう」の挑 戦	元国立研究開発法人 海洋研究開発機構 (JAMSTEC)担当役 小林 照明 氏

◆第53回コンソーシアム人材セミナー（広島）

【日 時】平成30(2018)年4月24日(火) 14:35~16:05

【場 所】広島大学 本部棟2階会議室(東広島キャンパス)

【参加者】50名

【講演要旨】企業への入社試験ではしばしば専門性のアピールが求められ、そしてその専門性がいかに優れたものであるかで評価されることも多いと思う。しかし実際に仕事で活躍していくには、専門性以外の事でも多くの困難を乗り越える必要がある。特に大手企業においては、既存業務に最適化された仕組みがしっかり出来上がっていることが多く、それが返って新しい活動やイノベーションの邪魔になっている事例も多々ある。そうした困難な環境を乗り越えるために、少しでも私の経験談や考えが役に立てばと思っています。

開催案内
開催日時: 平成30年4月24日(火) 14:35~16:05
場 所: 本部棟2階会議室
参加者数: 50名程度
申込方法: 申込書(別紙)を提出
申込締切: 平成30年4月17日(水) 17:00迄

「高度イノベーション人材のためのキャリアデザイン！」

DENSO **逆境を愉快地に生きる**

講演要旨
企業への入社試験ではしばしば専門性のアピールが求められる。そしてその専門性の優れたものであるかや評価されることも多い。しかし実際に仕事で活躍していくには、専門性以外の事でも多くの困難を乗り越える必要がある。特に大手企業においては、既存業務に最適化された仕組みがしっかり出来上がっていることが多く、それが返って新しい活動やイノベーションの邪魔になっている事例も多々ある。そうした困難な環境を乗り越えるために、少しでも私の経験談や考えが役に立てばと思っています。

講師プロフィール
【講師】
徳島大学 学長・経営学部教授 長坂 悦敬 氏
株式会社デンソー 人事部 部長 伊藤 健太 氏
株式会社デンソー 人事部 部長 伊藤 健太 氏
株式会社デンソー 人事部 部長 伊藤 健太 氏

平成30年4月24日(火) 14:35~16:05
本部棟2階会議室
申込書(別紙)を提出
申込締切: 平成30年4月17日(水) 17:00迄
広島大学コンソーシアムキャリアデザインセンター(広島 東区)
TEL: 082-424-4084 / E-mail: wakatsuki@hiraoku.hiroku.ac.jp

◆第54回コンソーシアム人材セミナー（広島）

【日 時】平成30(2018)年5月8日(火) 14:35~16:05

【場 所】広島大学 本部棟2階会議室(東広島キャンパス)

【参加者】33名

【講演要旨】大和ハウス工業は1955年「建築の工業化」を企業理念に創業し、プレハブ住宅の原点「ミゼットハウス」を開発。以降「人・街・暮らしの価値共創グループ」として多くの人の役に立ち喜んで頂ける商品開発やサービス提供に努めています。スマートハウス分野においても1995年の商用インターネット黎明期より研究開発に着手、ユーザーの好みやライフスタイルに合わせて生活空間をカスタマイズできる住宅の開発に取り組んでいます。その一環として平成29年度の経済産業省スマートホーム実証に参加、IoT機器やWebサービス、住宅設備機器をシームレスに扱える情報基盤構築を行いました。本講演では構築に活用した技術や、開発した基盤を利用したサービスの可能性について、具体例を交えて紹介します。

◆第55回コンソーシアム人材セミナー（広島）

【日 時】平成30(2018)年5月22日(火) 14:35~16:05

【場 所】広島大学 本部棟2階会議室(東広島キャンパス)

【参加者】41名

【講演要旨】中外テクノスは独自の専門・技術サービスをもって、多方面（環境、産業、インフラ等）のお客様とともに社会問題の解決に努めています。本講演では私が携わる「福島第一原発の廃炉に向けての開発業務」をご紹介します。「人類が経験したことのない未知なる状況にどう対処していくか」実際の開発内容に加え、その背景技術者としての想いをお話しさせていただきます。また、研究者と技術者の違いについてもお話しさせていただき、みなさまがキャリアデザインを行う上で参考にしていただければと思います。

◆第56回コンソーシアム人材セミナー（広島）

【日 時】平成30(2018)年6月5日(火) 14:35~16:05

【場 所】広島大学 ライブラリーホール(中央図書館)

【参加者】92名

【講演要旨】伝統ある日本では優れた企業が沢山創出されてきました。そのため、世界の変化の中にあっても一定の安定性を維持できている企業や業界も多くあると思います。一方で、このように伝統ある日本においても“グローバル化”というキーワードが以前から注目され、その重要性が語られ続けています。ところが、重要視されているはずのグローバル化の状態を日本の中で本当の意味で体験できる機会は、案外少ないのではないのでしょうか。あるいは“多様性”という視点ではいかがでしょうか。本講演では、発表者の体験を交えて、グローバルな世界における活躍の機会や広がりを少しでも多くの皆さんに共有し、いかに多くのOpportunityがグローバルマーケットに広がっているのか、ということを感じていただくことにより、皆さんのこれからの現実的な選択として活用いただければと思います。

開催案内
履修登録以外
参加者歓迎

大学院共通授業科目
「高度イノベーション人材のためのキャリアデザインI」

経済産業省スマートホーム実証における当社の取り組み

講演要旨
大和ハウス工業は1955年「建築の工業化」を企業理念に創業し、プレハブ住宅の原点「ミゼットハウス」を開発。以降「人・街・暮らしの価値共創グループ」として多くの人の役に立ち喜んで頂ける商品開発やサービス提供に努めています。スマートハウス分野においても1995年の商用インターネット黎明期より研究開発に着手、ユーザーの好みやライフスタイルに合わせて生活空間をカスタマイズできる住宅の開発に取り組んでいます。その一環として平成29年度の経済産業省スマートホーム実証に参加、IoT機器やWebサービス、住宅設備機器をシームレスに扱える情報基盤構築を行いました。本講演では構築に活用した技術や、開発した基盤を利用したサービスの可能性について、具体例を交えて紹介します。

講師プロフィール
【学歴】
1995年 広島大学工学部生産工学科卒業
1999年 大和ハウス工業株式会社入社 建設現場にて建設現場の事務職に就任
2009年 広島大学大学院工学研究科デザイン工学専攻修士課程修了
2010年 広島大学大学院工学研究科デザイン工学専攻博士課程修了
2014年 現在 株式会社大和ハウス工業スマートハウス事業部副部長、副部長に就任

講師 吉野 博之 氏
大和ハウス工業株式会社
スマートハウス事業部副部長

日時 平成30年5月8日(火) 14:35~16:05
会場 本部棟2階 会議室
申込 申込書(学内)または、ポスティング、教職員の間接請求も可能です。
申込締切 5月7日(金) 17:00
申込方法 (学外参加者以外) 詳細は下記URLからダウンロードしてください。
お問い合わせ先 広島大学グローバルキャリアデザインセンター(担当: 藤原、鶴見)
TEL: 082-424-4384 / E-mail: nakabayashi@lib.hiroshima-u.ac.jp

開催案内
履修登録以外
参加者歓迎

大学院共通授業科目
「高度イノベーション人材のためのキャリアデザインI」

**福島原発の廃炉に向けて
中外テクノスの専門・技術サービス**

講演要旨
中外テクノスは独自の専門・技術サービスをもって、多方面（環境、産業、インフラ等）のお客様とともに社会問題の解決に努めています。本講演では私が携わる「福島第一原発の廃炉に向けての開発業務」をご紹介します。「人類が経験したことのない未知なる状況にどう対処していくか」実際の開発内容に加え、その背景技術者としての想いをお話しさせていただきます。また、研究者と技術者の違いについてもお話しさせていただき、みなさまがキャリアデザインを行う上で参考にしていただければと思います。

講師プロフィール
【学歴】
平成13年(中) 広島大学工学部 第一建設系卒業
【職歴】
平成13年(中) 中外テクノス株式会社入社
現在 福島第一原子力発電所
平成14年(中) 電機システム事業本部 産業開発システム部
平成15年(中) 電子力開発システム開発部
平成17年(中) 電子力開発システム開発部 企画課課長

Smart Life Engineering
中外テクノス
講師 小林 謙志 氏
中外テクノス株式会社
産業開発システム部 課長

日時 平成30年5月22日(火) 14:35~16:05
会場 本部棟2階 会議室
申込 申込書(学内)の学生、ポスティング、教職員の間接請求も可能です。
申込締切 5月21日(金) 17:00
申込方法 (学外参加者以外) 1.「申込書」、2.名簿、3.用紙、4.学年(職名)を併せて、下記までメールにてお申し込みください。
お問い合わせ先 広島大学グローバルキャリアデザインセンター(担当: 藤原、鶴見)
TEL: 082-424-4384 / E-mail: nakabayashi@lib.hiroshima-u.ac.jp

開催案内
履修登録以外
参加者歓迎

大学院共通授業科目
「高度イノベーション人材のためのキャリアデザインI」

**国際化社会での活躍
～グローバルマーケットで広がるキャリア～**

講師 Karen Metz 氏
Business Planning and Project Management 1st Assistant
Business Development, Inc.

講師プロフィール
Karen Metz氏は、国際貿易の専門家として、米国で20年以上の経験を持つグローバルビジネスの専門家です。彼女は、国際貿易の専門家として、米国で20年以上の経験を持つグローバルビジネスの専門家です。彼女は、国際貿易の専門家として、米国で20年以上の経験を持つグローバルビジネスの専門家です。

講演要旨
伝統ある日本では優れた企業が沢山創出されてきました。そのため、世界の変化の中にあっても一定の安定性を維持できている企業や業界も多くあると思います。一方で、このように伝統ある日本においても“グローバル化”というキーワードが以前から注目され、その重要性が語られ続けています。ところが、重要視されているはずのグローバル化の状態を日本の中で本当の意味で体験できる機会は、案外少ないのではないのでしょうか。あるいは“多様性”という視点ではいかがでしょうか。本講演では、発表者の体験を交えて、グローバルな世界における活躍の機会や広がりを少しでも多くの皆さんに共有し、いかに多くのOpportunityがグローバルマーケットに広がっているのか、ということを感じていただくことにより、皆さんのこれからの現実的な選択として活用いただければと思います。

日時 平成30年6月5日(火) 14:35~16:05
会場 広島大学 ライブラリーホール(中央図書館)
申込 申込書(学内)または、ポスティング、教職員の間接請求も可能です。
申込締切 5月31日(金) 17:00
申込方法 (学外参加者以外) 詳細は下記URLからダウンロードしてください。
お問い合わせ先 広島大学グローバルキャリアデザインセンター(担当: 藤原、鶴見)
TEL: 082-424-4384 / E-mail: nakabayashi@lib.hiroshima-u.ac.jp

◆第57回コンソーシアム人材セミナー（広島）

【日 時】平成30(2018)年6月19日(火) 14:35~16:05
 【場 所】広島大学 本部棟2階会議室(東広島キャンパス)
 【参加者】52名

【講演要旨】三島食品では「良い商品を良い売り方で」を基本方針に掲げ、自然を尊び自然に学び自然に順ずる心持ちを経営の根本に据えて食品づくりに努めています。お客様のお声をもとに、おいしく楽しく、そして安心してお召し上がりいただくために良い素材を選び、その持ち味を十分に生かす食品の開発を心がけています。本講演では、当社の研究・開発における実際の業務や開発事例、大学院を出て入社された方が現在取り組んでいる業務、当社が求める人物像などについて紹介させていただきます。

◆第58回コンソーシアム人材セミナー（広島）

【日 時】平成30(2018)年7月3日(火) 14:35~16:05
 【場 所】広島大学 理学部E002講義室(東広島キャンパス)
 【参加者】101名

【講演要旨】20代から60代まで、人生の長い時間を企業で仕事をするということは、人生の大半をそこで過ごすということになります。従って、就職をし、仕事をするのが愉しくなければ、人生の後悔に繋がります。その時間を充実させるために、どういったマインドで臨めば、たとえきつい時間があったとしても、愉しく、面白く人生を過ごすことが出来るのか？そこが重要です。日東電工に入社し、ハリマ化成に転職した私の様々な経験が、皆さんのこれからの人生に少しでも役に立てばと思っております。

◆第59回コンソーシアム人材セミナー（広島）

【日 時】平成30(2018)年7月17日(火) 14:35~16:05
 【場 所】広島大学 本部棟4階会議室(東広島キャンパス)
 【参加者】65名

【講演要旨】医薬品が病気を治す、すなわちマイナスの状態をゼロに近づけるものだとすれば、化粧品はヒトの外観を彩ることで、プラスの状態を作り出すものと言えます。さらに私たちは、外観だけではなくヒトの内面、心をも彩ることを目指しており、またその方法には化粧品にとどまらず様々なものがあります。本講演では、そのような「ヒトを彩る」ことを使命とする資生堂という企業と、その活動を支えるサイエンス=研究開発についてお話します。また資生堂の研究開発でのキャリアについても、講師自身の経験も踏まえてご紹介しようと思えます。

◆第60回コンソーシアム人材セミナー（広島）

【日 時】平成30(2018)年7月31日(火) 14:35~16:05

【場 所】広島大学 理学部E102講義室(東広島キャンパス)

【参加者】44名

【講演要旨】わが国が産学官連携によって実現を目指す「Society5.0」には情報通信技術(ICT)が不可欠です。これからのICT業界は、様々な分野や産業との融合によって社会課題の解決や経済成長に貢献することが使命であり、NTTもパートナー様とのco-innovationによって新たな価値を創造する「B2B2X」を通じてその一助となるべく、基礎から応用まで幅広い研究開発を進めています。本講演ではICTを取り巻く環境やNTTにおける研究開発事例等をご紹介しますとともに、広島大学で学んだ船舶海洋工学から全く異なる業界に飛び込んだからこそ得られた知見や、内閣府出向での経験等も含め、大学改革への期待や後輩のみなさんに期待する人材像をいろいろな視点からざっくりとお話させていただきます。

◆第61回コンソーシアム人材セミナー（広島）

【日 時】平成30(2018)年10月9日(火) 14:35~16:05

【場 所】広島大学 理学部E104講義室(東広島キャンパス)

【参加者】42名

【講演要旨】世界は鉄でできている。鉄は地球上の最大総質量の素材であり圧倒的な市場規模を持つ。自動車、船舶、プラント、構造物など社会基盤を支える鉄鋼材料は精緻な組織制御で様々な性質が付与され、均質に大量生産される。また何度でもリサイクル可能、まさに「究極のテクノロジー」である。現在の鉄は理論強度の半分で未だ可能性も秘めている。この性質が現れる理由を原子レベルから考え、基盤研究を進めている。本講演では、総合力世界No.1を目指す新日鐵住金と、鉄鋼を支える基盤研究について国家プロジェクトの経験も踏まえてお話しします。また企業の研究開発でのキャリアや人材育成についても、関西物理系採用リーダーとしてご紹介します。

◆第62回コンソーシアム人材セミナー（広島）

【日 時】平成30(2018)年10月23日(火) 14:35~16:05

【場 所】理学部A017講義室(東広島キャンパス)

【参加者】49名

【講演要旨】テクノスデータサイエンス・エンジニアリング株式会社は、お客様企業内にあるビッグデータを活用し、価値に変えるお手伝いをしている「データサイエンスに特化した会社」です。本講演では、データサイエンティストの仕事内容をご紹介しますとともに、社内に多数在籍している博士課程出身者に実施したアンケートを通じて、博士の価値とはどこにあるのか、研究職以外で博士人材が社会に求められるニーズとは何か、博士人材は何を考えたどのように就職活動をしていくべきかをお話します。

◆第63回コンソーシアム人材セミナー（広島）

【日 時】平成30(2018)年11月6日(火) 14:35~16:05

【場 所】広島大学 理学部E209講義室（東広島キャンパス）

【参加者】45名

【講演要旨】近年、武田薬品工業は今後の収益確保や将来的な成長を見据えて、グローバル化へと舵を切りました。その中で、いかに患者さんを中心に考え、医薬品開発を進めるべきか、研究者一人ひとりの現場での活躍が試されています。本講演では、自身のキャリアパスと現在の業務を一例として紹介するとともに、アカデミアと企業研究者の役割の違いとグローバル化による変化についてお話させていただきます。さらに、アカデミアにおいてどのようなことにチャレンジし、どのようなマインドでキャリアを積み重ねることが企業に参画した後に大切になるかについて、皆さんと議論したいと思います。

◆第64回コンソーシアム人材セミナー（広島）

【日 時】平成30(2018)年11月20日(火) 14:35~16:05

【場 所】広島大学 本部棟2階会議室（東広島キャンパス）

【参加者】53名

【講演要旨】戦略コンサルティングは、企業の成長の方向性を定め、そこに至る方法、その際の課題・解決方法、競合との差異化といったことを考える支援をする職業です。私は博士課程を修了してコンサルティングの世界に入り、かなりの時間をそこで過ごしてきました。大学院で培われた論理的思考力と、図らずも手に入れた大局観から考えるという思考パターンは、戦略を扱う上で役に立っていますが、コンサルタントとして振舞うにはそれ以外にも身につけなければならない力もあります。近年、「実社会で問題解決できる博士」という学術界から聞こえてきますが、実社会で私自身が経験によって得たものを皆さんと共有し、企業・社会での活躍を目指す方にお役に立てる話ができたと思います。

◆第65回コンソーシアム人材セミナー（広島）

【日 時】平成30(2018)年12月4日(火) 14:35~16:05

【場 所】広島大学 理学部E102講義室（東広島キャンパス）

【参加者】40名

【講演要旨】地元密着型のシンクタンクの存在意義は何でしょうか。地方でThinkすべきことは何かあるのでしょうか。講演の前半は地方シンクタンクの業務紹介として、調査研究業務のビジネスモデル、事業領域についてお話しするとともに、調査(Think)から実施(Do)へと繋がった事例についてご紹介します。後半は、調査業務の実例として、実際に外国人観光客の動向調査データを用いて、取り扱うデータや分析・提案内容についてご紹介します。

◆第66回コンソーシアム人材セミナー（広島）

【日 時】平成30(2018)年12月18日(火) 14:35~16:05

【場 所】広島大学 理学部E102講義室（東広島キャンパス）

【参加者】49名

【講演要旨】非線形光学効果に興味を持ち、大学4年生の時から（大学または国研の）研究者としてのパーマネントポストを目指してまい進してきました。残念ながら40歳の頃に研究者への道を断念せざるを得ませんでした。現在、Nature Photonics誌の編集者として働いていますが、この職に就くまでの経歴は飛び石渡りのようなものでした。自分が全く予想もしていなかった出来事が起こるたびに進路の決断を迫られ、私がどのように考え、どのような行動をとったかについてお話ししたいと思います。講演の後半では編集者の仕事、Nature 関連誌の採択基準についてお話しします。

◆第67回コンソーシアム人材セミナー（広島）

【日 時】平成31(2019)年1月15日(火) 14:35~16:05

【場 所】広島大学 理学部E102講義室（東広島キャンパス）

【参加者】31名

【講演要旨】経済産業省に属する経済官庁の職員として、日本の持続的な経済発展を知的財産の側面から支援したい、そして、知的財産制度を利用される世界ユーザーの皆様へ貢献したいという熱い想いを胸に秘めている特許庁の審査官。その職責を全うするためには、法律や担当技術分野について高い専門性を有するスペシャリストとしての側面と、行政官として広範囲にわたる知識を持つジェネラリストとしての側面の両方を兼ね備える必要があります。本講演では、自身の特許審査や知財施策の立案における経験を踏まえ、審査官とは何者であるかを紹介しします。

◆第68回コンソーシアム人材セミナー（広島）

【日 時】平成31(2019)年1月29日(火) 14:35~16:05

【場 所】広島大学 理学部E102講義室（東広島キャンパス）

【参加者】30名

【講演要旨】文部科学省の所掌事務は科学技術や教育に限らず、文化やスポーツ政策なども含まれており、それら業務全般について簡単にご紹介するとともに、学生の皆さんに仕事内容の具体的なイメージを持ってもらうため、私がこれまでに経験した様々な部署における実務に関して興味深かったこと、苦労話などをお話ししたいと思います。

◆第69回コンソーシアム人材セミナー（山口）

【日 時】平成30(2018)年7月18日(水) 14:30～16:00

【場 所】山口大学 常盤キャンパス D31講義室

【参加者】29名

【講演要旨】近年、世界的に競争や共生が進む中、言語・文化・価値観の異なる人々との交流の必要性が増えています。企業においては、どのような環境下においても成果が出せる人材が求められています。海外経験豊富な講師が、海外駐在中にどのように考え何を学んだか、その経験談を踏まえて、海外で活躍するためのマインドセットや多様性を受け入れるコツを披露します。あわせて、講師の所属企業である安川電機が世界に誇る産業用ロボットについての現状と将来について語ります。

ジョイントセミナー：キャリアデザインⅡ & 第69回コンソーシアム人材セミナー in 山口

グローバル化時代の
研究者・技術者
技術系社員の海外駐在経験談

参加無料
申込不要

日時：平成30年7月18日(水) 14:30～16:00
会場：【本会場】常盤キャンパス D31講義室
【TV配信会場】吉田キャンパス 理学部310室（第5共用セミナー室）

近年、世界的に競争や共生が進む中、言語・文化・価値観の異なる人々との交流の必要性が増えています。企業においては、どのような環境下においても成果が出せる人材が求められています。海外経験豊富な講師が、海外駐在中にどのように考え何を学んだか、その経験談を踏まえて、海外で活躍するためのマインドセットや多様性を受け入れるコツを披露します。あわせて、講師の所属企業である安川電機が世界に誇る産業用ロボットについての現状と将来について語ります。

【講師】藤井 千夫 安川電機みらい館館長
1979年東京都生まれ。1987年山口大学工学部電気工学科卒業後、株式会社安川電機に入社し、産業用ロボット制御ソフトウェアの開発に従事。1989年から2009年にかけての16年間のドイツ、フランス駐在を経て帰国。2013年、安川電機創立30周年を記念してオープンしたロボット村の安川電機みらい館館長に就任。

問合せ先
山口大学大学院創成科学研究科 キャリアデザイン研究室
山口大学 大学院文化連携機構UAC コンソーシアム事業担当
083-933-5275 E-mail: conso@yupia.ac.jp



◆第70回コンソーシアム人材セミナー（徳島）

【日 時】平成30(2018)年8月10日(金) 18:00～19:30

【場 所】徳島大学 常三島キャンパス

産学官連携プラザ3階 日垂ホール

【参加者】37名

【講演要旨】イノベーション＝新しい価値を生み続け、お客様を喜ばし続けている起業家・商売人・経営者とはどんな人なのか、どのような考え方に基いて事業を考えるべきか、事業モデル、商品・サービスの作り方、在り方などをわかりやすくお話いたします。

徳島大学研究支援・産学官連携センター
平成30年度 第1回
イノベーションクラブ講演会
平成30年8月10日(金)18:00～19:30
徳島大学 産学官連携プラザ3階 日垂ホール
(常三島キャンパス)

参加費
無料

規模の大小を問わず、お客様を喜ばす、売れる商品・サービスのつくり方や、お客様を喜ばし続ける商売人としての考え方、アクションとは！

株式会社ウェイビー 代表取締役社長
伊藤 健太 氏

イノベーション＝新しい価値を生み続け、お客様を喜ばし続けている起業家・商売人・経営者とはどんな人なのか、どのような考え方に基いて事業を考えるべきか、事業モデル、商品・サービスのつくり方、在り方などをわかりやすくお話いたします。

関心をお持ちの様々な方のご参加をお待ちしております。

- 主催：徳島大学 研究支援・産学官連携センター
- 共催：[科学技術人材育成推進事業 科学技術人材育成のコンソーシアム] 産学官連携機構UAC [次世代研究開発プログラム] 未来を拓く地方創生プラットフォーム [徳島県コンソーシアム人材セミナー]を兼ねています。

お申し込み、お問い合わせ先
徳島大学 研究支援・産学官連携センター
徳島市常三島町2-1 (常三島キャンパス)
TEL: 089-656-7592 E-mail: rec-info@tokushima-u.ac.jp



◆第71回コンソーシアム人材セミナー（徳島）

【日 時】平成30(2018)年11月14日(水) 18:00～19:30

【場 所】徳島大学 常三島キャンパス 産学官連携プラザ3階 日垂ホール

【参加者】47名

【講演要旨】変化の激しい時代、原価情報を可視化する伝統的手法のみに依存するのではなく、各種マネジメント手法と組み合わせることで企業経営の実践に貢献できるコストマネジメント手法が有効です。すでに、管理会計技法の展開に有用な経営工学技法の利用法を示した例、品質管理と原価管理の融合により品質コストの手段的特徴の解明を行った例、環境保全活動に対して内部管理目的の環境会計の構築・推薦の指針を示した例などが報告されています。これらは、「融合コストマネジメント」として捉えることができ、管理会計と隣接領域における各種マネジメント手法とを融合することで二律背反の要素をもつ実務課題への対応性があります。ここでは、身近な事例から融合コストマネジメントの可能性を探ります。

徳島大学研究支援・産学官連携センター
平成30年度 第2回
イノベーションクラブ講演会
平成30年11月14日(水)18:00～19:30
徳島大学 産学官連携プラザ3階 日垂ホール
(常三島キャンパス)

参加費
無料

変化の時代における
融合コストマネジメント

甲南大学
学長・経済学助教授
長坂 悦敬 氏
ながさか よしゆき

変化の激しい時代、原価情報を可視化する伝統的手法のみに依存するのではなく、各種マネジメント手法と組み合わせることで企業経営の実践に貢献できるコストマネジメント手法が有効です。

すでに、管理会計技法の展開に有用な経営工学技法の利用法を示した例、品質管理と原価管理の融合により品質コストの手段的特徴の解明を行った例、環境保全活動に対して内部管理目的の環境会計の構築・推薦の指針を示した例などが報告されています。これらは、「融合コストマネジメント」として捉えることができ、管理会計と隣接領域における各種マネジメント手法とを組み合わせることで二律背反の要素をもつ実務課題への対応性があります。ここでは、身近な事例から融合コストマネジメントの可能性を探ります。

関心をお持ちの様々な方のご参加をお待ちしております。

- 主催：徳島大学 研究支援・産学官連携センター
- 共催：[科学技術人材育成推進事業 科学技術人材育成のコンソーシアム] 産学官連携機構UAC [次世代研究開発プログラム] 未来を拓く地方創生プラットフォーム [徳島県コンソーシアム人材セミナー]を兼ねています。

お申し込み、お問い合わせ先
徳島大学 研究支援・産学官連携センター
徳島市常三島町2-1 (常三島キャンパス)
TEL: 089-656-7592 E-mail: rec-info@tokushima-u.ac.jp



◆第72回コンソーシウム人材セミナー（山口）

【日 時】平成31(2019)年1月22日(火) 16:10~17:40

【場 所】山口大学 常盤キャンパス D31講義室

【参加者】30名

【講演要旨】JAMSTECが所有する地球深部探査船「ちきゅう」は平成17(2005)年に建造完了後、現在、運用13年目を迎えています。その仕様は総トン数5万7千トン、5万馬力の世界最大の科学掘削船です。「ちきゅう」は、水深2,500mから海底下7,000m(ドリルパイプ全長約10,000m)まで掘削する能力があり、船上から懸垂し掘削するドリルパイプの重量は、8,000mの長さでは500トンにもなります。この能力を携え「ちきゅう」は、日本が世界をリードするIODP(国際深海科学掘削計画)の中心探査船として、巨大地震発生メカニズムの解明、生命の起源等について、世界約30か国の研究者が乗船し世界第一級の成果を達成しています。また、日本周辺に眠る海底資源の把握にも努めており沖縄熱水噴出域でのレアアース調査、南海トラフでのメタンハイドレート調査にも携わっております。「ちきゅう」次期10年の最大ターゲットは、人類未踏のマントルへの到達です。本講演ではプロジェクトの概要、関係する山口大学の方々、遭遇した数多くの困難と挑戦とともに、その中で、工学博士・エンジニアの活躍機会についてもご紹介いたします。また、昨年後半、JICA技術者として、ケニア国地熱掘削への技術支援を行ってきたので、その概要についてもご紹介いたします。

第72回コンソーシウム人材セミナー in 山口
地球深部探査船「ちきゅう」の挑戦 参加無料 申込不要

平成31年1月22日(火) 16:10~17:40
山口大学 常盤キャンパス D12 講義室

講演者 小林 泰博 氏 (専) 工学博士 地球深部探査船「ちきゅう」を運用している専門家。参加人数は総トン数5万7千トン、5万馬力の世界最大の科学掘削船である。「ちきゅう」は、水深2,500mから水深7,000m(ドリルパイプ全長約10,000m)まで掘削することが可能で、船上から懸垂し掘削するドリルパイプの重量は、8,000mの長さでは500トンにもなります。この能力を携え「ちきゅう」は、日本が世界をリードするIODP(国際深海科学掘削計画)の中心探査船として、巨大地震発生メカニズムの解明、生命の起源等について、世界約30か国の研究者が乗船し世界第一級の成果を達成しています。また、日本周辺に眠る海底資源の把握にも努めており沖縄熱水噴出域でのレアアース調査、南海トラフでのメタンハイドレート調査にも携わっております。「ちきゅう」次期10年の最大ターゲットは、人類未踏のマントルへの到達です。本講演ではプロジェクトの概要、関係する山口大学の方々、遭遇した数多くの困難と挑戦とともに、その中で、工学博士・エンジニアの活躍機会についてもご紹介いたします。また、昨年後半、JICA技術者として、ケニア国地熱掘削への技術支援を行ってきたので、その概要についてもご紹介いたします。

講師 小林 泰博 氏 (専) 工学博士 地球深部探査船「ちきゅう」を運用している専門家。
所属 地球深部探査センター(COEX) 船中勤務

1959年(昭和34年) 香川県生まれ。1979年(昭和54年) 山口大学工学部地球化学専攻地球物理学科(現・工学部地球物理学専攻)卒業。地球物理学専攻修士課程及び博士課程修了。博士論文「南海トラフの地殻構造」を著し、1988年(昭和63年)地球物理学専攻助教授に就任。2001年(平成13年) JAMSTECへ転任し、2006年(平成18年)地球物理学専攻教授に就任。現在は地球物理学専攻教授として、地球物理学専攻の教育・研究に携わっている。2019年(令和元年)現在、地球物理学専攻の主任教授に就任している。また、2019年(令和元年)現在、地球物理学専攻の主任教授に就任している。

主催 文部科学省 創成技術人材育成 1000プロジェクト 山口大学 常盤キャンパス D12 講義室

8. 若手研究人材の意識啓発を促す取組

8-1. ウェブサイト

本事業の取組内容は、オリジナルウェブサイト HIRAKU(<https://home.hiroshima-u.ac.jp/hiraku/>)を構築し、イベント参加者募集や公募などのお知らせも随時掲載している。そこには、より詳細な内容や連携機関の情報を掲載している。また、若手研究者ポートフォリオ(HIRAKU-PF)にリンクしている。



◆ 広島大学グローバルキャリアデザインセンター若手研究人材養成

URL:https://www.hiroshima-u.ac.jp/gcdc_yr



◆山口大学 URL:<http://kenkyu.yamaguchi-u.ac.jp/HIRAKU/>

未来を拓く地方協奏プラットフォーム

科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業

この度、文部科学省の平成26年度科学技術人材育成費補助事業「科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業」に、山口大学が共同実施機関として採択されました。

「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」をテーマに、広島大学を代表機関として、共同実施機関に山口大学、徳島大学、連携機関には中四国の国立大学、公立大学、私立大学および多くの企業が参画して実施します。



長州五傑の碑 (山口大学吉田キャンパス)

→ 過去のトピックス一覧

トピックス

- 2019/01/25 [「第72回コンソーシアム人材セミナーin山口」\(講師=元海洋研究開発機構、現在\(株\)ベッツ\)を開催しました。](#)
- 2019/01/21 [「未来博士3分間コンペティション」の受賞者が学長に報告しました](#)
- 2018/12/05 [「第72回コンソーシアム人材セミナーin山口」\(講師=元海洋研究開発機構、現在\(株\)ベッツ\)を開催します](#)
- 2018/09/27 [「未来博士3分間コンペティション2018」において、創成科学研究科\(理学\)自然科学系専攻博士後期課程2年の田代啓悟さんが、オーディエンス賞\(日本語部門\)と戸田工業賞を受賞](#)
- 2018/07/20 [ジョイントセミナー「グローバル化時代の研究者・技術者 技術系社員の海外駐在経験」を開催しました](#)

◆徳島大学 URL:<https://www.tokushima-u.ac.jp/ccr/cons/>

徳島大学 研究支援・産官学連携センター
Center for Research Administration & Collaboration

トップ センターの紹介 学外の方へ 学内の方へ イベント・広報

徳島大学研究支援・産官学連携センター > 未来を拓く地方協奏プラットフォーム「HIRAKU」

未来を拓く地方協奏プラットフォーム
科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業「次世代研究者育成プログラム」
中国四国地方を中心とした次世代研究者育成プログラム「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」の情報を発信しています。

HIRAKUトップ プログラム概要 イベント 活動報告 公募情報 若手研究者の方へ 企業の方へ

今日 2019年 2月 月 火 水 木 金 土
27 28 29 30 31 2月1日 2
3 4 5 6 7 8 9
10 11 12 13 14 15 16
17 18 19 20 21 22 23
24 25 26 27 28 3月1日 2

代表機関:広島大学のイベントカレンダー

大國製薬株式会社
ダイオキシン対策について
「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」
「未来博士3分間コンペティション」
「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」
「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」

◆ 新着情報

- 平成30年11月14日開催 [第71回コンソーシアム人材セミナーin徳島](#) 2018/10/18
- 平成30年10月1日より平成31年3月31日 [長期インターンシップ希望者募集](#) 2018/10/02

8-2. 学生むけ小冊子 HIRAKU

HIRAKU Vol. 1(平成27(2015)年3月発行)

博士課程後期を知る読本

- ・次世代研究者インタビュー
- ・博士課程後期研究者 座談会
- ・未来を拓く地方協奏プラットフォームとは



HIRAKU Vol. 2 (平成 28 (2016) 年 3 月 発行)

博士課程後期を知る読本

・「未来博士3分間コンペティション 2015」

受賞者インタビュー

・未来を拓く地方協奏プラットフォームとは



HIRAKU Vol. 3 (平成 29 (2017) 年 3 月 発行)

博士課程後期を知る読本

・「未来博士3分間コンペティション 2016」

受賞者インタビュー

・未来を拓く地方協奏プラットフォームとは



次世代研究者育成プログラム
「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」

若きインベーターたちが
未知の世界に挑む。

「未来博士3分間コンペティション2016」受賞者インタビュー
目次

声の謎を解き明かすため、テクノロジーの領域へ…3
飯島聡志
弘島市立大学 工学部情報科学科システムデザイン研究室 D3

微生物は魔法の生物…7
山田太夫 大学院理工学研究科 地球環境工学研究室 D2
トシアママト カサリ

グローバル化の波
世界の自然環境と母国の大地を取り戻す…11
広島大学 大学院生物資源科学研究科 代謝交換制御研究室 D3
カンナヤイ マツシタ
受賞者 日本産科大

既知の中に潜む一片の未知を追う…14
愛媛大学 大学院農学系研究科 食品科学がく賞機能科学研究室 D1
赤澤 隆志
受賞者 広島産科大

若くして死ぬ運命にある海の霊長類たち…17
広島大学 大学院生物資源科学研究科 次世代生物学研究室 D3
宮野 哲史
企業賞 中外アークス賞

テクノロジーの先端から、世界を俯瞰する…20
徳島大学 大学院先端情報科学教育 光応用計測研究室 D3
水野 孝彦

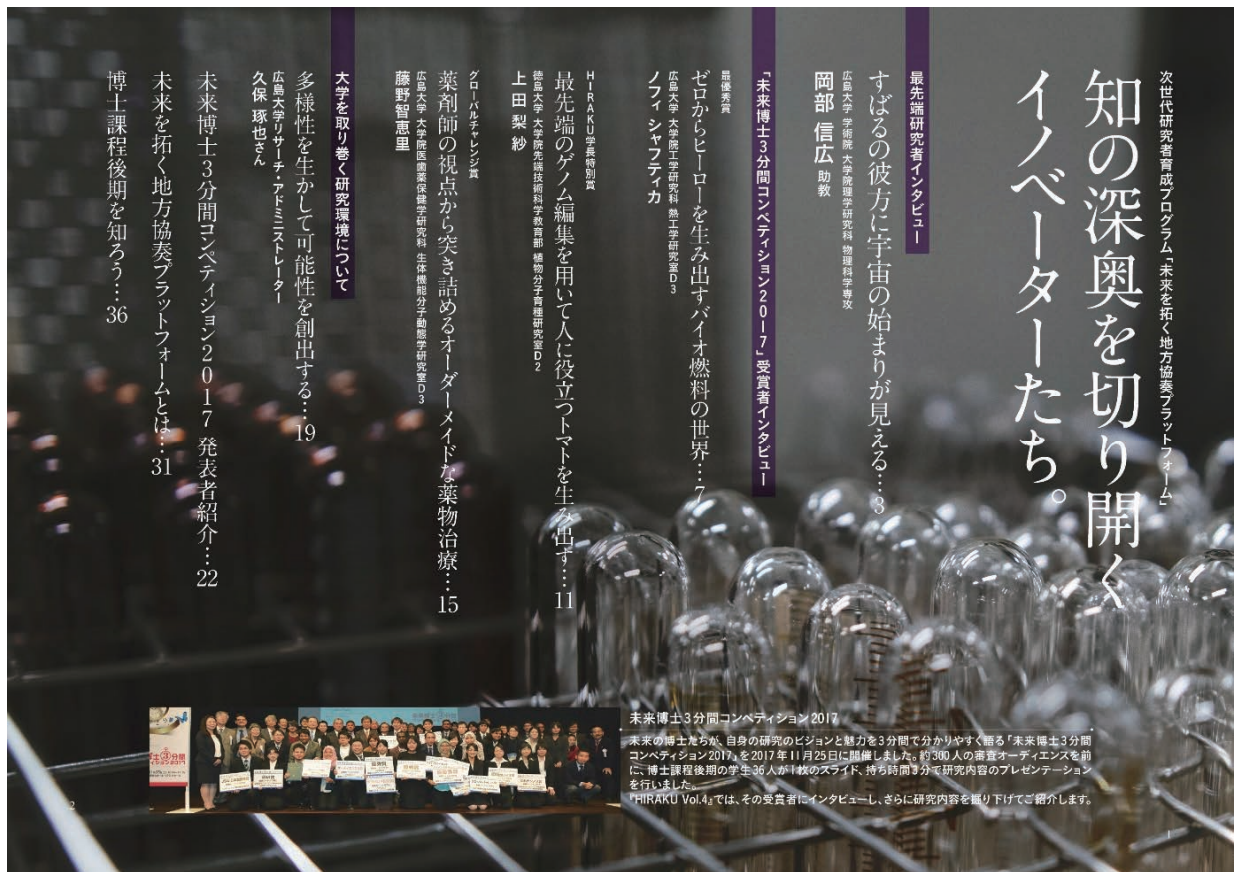
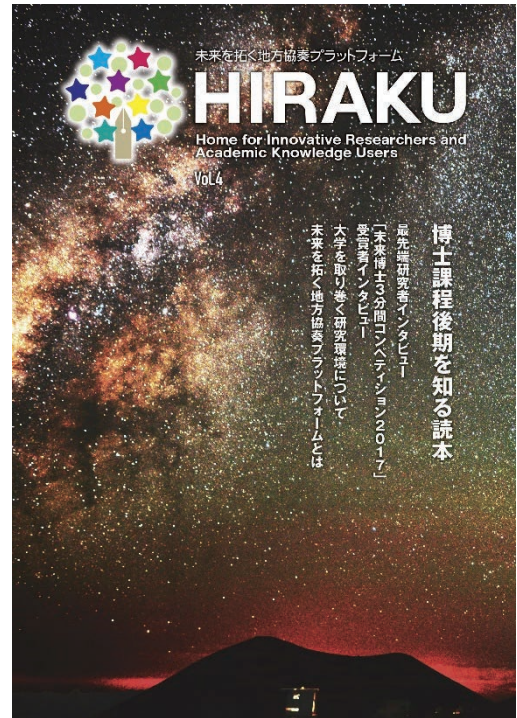
未来博士3分間コンペティション2016 発表者紹介…23
未来を拓く地方協奏プラットフォームとは…32
博士課程後期を知ろう…36

未来博士3分間コンペティション2016
未来の博士たちが、自身の研究のビジョンと能力を3分間で分かりやすく語る「未来博士3分間コンペティション2016」を2016年9月24日に開催しました。約300人の審査オーディエンスを前に、博士課程後期の学生38人が1枚のスライド、持ち時間3分で研究内容のプレゼンテーションを行いました。
『HIRAKU Vol.3』では、その受賞者にインタビューし、さらに研究内容を掘り下げてご紹介します。

HIRAKU Vol. 4(平成30(2018)年3月発行)

博士課程後期を知る読本

- ・最先端研究者インタビュー
- ・「未来博士3分間コンペティション2017」
受賞者インタビュー
- ・大学を取り巻く研究環境について
- ・未来を拓く地方協奏プラットフォームとは



HIRAKU Vol. 5 (平成31(2019)年3月 発行)

博士課程後期を知る読本

- ・若手研究者座談会
- ・「未来博士3分間コンペティション2018」
受賞者インタビュー
- ・未来を拓く地方協奏プラットフォームとは



「そもそも研究の道を選ぶ際、先輩たちに悩みや迷いはなかったのだろうか?」「研究者として歩みだすと、いったいどんな毎日か待っているのだろうか?」そんな先輩たちの疑問に答えるため、次代を担う若手研究者3人が、実体験に基づき研究者のリアルな日常について語ってくれました。

研究価値を伝えること、それも重要なミッション
Q. まず自己紹介を兼ねて皆さんの研究について教えてくださいいただけますか?

谷原 私は学生の頃から生体工学の研究をしていて、遺伝子改変アタに取り組みんでいます。マウスやラットと比較して、生理学的・病理学的・解剖学的にヒトに近いアタをつくりだすことで、創薬実験や治療法開発に貢献できたいと思っています。

原 私の場合は、細胞内部の核やミトコンドリアとい

た細胞小器官の大きさ、細胞の大きさとの関係性が研究テーマです。それらを制御する仕組みと機能性を解明することを目指しています。

松本 私は17世紀の英文学、中でも詩文学を専門としています。ヘンリー・ワーズワースという詩人を主に研究しているのですが、彼の双子の弟が錬金術師であったことから、産業革命以前の科学思想と文学との関わりなどについても研究しています。

原 錬金術ですか?面白そうですね。英文学という



若手研究者座談会
走り出すことで、本当の未来が見えてきた...2
徳島大学 大学院社会産業理工学工学部 谷原 史倫 特任助教
山口大学 大学院創成科学研究科(理学) 原 裕貴 助教
広島大学 学術院 大学院文学研究科 松本 舞 助教

「未来博士3分間コンペティション2018」受賞者インタビュー
最優秀賞
土壌汚染問題に植物のストレス耐性で解決を挑む...7
愛媛大学 大学院連合農学研究科 生物資源利用学専攻(香川大学配属) DI
ホセイン イムデイ シャハバット

グローバルチャレンジ賞
細胞の未知の領域へ糖鎖の解明で挑む...11
岐阜大学 大学院連合農学研究科 生物資源科学専攻 DI 浅野 早知

優秀賞(日本語部門)
患者の日常を取り戻すために新しい解を探す...15
広島大学 大学院医薬保健学専攻 薬学専攻 D3 小島 玲子

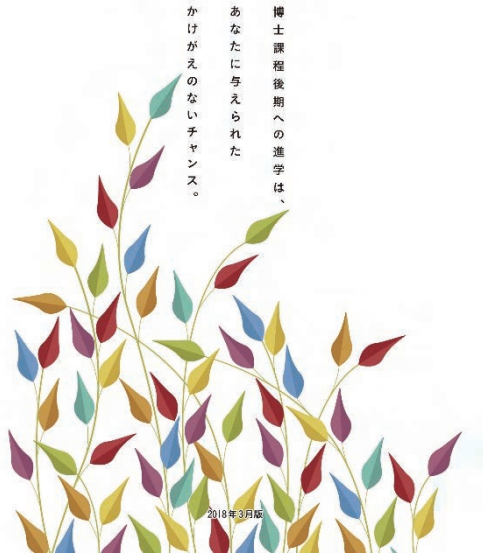
企業賞(マンガ賞)
研究は自己表現の手段で共通言語でもある...18
岡山大学 大学院環境生命科学研究科 環境科学専攻 D2 福岡 早紀

未来博士3分間コンペティション2018* 発表者紹介...21
未来を拓く地方協奏プラットフォームとは...31
博士課程後期を知ろう...36

*未来博士3分間コンペティション2018
未来の博士たちが、自身の研究のヒジクと魅力を3分間で分かりやすく語る「未来博士3分間コンペティション2018」を2018年9月15日に開催しました。約300人の審査オーディエンスを前に、博士課程後期の学生31人が1枚のスライド、持ち時間3分で研究内容のプレゼンテーションを行いました。「HIRAKU Vol.5」では、その受賞者にインタビューし、さらに研究内容を掘り下げてご紹介します。

HAKUSHI

博士課程後期を知ろう



博士課程後期への進学は、
あなたに与えられた
かけがえのないチャンス。
かけがえのないチャンス。

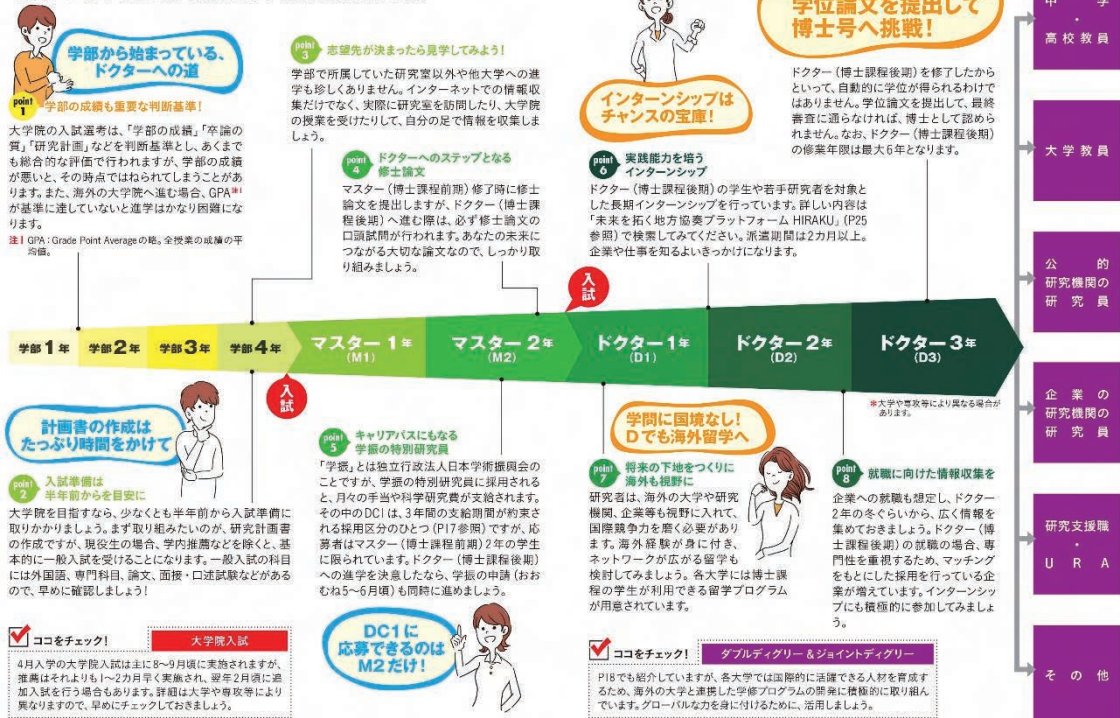
2018年3月版

HAKUSHI 平成 30(2018)年 3 月版

博士課程後期への進学は、
あなたに与えられたかけがえのないチャンス。

- ・進学フロー
- ・研究者インタビュー
- ・対談
- ・HAKUSHI の先
- ・コラム
- ・HIRKU-PF
- ・あなたの疑問にお答えします!!

研究となるチャンスを見逃さないためには、十分な情報収集と早めの準備が必要です。
下記のフローチャートを参考に、研究者としての未来を切り拓きましょう。

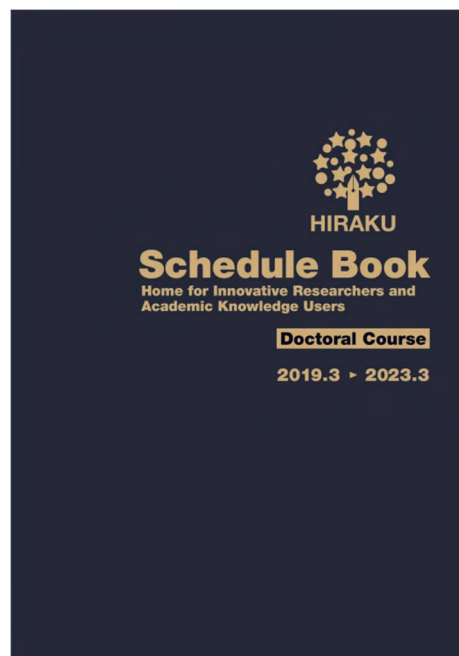


8-4. 4年手帳

博士課程後期の心得, 進路についてのプランニング, 大学で行われている学生支援等について掲載している。博士課程後期の時間を有意義に過ごすために必要な内容を盛り込んだ手帳である。共同実施機関, 連携機関の新D1全員に配布している。

Doctoral Course Schedule Book 2019. 3 ⇒ 2023. 3
(平成31(2019)年3月発行)

- 2019年3月から2023年3月までのカレンダー・スケジュール帳
- 博士課程後期の心得
- 博士課程後期の学生支援
- 税金・確定申告・健康保険・年金
- For International Students



9. 若手研究人材のキャリアスタート支援

9-1. 若手研究人材ポートフォリオ HIRAKU-PF

「若手研究者ポートフォリオ(HIRAKU-PF)」は、本事業の基幹ITシステムとして、いろいろな「あつまる」・「つながる」・「まじわる」機能を通じて、博士課程学生を含む若手研究者が社会とのつながりを深め、新たな出会いや気づきの中で自らの未来を拓くことができるように構築し、平成28(2016)年3月に運用を開始した。

(配布チラシ)

若手研究者ポートフォリオ HIRAKU-PF

若手研究者のポテンシャル、活用してみませんか?

- 自社 PR
- 共同開発
- 人材確保
- CSR

連携企業 研究所さま

未来を拓く人材や、技術の開拓・活用

連携企業 研究者

若手 研究者

M・D・PD OG&OB

若手研究者のみぞさん!!

新たな出会いや気づき

若手 研究者

連携企業 研究所

若手研究者ポートフォリオ HIRAKU-PF

キャリアの選択肢を広げよう!

- 自己 PR
- 研究 PR
- 就職活動
- 能力開発

連携企業 研究所

若手 研究者

新たな出会いや気づき

若手 研究者

連携企業 研究所

■ 若手研究者ポートフォリオ (HIRAKU-PF) のご案内

「未来を拓く地方産業プラットフォーム (HIRAKU-PF)」では、中国・四国地方を中心とする日本の総合国立大学、企業、公的機関等が産学コンソーシアムを形成し、高度に複雑化した現代社会の課題解決を担う博士人材の輩出を目指しています。その基幹 IT システム「若手研究者ポートフォリオ (HIRAKU-PF)」は、いろいろな「あつまる」「つながる」「まじわる」機能を通じて、博士課程学生を含む若手研究者が社会とのつながりを深め、新たな出会いや気づきの中で自らの未来を拓くことができるようにサポートします。

■ アクセスはこちら! (お問い合わせ先)

【HIRAKU ホームページ】 <http://home.hiroshima-u.ac.jp/hiaku>
 【HIRAKU】 [検索](#)

未来を拓く地方産業プラットフォーム運営事務局 (広島大学グローバルキャリアデザインセンター)
 〒082-424-2058
 M.H.I.hiro@hiroshima-u.ac.jp

■ まずは、利用登録を!!

【利用登録の手順】

1. 【HIRAKU】ホームページへアクセス
2. 【HIRAKU-PF】のタブをクリック
3. ログイン画面で、「新規登録」をクリック
4. 【ユーザー登録】から、メールアドレスをIDとして入力して(登録)
5. 姓・名・性別・フリガナを入力し「メールアドレス」が自動入力される
6. メールに発行された「本登録 URL」へアクセスして(ユーザー登録)
7. 「メールアドレス」と「登録した(パスワード)」でログイン

【お問い合わせ先】 未来を拓く地方産業プラットフォーム運営事務局 (広島大学グローバルキャリアデザインセンター)
 〒082-424-2058
 M.H.I.hiro@hiroshima-u.ac.jp

こんなことができます。

■ 若手研究者・企業の情報発信

eポートフォリオ

- プロフィール、企業概要
- 動画でPR
- SNS (Twitter, Facebook)
- ネット上にも発信可能

■ 自己・研究 PR

研究者の発信する多彩な情報を閲覧できます。掲載画面からメッセージを直接送ることも可能です。

■ 研究技術や人材のマッチング

シーズ・ニーズ

- 研究情報発信
- 企業情報発信
- 若手研究者と企業の出会いの場

■ こんな研究どうでしょう?

あなたの研究を発信してみましょう! 必要としている人が笑はいるかも?

■ あなたの研究が必要です

その課題、最新の研究で解決できるかもしれない。HIRAKU-PF からご提案してみませんか?

■ インターンシップ・求人情報

インターンシップ

- インターンシップ公募
- インターンシップ支援
- 求人情報

■ アカデミアも就職も

キャリア構築のため、インターンシップに参加しませんか? 他にも HIRAKU-PF 限定の情報も!

■ 博士人材を活用してみませんか?

インターンシップ・求人情報の情報を、若手研究者にピンポイントに届けます。

■ 能力アップを目指す

能力開発

- 研究者能力開発
- Vitae RDF
- 関連養成科目検索

■ 研究者としての能力を自己診断してみませんか?

能力養成科目を検索・受講してスキルアップ!

■ 将来を考える

キャリア相談

- キャリア相談
- 就職相談
- インターンシップ相談

■ PF 内からお手軽にキャリア相談を申し込みます!

経験豊富な相談員がお待ちしています!

■ 枠を超えて交流する

掲示板・メッセージ

- グループ掲示板
- SNS 系内メッセージ
- メールアドレス不明

■ 誰でも掲示板を作成し、研究者間のコミュニケーションに活用できます。

■ メールアドレスを閲覧せず、PF 内から若手研究者にコンタクト可能です。

■ 研究者をさがす

検索機能

- 研究者検索
- 研究分野検索
- その他詳細検索

■ 色々の研究者をどんな検索して見たい? 検索してみませんか?

■ 研究分野など詳細検索機能で求める人材・研究を検索できます。

HIRAKU-PF オススメ機能!!

- 1 履歴書、業績情報をマスターとして登録すれば誰でも閲覧できるので、就職活動等の役に立ちました。
- 2 他の研究者の情報も閲覧でき参考になった。
- 3 キャリア診断の予約もできる。登録しなくても思ってた以上にアクションはつながりやすい!
- 4 能力開発機能は自分自身を客観的に「見える」機会。研究者としてどこが強い、どこが弱い、どこを伸ばしているかが視覚的にも示されて分かりやすい。(他の画面で分かる)
- 5 各能力項目で進捗フェーズが分かれているので、ステップアップで取組めます。
- 6 アクションプランまで入力できるので、実際の行動につながりやすい。
- 7 知りたき情報が埋もれてしまいがちですが、能力開発やキャリア形成に必要な情報が発信されるので、「知らなかった」ということが防げると思います。実際に PF のおかげで何かがイベントやワークに参加し、参考になりました。

HIRAKU コンソーシアムのご案内

本プログラムは、文部科学省の実施する科学技術人材育成コンソーシアムの事業です。『若手研究者育成プラットフォーム』の形態で、「未来を拓く地方産業プラットフォーム」をテーマに、広島大学・山口大学・徳島大学・岡山大学・鳥取大学・高松大学・香川大学・愛媛大学が共同実施機関となり、代表機関は広島大学です。連携機関には中国・四国地方を中心とする自治体の関係機関も含まれ、そして多くの企業や民間機関の力を得て実施しています。

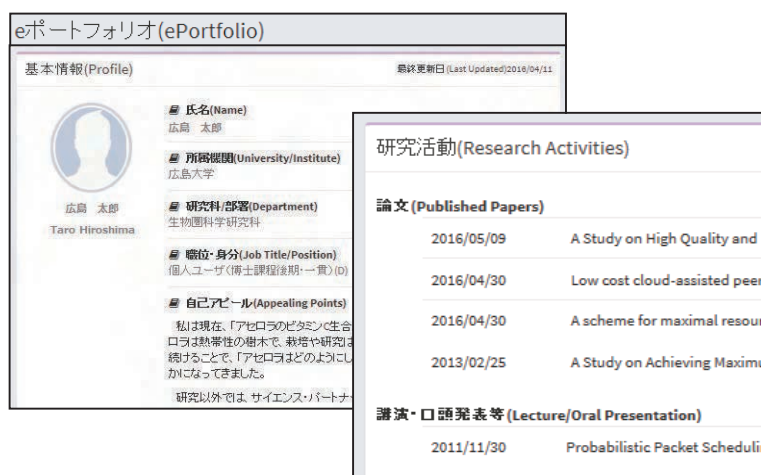
本プログラムでは、これらの大学・企業・公的機関等が産学コンソーシアムを構築し、「イノベーション」を創出し、社会課題解決(社会インパクト)に貢献する人材の育成を目的として、若手研究者の育成・活躍促進プラットフォームの2つのプログラム、互いにからなる広島大学プラットフォームを構築しています。

※ (国)若手研究者育成コンソーシアムの事業費は、文部科学省から交付されており、若手研究者育成プラットフォームの構築・運用に、学内・学外関係機関が共同で貢献しています。本プログラムは、その一部として実施されています。

◆HIRAKU-PF が網羅する主な機能

(1)若手研究者も企業等のPR情報発信および検索 — eポートフォリオ機能 検索機能

HIRAKUに参画する多くの国公立大学の博士課程学生・若手研究者，幅広い連携企業・公的機関がユーザ登録することにより利用可能となる。ユーザとして付与されたアカウントを基にeポートフォリオを作成し，若手研究者は自分のプロフィールや研究業績，PR動画やファイル，所属研究室が公開するSNSなどを，連携機関は機関概要，求める博士人材，活躍している博士人材などを登録し，HIRAKU-PF内で相互にアピールすることができる。若手研究者については氏名，所属機関やキーワードを利用して検索することができ，eポートフォリオを閲覧することができる。公開を希望する研究者は，自分のeポートフォリオをネット上に公開することも可能であり，全世界に向けて発信することができる。



(若手研究者)

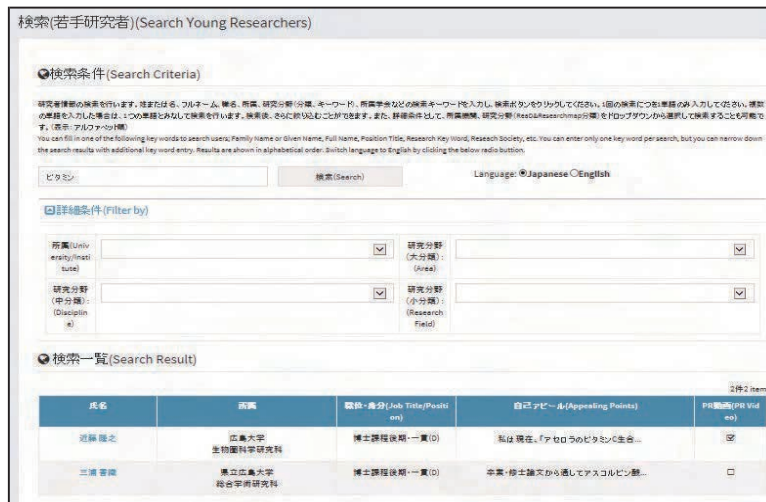
eポートフォリオを作成し，基本情報に加え，自己アピール文，研究活動など積極的にPRできる。



YouTubeやmp4ファイルなどのPR動画を埋め込みで掲載することができる。



FacebookページやTwitter, ブログなど SNS情報を埋め込みで表示させることができる。



検索条件を入力・選択することにより、登録されている若手研究者を検索し、eポートフォリオを閲覧することができる。(ネット公開設定している研究者であれば、外部検索エンジンでも検索可能)



閲覧したeポートフォリオから、直接システム内でメッセージを送信することができる。

基本情報(Profile)

中外テクノス

企業・団体(Organization)
中外テクノス株式会社(Chugai Technos Corporation)

部署(Department)
環境事業本部 取締役事業本部長 村岡 裕彦

機関紹介・PR>About us

事業案内
Business

「スマートな技術でスマートな未来を」
Smart technology, smart future.

電機・機械・情報・物理・化学・生物の各部門からなる中外テクノスの技術を融合し、多様なニーズにスマート(効果的・知

専門調査 Investigation

環境、建設、工業あらゆる産業分野において、先進の調査技術を駆使した信頼性の高い調査データをご提供します。

- 環境調査・分析
- 環境微生物解析
- 環境装置性能試験
- 省エネ診断
- 構造物調査

(連携企業・公的機関)
連携企業・公的機関のeポートフォリオでは、各機関の概要を掲載できる。既存のホームページがあれば、画像やリンクなどもそのまま添付可能。

活躍中の博士人材(Doctorate Holders)

キラキラした目の子どもたちをもっと増やしたい

博士 理学
花里 美紗穂

全員が誰かのために頑張っていることで

博士 工学
上野 裕子

研究室から「書く」仕事

博士 生命科学
磯貝 里子

求める人材(Expected Talents)

我々が高い夢と志を持って「ブレイクスルー」に臨むを支援する人達と共創して、感動と夢

「ブレイクスルー」とは、
マツダにしかできないことを、考え抜く。
マツダだからできることを、やり抜く。
そこに、世界を牽引する走り生まれる。

美しく爽快な走りを生み出すにはパワフルなエンジンの開発が必要となり、一方で、環境に優しいクルマを生み出すには燃費性能を突き詰めなければならない。一般論としては、「相反する2つの最適なバランスを求める」という妥協が、技術の常識である。これに対しマツダは、飽くまでも常識にとらわれず、高い次元で両立させる選択を断行する。これが「ブレイクスルー」の発露だ。バランスポイントを決めることは、ブレイクスルーしないと決めたことに等しい。

マツダならではの、自由に熱帯を駆け巡るチャレンジスピリットから、世界に先がけたワクワクする走り、心奪われる美しいクルマが生み出されていく。その一点にしか、我々は夢を見いださない。

■シニアエンジニアインタビュー
クルマづくりで世界に貢献する。
平野の街・広島でマツダの精神をかたち。

ロードスター主筆/山本 修弘

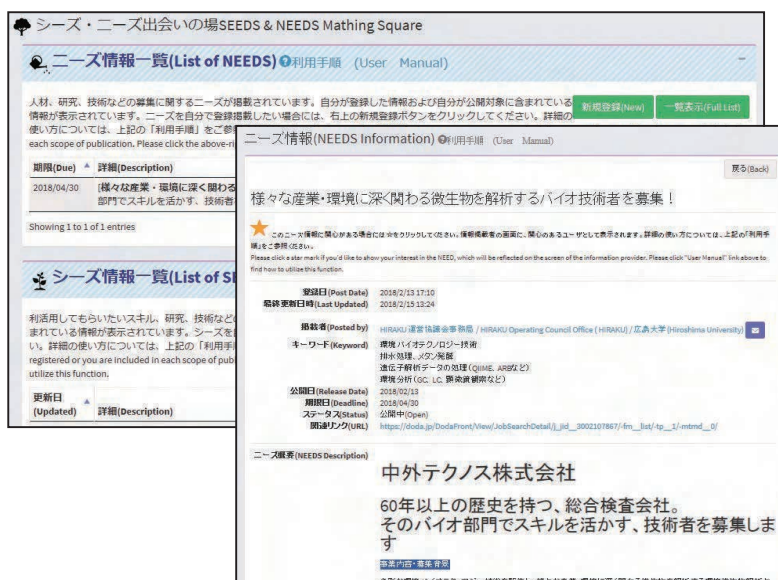
1969年の誕生以来、世界中の人々から愛されているマツダ ロードスター。現在も、より多くの感動と走る喜びを与えるべく進化を続けている。その主筆である山本 修弘がエンジニアを目指した自身の原点とマツダに流れるスピリット。そして広島での開発にこだわり続ける理由や次代を担う若手への思いを語る。

マツダ(株)HPへリンク
<http://www.mazda.com/ja/careers/newgraduate/interview/ysamamoto/>

求める人材や実際に活躍している人材など、博士人材に特化して情報発信ができる。

(2) シーズ・ニーズ情報の発信・閲覧・交流促進 - シーズ・ニーズ機能

連携機関やシニア教員は、研究技術、研究人材などの「ニーズ」を登録し、全研究者ユーザに対して発信できる。若手研究者や若手教員は、自分たちが持つ研究技術やスキルを「シーズ」として登録し発信できる。それぞれが選択した公開先に含まれるユーザは、ログイン後に表示されるトップページ(ポータル)画面において、シーズ・ニーズの一覧情報を確認し、関心を持った場合には表明することができる。情報を登録したユーザは、関心を表明したユーザを招待して掲示板を作成し、コミュニケーションを開始することもできる。



ポータル画面上に登録したシーズやニーズが掲示され、閲覧者は☆マークをクリックすることで関心を表明することができる。

(3) インターンシップ/求人/イベント情報の発信・入手 - インターンシップ機能 イベント機能

博士課程学生・若手研究者向けに集約されたインターンシップや求人情報などの情報が閲覧できるだけでなく、応募や必要書類のアップロードも HIRAKU-PF上から行うことができる。HIRAKU-PF上から連携企業/公的機関へ直接質問も可能である。若手研究者からの提案が新しいインターンシップや共同研究につながる流れも期待される。

(4) キャリア相談の依頼および面談実績の管理 - キャリア相談機能 支援情報機能

キャリア相談やインターンシップ等の相談も、HIRAKU-PFを通じて依頼・設定可能であり、過去の相談状況を蓄積できる。また、各種支援情報も提供される。

(5) ユーザ同士の気軽なコミュニケーション - 掲示板機能 メッセージ機能

(1)で前述のとおり、ユーザは検索後に閲覧した他ユーザのeポートフォリオからメッセージ機能を使って直接連絡を取ることができる。また掲示板機能もあり、博士課程学生・若手研究者同士が掲示板グループを作成して若手研究者主体のイベント運営や情報交換などに利用したり、連携機関と若手研究者がシーズ・ニーズ機能などを通じて掲示板グループを作成し、共同研究のきっかけ作りに利用したり、研修やワークショップなどを通じてできたワーキンググループで掲示板グループを作成し課題・演習のフォローに活用したりすることができる。

★ イノベーション演習 テーマ①(7件7 item/未読(Unread)0件0 item)

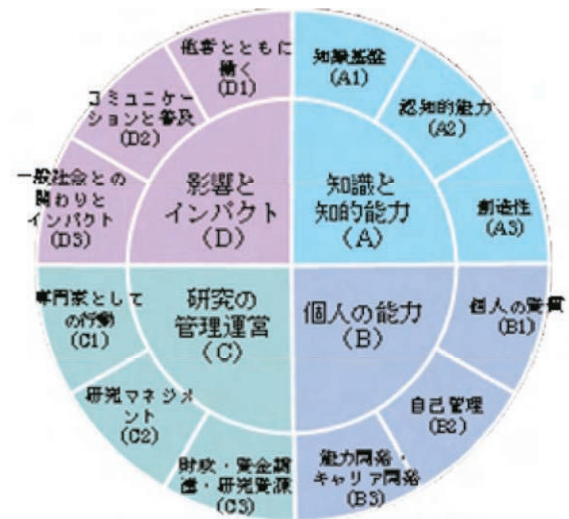
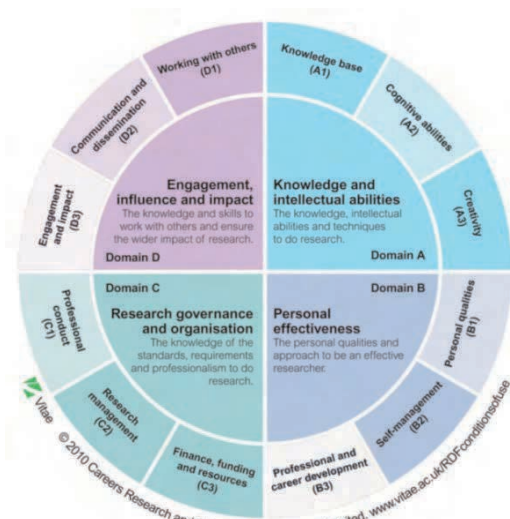
タイトル(Title)	投稿者(Posted by)	投稿数(No. of Posts)	最終更新日時(Last Updated)
10/27 フィールドワーク 写真共有	三須敏幸	14	2017/11/15 09:42
(お知らせ) 第3回 11/17 演習開始前 放映案内	HIRAKU 運営協議会事務局 / HIRAKU Operating Council Office	1	2017/11/16 19:37
第3回 ワークショップを振り返って	イノベーション演習聴講生 1	3	2017/11/24 17:36
広報についてお願い	HIRAKU 運営協議会事務局 / HIRAKU Operating Council Office	2	2017/11/27 12:33
第4回ワークショップ振り返りおよび最終発表準備について	川瀬真紀	9	2017/12/13 22:32
最終発表スライド	HIRAKU 運営協議会事務局 / HIRAKU Operating Council Office	1	2017/12/18 15:08
成果発表会 開催報告(HP)およびコメント共有	HIRAKU 運営協議会事務局 / HIRAKU Operating Council Office	1	2017/12/28 16:24

平成29(2017)年,平成30(2018)年に開講した「課題提案型ワークショップ(広島大学大学院共通科目「イノベーション演習」)では,履修生と参加企業からなるワーキンググループおよび各グループの担当教員やアシスタントで掲示板を作成し,情報共有や演習時間外のコミュニケーションに活用した。

(6)研究者として能力チェック&講座情報の入手 - 能力開発支援機能

高等教育機関,研究機関の博士研究者や博士課程在籍者の自己啓発,専門的能力開発及びキャリア開発を支援する英国の非営利の全国的ネットワーク組織Vitaeが作成した研究者の総合的な能力指標,“Researchers Development Framework(RDF)”が組み込まれている。研究者に必要とされる63項目の能力について5段階のステージで表示しているのので,現状把握や将来の指針として参考にすることができる。自分がどのステージにいるのか自己診断し,その根拠を記録することで,自分の能力を客観的に捉えることができ,さらなる向上を目指して目標を設定することができる。また対象能力を養成することが可能な授業やプログラムを確認し,その参加状況を記録することも可能。自己診断結果は,記録した根拠や設定目標と併せてレポート出力ができる。自分の能力養成状況を定期的に診断して更新し続けることにより,自分の成長状況を時系列で確認することができる。

(Vitae RDF)



Vitae ©2016 Careers Research Advisory Centre (CRAC) Limited.

詳細項目確認&診断(RDF Descriptor Phases & Assessment): RDF全項目診断(Full RDF Skills)

RDF No. A2.5 能力(Skill) 問題解決力 (Problem solving)

背景色がオレンジ色のフェーズが、あなたのロールに対し適用することを推奨される目標フェーズです。Phases highlighted in orange are the skill levels you are expected to achieve.

フェーズ(Phase)				
0	1	2	3	4
自分の研究における基本テーマを特定し、基本的な研究上の問いと仮説を導く。(isolates basic themes of own research; formulates basic research questions and hypotheses.)	幅広い研究課題に対して解決策を導き上げを導出し、研究対象を効果的に分析、解釈している。(Formulates and applies solutions to a range of research problems and effectively analyses and interprets research results.)	研究の新たな動向、課題を問い、広範な課題を定めた、大まかのプロジェクトを立案している。(Identifies new trends, complex questions and broader problems; designs substantial projects. Challenges particular hypotheses and refines them in the light of results.)	物事の理解に大きく貢献することで研究課題によって、従来型の思考一般に異議を唱え、研究している。(Leads a research agenda by thinking in general and progress research them	

1

目標を達成の場合には自分の現在のフェーズを、達成以上のフェーズを選択している場合には上書きして You can overwrite this field, if your achieved phase is not displayed.

能力ごとに 5段階のステージに分けて、期待される知識・行動・態度などが表示される。自分がどの段階にあるか自己診断する。

自己診断の根拠(エビデンス)、対象能力を伸ばすためのアクションプランを入力することができる。

アクションプラン(Action Plan) 中項目レベル(全12項目)で設定したいアクションプランが填报し入力してください。Please fill in your action plan/evidence per sub-domains if you

視野を広げ、幅広い課題解決に向けて大型のプロジェクトを立案できるよう、1000関連企業におけるインターンシップに挑戦する(2018年8月まで)

エビデンス(Evidence) 目標フェーズを達成している達成したと診断する場合、その根拠を入力してください。入力内容は自己評価レポートにも反映されます。Please fill in the evi can be exported in the Self-Assessment Report.

ABODの研究において、テーマを「=」に特定し、基本的な研究上の問いと仮説を導き、3分間コンペティション2015において企業賞XYZを受賞した。

3分間コンペ2015_最優秀賞.mp4

能力養成科目/プログラム詳細(Recommended Class/Program Description)

能力養成科目/プログラムの詳細です。一番下までスクロールすると、養成が期待される能力の一覧を確認することができます。the class/program. Scroll down to the bottom to check the full list of RDF skills expected to be developed by taking this class/pr this system.

長期インターンシップ

講師(Instructor)	三須 敏幸
所属機関(Univ./Org.)	広島大学(Hiroshima University)
機関内課程コード(Class Code)	85025001
所属部局(Faculty/Dept.)	グローバルキャリアデザインセンター
開講期(Semester/Term)	2016年度
曜日・時間(Day/Period)	集中

対象能力を養成することが可能な講座、プログラムなどが登録されており、参加・受講を記録していくことができる。

自己評価レポート

評価時点: 2017年2月

氏名: HIRAKU FF 田中 孝志
 学年・職位: 准教授(研究員)PD
 所属: 広島大学(Hiroshima University)
 研究科・専攻: HIRAKU-FF サステナビリティ研究科

能力発揮結果
 研究機会獲得状況(Starter in Research)
 達成率: 47% (17項目中8項目達成)

全体目標
 このまでの研究で培った能力をもとに、もっと一般社会に関わり、影響力を發揮できるよう研究者にならない、果敢的に、講演などで意見を表明する態度、機会になることを探す、そのために、一般社会との接点を増やし、リーダーシップとコミュニケーション力を向上させる。
 I aim to become a researcher, more engaged with the public, giving more impact and influence, based on the skills and competencies developed through lectures or any other social opportunities, proactively playing responsible roles on projects, providing coaching and guidance to the less and To achieve my goal in 5 years to become (detailed position/job title, etc.), I take more public opportunities and develop my leadership and command.

本題目標
 (前掲)全体目標である「一般社会との関わり」のために、「D(影響とインパクト)」を掲げようとする機会・セミナーを受講する、果敢的に、英語プログラム、英語研修等(前掲)で英語スキルを磨く力を伸ばす。
 インターネット上においては、投稿員の方との直接連絡先をつき、一般社会との関わりやコミュニケーション力を高めるために、例年様々なアワード

能力発揮結果(詳細)

大項目	中項目	アピレーション	エビデンス	目標	研究機会獲得状況(達成率)	到達レベル
A1: 知見の蓄積	A1.1: 知見の蓄積	特に成果が必要と思われるA1.1(専門分野の知識)の強化に努め、果敢に機会を捉え、必要に応じて研修を受講し、コミュニケーション力を向上させる。	ABCDの研究において、テーマをF(FO)に特定し、基本的な研究上の関心と研究の進捗を把握する。	A1.1: 専門分野の知識 (Subject knowledge)	達成済	2
	A2: 認知的能力	特に成果が必要と思われるA1.1(専門分野の知識)の強化に努め、果敢に機会を捉え、必要に応じて研修を受講し、コミュニケーション力を向上させる。	ABCDの研究において、テーマをF(FO)に特定し、基本的な研究上の関心と研究の進捗を把握する。	A1.4: 情報検索力 (Information seeking)	達成済	1
	A2: 創造性	特に成果が必要と思われるA1.1(専門分野の知識)の強化に努め、果敢に機会を捉え、必要に応じて研修を受講し、コミュニケーション力を向上させる。	ABCDの研究において、テーマをF(FO)に特定し、基本的な研究上の関心と研究の進捗を把握する。	A2.2: 批判的思考力 (Critical thinking)	達成済	0
B1: 学術的素養	B1.1: 研究	10000に達した、他の研究者から専門分野の能力を磨くことも出来るようになる。	他の研究者もって研究に参画し、共同研究、共同研究などを行い、コミュニケーション力について成果を上げる。	B1.1: 研究 (Research)	達成済	2
	B1.4: 自信	10000に達した、他の研究者から専門分野の能力を磨くことも出来るようになる。	他の研究者もって研究に参画し、共同研究、共同研究などを行い、コミュニケーション力について成果を上げる。	B1.4: 自信 (Self-confidence)	達成済	0

自己診断結果、短期・長期目標、エビデンス、アクションプラン、記録した科目参加履歴などを時系列で遡ってエクセルに出力することができる。

◆ユーザ数

- ・平成29(2017)年12月31日時点の849件から平成30(2018)年12月31日現在で1,465件まで増加。
- ・平成30(2018)年12月31日現在のユーザ数の内訳は、若手研究者1,310名(D1,195名,M50名,PD65名,OB/OG41名)、教職員(相談員含む)52名、連携機関59機関
- ・平成30(2018)年12月31日現在、若手研究者の所属機関は広島大学1,213名、山口大学24名、徳島大学23名、左記以外の大学50名

9-2. 博士人材キャリア相談室

センターのスタッフ等と一緒に自身のキャリア設計について考え、今後の進路に関する不安を一つ一つ解決する支援をしている。たとえば、就職を希望する博士課程後期学生や若手研究者には、履歴書を作成させ、履歴書の構成や文章の流れなどを指導したり、面接試験にあたっての基本的なマナーや礼儀作法、あるいは企業出身のコーディネーターや幅広い分野の専門家の先生と実践形式の面接指導などを行ったりしている。

※例：キャリア設計相談、進路・進学相談、履歴書作成・面接指導、プレゼンテーション能力の向上

【相談日時】 随時(但し、予約優先)

【場 所】 グローバルキャリアデザインセンター若手研究人材養成(広島大学学生プラザ2F)

【予 約】 「若手研究者ポートフォリオ(HIRAKU-PF)」面談機能を利用して予約すること。

【問合せ先】 グローバルキャリアデザインセンター若手研究人材養成

E-MAIL wakateyousei@office.hiroshima-u.ac.jp

URL https://www.hiroshima-u.ac.jp/gcdc_yr/consultation

平成 26(2014)年度11月以降相談者延べ数 110名

平成 27(2015)年度相談者延べ数 213名

平成 28(2016)年度相談者延べ人数 196名

平成 29(2017)年度相談者延べ人数 175名

平成 30(2018)年度(1月末日現在)相談者延べ人数 135名

10. 代表機関および共同実施機関独自の取組

10-1. 広島大学独自の取組

10-1-1. 広島大学特別研究員 成果報告会

広島大学では、学位取得者を対象に、教育機関や産業界で活躍できる人材の育成を目指して、広島大学特別研究員という制度を設けている。その制度について説明を行うとともに、自らの研究実績とキャリアパス形成の取組について報告を行った。

(1) 第5回 広島大学特別研究員成果報告会

【日 時】平成 30(2018)年 8 月 3 日(金) 15:00～17:00

【場 所】学生プラザ1階 東側

【参加者】22 名

◆特別研究員制度について

グローバルキャリアデザインセンター 副センター長 三須 敏幸

◆特別研究員の紹介(平成 30(2018)年度第 1 期 特別研究員)

◆特別研究員による成果報告(平成 29(2017)年度第 2 期 特別研究員)

(1) Chaudhry Tehreem

(2) 辻田 菜摘

(3) 余 亮

ふれてみよう!
特別研究員の世界
第5回広島大学特別研究員成果報告会
進路の可能性、広げてみよう!

当日プログラム
1. 特別研究員制度について
2. 特別研究員の紹介
3. 特別研究員による活動報告
(使用言語: 日本語、英語)

飛び入り参加大歓迎!
参加無料!!

広島大学特別研究員とは?
博士課程を修了した学位取得者を対象に、教育機関や産業界で活躍できる人材育成を目的としたキャリアスタート支援制度です。
実務能力や研究開発能力を身に付け、アカデミアにとられない多様なキャリアを目指すことが可能で、同時に、これまでの研究を続けて成果を出したり、科特書の刊行や企業との共同開発などに従事することもできます。
当日は、特別研究員制度について解説を行い、彼らの研究やインターン活動について紹介します。
参加をご希望の方はQRコード又は申請URLから事前登録をお願いします。
※当日参加6,000

日時	平成30年8月3日(金) 15:00～17:00
場内	学生プラザ1F フリースペース東側
申込方法	申込締切: 8月1日(水) 有記QRコード(URL)よりお申し込みください。https://goo.gl/DgmkCJ +学生、ホストウ、教職員の個別相談も可能です。
お問い合わせ先	広島大学グローバルキャリアデザインセンター TEL: 082-424-4213 E-mail: wakateyousoffice.hiroshima-u.ac.jp

HIRAKU



(2) 第6回 広島大学特別研究員成果報告会

【日 時】平成31(2019)年2月28日(木) 15:00～16:45

【場 所】学生プラザ1階 東側

【参加者】29名

◆特別研究員制度について

グローバルキャリアデザインセンター 副センター長 三須 敏幸

◆特別研究員の自己紹介

平成30(2018)年度第1期 特別研究員(4名)

平成30(2018)年度第2期 特別研究員(4名)

◆特別研究員による成果報告(平成30(2018)年度第1期 特別研究員)

- (1) 梅原 崇
- (2) Aiwen Luo
- (3) 山谷 浩史
- (4) 趙 碩

◆座談会

「5年後にどのような自分でありたいのか」というテーマを中心に、発表者と聴講者の隔たりなくそれぞれの率直な意見を交わした。

あれてみよう! 特別研究員の世界
第6回広島大学特別研究員成果報告会
進路の可能性、広げてみよう!

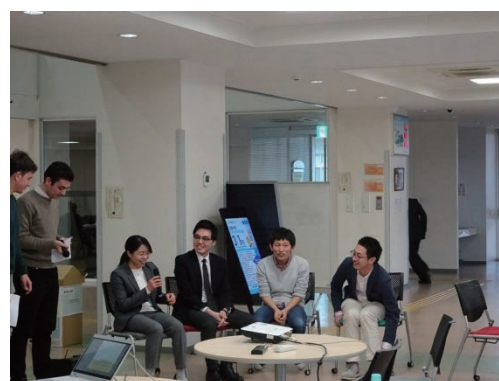
当日プログラム(使用言語:日本語、英語)
1. 特別研究員制度について
2. 特別研究員の紹介
3. 特別研究員による活動報告

広島大学特別研究員とは?
博士課程を修了した学位取得者を対象に、教育機関や産業界で活躍できる人材育成を目的としたキャリアスタート支援制度です。
業務能力や研究開発能力を身に付け、アカデミアにとられない多様なキャリアを目指すことが可能で、同時に、これまでの研究を続けて成果を出したり、科研費の申請や企業との共同開発などに従事することができます。
当日は、特別研究員制度について解説を行い、彼らの研究やインターン活動について紹介します。
参加をご希望の方はQRコード又は申請URLから事前登録をお願い致します。
※当日参加もOK!

飛び入り参加大歓迎
参加無料!!

日時 平成31年2月28日(木) 15:00～17:00
場所 学生プラザ1F フリースペース東側
申込締切: 2月25日(月)
申込方法 新卒QRコード(URL)よりお申込ください。
※学生、ポスドク、教職員の参加も可能です。
お問い合わせ先 広島大学グローバルキャリアデザインセンター
TEL: 082-424-4213
E-mail: wakabayashi@office.hiroshima-u.ac.jp

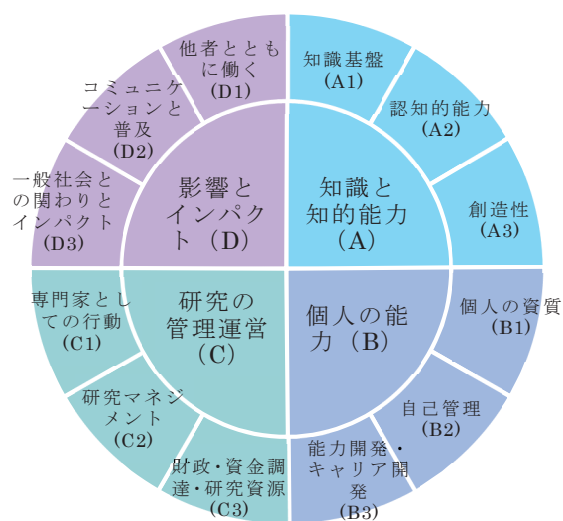
HIRAKU
QR Code for App
Registration Form




10-1-2. HIRAKU 実践プログラム

グローバルキャリアデザインセンターでは、研究キャリアの初期段階にある博士課程後期学生(D)及び若手研究者(PD)を対象に、新分野に挑戦する活力のある研究人材の育成を目的としたプログラム(HIRAKU 実践プログラム)を提供しています。HIRAKU 実践プログラムは、若手研究者がグローバルキャリアデザインセンター担当科目および独自セミナー等を履修・受講することで、社会の多方面で活躍できる素養を身につけることができるように構成されています。

また、若手研究者は「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」の基幹 IT システム（若手研究者ポートフォリオ HIRAKU-PF）を通じて、これらの履修・受講履歴や達成状況を記録するとともに、研究人材としての能力を自己チェックし、自身の強みやアピールポイントを理解することができます。さらにグローバルキャリアデザインセンターにおいて、キャリア形成に必要な指導・助言も受けることができる体制を整えていますので、ぜひ、これらのプログラムとシステムを活用してください。



 Vitae ©2016 Careers Research Advisory Centre (CRAC) Limited.

◆平成30(2018)年度実践プログラム

① 教育研究基礎科目

科目・イベント名	開講部局	担当教員	開講日	教室
研究の心得	グローバルキャリアデザインセンター	三須 敏幸	4月25日	学生プラザ4階 多目的室1・2
英語論文執筆のためのアカデミック・ライティング	ライティングセンター	河本 健	前期2T集中	中央図書館 ライブラリーホール
科学者のための英語プレゼンテーション術	ライティングセンター	河本 健	平成30(2018)年度は開講せず	
学術文章の書き方とその指導法—大学教員を目指して—	教育学研究科	柳瀬 陽介	前期/月9-10	教育学研究科 K208
大学教員養成講座	教育学研究科	佐藤 万知	後期/集中	別途指示
ナノ・バイオ・インフォ化学シンポジウム	量子生命科学プロジェクト研究センター主催		第15回 12月8日	学生会館 レセプションホール
プロテオミクス実験法・同実習	理学研究科	泉 俊輔, 片柳 克夫	8月31日～9月6日	別途指示

② 内的キャリア養成科目:キャリア開発と自己管理能力の向上

科目・イベント名	開講部局	担当教員	開講日	教室
高度イノベーション人材のためのキャリアデザインⅠ	グローバルキャリアデザインセンター	三須 敏幸	前期/集中	コンソーシアム人材セミナーとして実施。(詳細は第7章)
高度イノベーション人材のためのキャリアデザインⅡ	グローバルキャリアデザインセンター	三須 敏幸	後期/集中	
人文社会系キャリアデザインⅠ(キャリア理論)	グローバルキャリアデザインセンター	森 玲子	1T・3T/集中	総合科学部 A棟610
人文社会系キャリアデザインⅡ(キャリア開発)	グローバルキャリアデザインセンター	森 玲子	2T・4T/集中	総合科学部 A棟610
ストレスマネジメント	グローバルキャリアデザインセンター	原田 淳	後期/月9-10	総合科学研究科 K305

③ 外的キャリア養成科目:他者との協働と影響力の向上

科目・イベント名	開講部局	担当教員	開講日	教室
リーダーシップ手法-キャリア開発の視点から	グローバルキャリアデザインセンター	三須 敏幸	前期1T/水5-6	東図書館3階 グループ閲覧室
イノベーション・マネジメント	グローバルキャリアデザインセンター	三須 敏幸	6月29日～30日	学生プラザ4階 多目的室1・2
イノベーション演習	グローバルキャリアデザインセンター	三須 敏幸	10月10日～12月12日	(詳細は第6章参照)

科目・イベント名	開講部局	担当教員	開講日	教室
長期インターンシップ	グローバルキャリアデザインセンター	三須 敏幸	通年/集中	(詳細は第4章参照)
理工系キャリアデザイン1 (コミュニケーション, プレゼンテーション)	グローバルキャリアデザインセンター	原田 淳	前期/集中 9月10日-11日	総合科学部 K202
理工系キャリアデザイン2 (ファシリテーション)	グローバルキャリアデザインセンター	原田 淳	前期/集中 9月12日-13日	総合科学部 K202
コミュニケーション能力開発	先端物質科学研究科	中ノ 三弥子	前期/金 3-4	先端物質科学研究科 704W
Developing Designing Ability	国際協力研究科	藤原 章正	1T/金 7-8	国際協力研究科409
技術移転論	工学研究科	伊藤 孝夫	4T/月・木1-2	工学研究科 106
Technology Transfer	工学研究科	伊藤 孝夫	2T/月・火 1-2	工学研究科 103
MOT とベンチャービジネス論/MOT & Venture Business	工学研究科	伊藤 孝夫	① 1T/火・金1-2 ② 1T/火・金5-6 ③ 1T/月・木1-2 ④ 1T/月・木5-6	① 工学研 111 ② 工学研 117 ③ 工学研 107 ④ 工学研 116
知的財産及び財務・会計論	工学研究科	伊藤 孝夫	3T/月・木1-2	工学研究科 103
技術戦略論	工学研究科	伊藤 孝夫	4T/月・木1-2	工学研究科 106
未来博士3分間コンペティション	グローバルキャリアデザインセンター 主催		2018年9月15日	東広島市立芸術文化ホール くらら (詳細は第6章参照)
特別研究員成果報告会	グローバルキャリアデザインセンター 主催		① 2018年8月3日 ② 2019年2月28日	学生プラザ 1F

10-1-3. 研究者等紹介

HIRAKUオリジナルウェブサイト, 広島大学グローバルキャリアデザインセンター若手研究人材養成担当ウェブサイト, それぞれに取材コーナーを設けている。

各取材コーナーには, 広島大学学生, 若手研究員が取材・記事作成を行った, 様々な視点からのインタビュー記事を掲載している。

(1) 博士人材インタビュー 博士な日々 – 意外と知らない博士の生活 –

第2回 平成30(2018)年6月28日取材・平成30(2018)年9月3日HP掲載

広島大学大学院総合科学研究科 総合科学専攻環境科学部門 D3※ 笛吹 理絵さん

動物に配慮した観光を目指して

研究者を志したきっかけ

研究内容

博士課程後期での研究生活

たおやかプログラムでの取組

取材者感想



第3回 平成30(2018)年11月29日取材・平成31(2019)年3月12日HP掲載

広島大学大学院医歯薬保健学研究科 医歯薬学専攻歯学専門プログラム D3※ 小畠 玲子さん

あごの骨の再建を目指してーチタン多孔体で骨を取り戻すー

チタンの多孔体を骨の再建に利用する

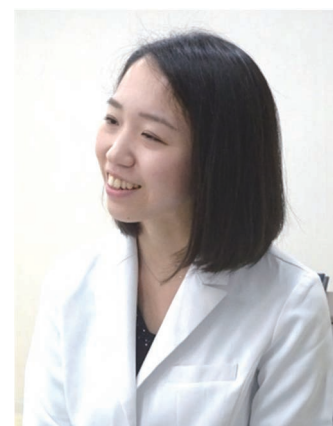
研究の進捗状況と今後の課題

博士課程に進学したきっかけ

3分間コンペに参加して

インターンシップについて

取材者感想



※経歴は取材当時

(2)博士の針路 ー博士号のその先ー

第7回 平成29(2017)年12月13日取材・平成30(2018)年4月27日HP掲載

ベネッセ教育総合研究所 研究員 岡部 悟志 氏

教育の効果・プロセスの可視化を目指して
教育研究との出会いと、ベネッセへの入社
ベネッセ教育総合研究所での調査研究
～子ども、保護者、教師を対象に～
社会人博士の苦労と、そこで得られたもの
いま取り組んでいる研究で大切にしていること
～「成長の可視化」が持つ教育的価値～
学生へのメッセージ
～自分の専門性の核は何かを問う～
取材者感想



第8回 平成30(2018)年5月8日取材・平成30(2018)年6月15日HP掲載

大和ハウス工業株式会社 主任研究員 吉田 博之 氏

「世の中をびっくりさせたい」というワクワク感で世界を変えていく
大和ハウス工業を選択した理由と、研究職についたきっかけ
これまでの中で大変だったこと
現在取り組んでいる研究
研究開発で大切にしていること
大和ハウス工業や建築業界において博士人材や研究者のニーズ
大学生や若手研究者へのメッセージ
取材者感想



第9回 平成30(2018)年5月22日取材・平成30(2018)年8月3日HP掲載

中外テクノス株式会社 原子力保全システム開発部 企画室課長 小林 強志 氏

人類が経験したことのない未知なる状況にどう対処していくか
中外テクノス株式会社・原子力業務との出会い
産業装置システム部から原子力保全システム開発部へ
中外テクノス株式会社における博士人材や研究経験者のニーズ
学生時代に意識して取り組んだ方がよいこと
取材者感想



第10回 平成30(2018)年4月24日取材・平成30(2018)年9月3日HP掲載
株式会社デンソー 価値創造プロジェクト 伊藤 義人 氏

逆境を愉快地生きる:ハートに届くものづくり

現在携わっている仕事について

キャリア形成について

学生時代での経験について

取材者感想



第11回 平成30(2018)年6月19日取材・平成30(2018)年10月3日HP掲載

三島食品株式会社 研究所所長 馬場 堅治 氏(写真左) / 研究所 中村 聡 氏(写真右)

奇跡や変化を起こし, 会社・社会の変革を導く

“奇人・変人”を求める

キャリア選択とそのきっかけ

三島食品における研究開発職

研究開発とキャリア形成

取材者感想



第12回 平成30(2018)年7月31日取材・平成30(2018)年10月9日HP掲載

日本電信電話株式会社 NTT研究企画部門 兵藤 守 氏

NTTと他企業をつなぐ

他企業と協力して新たな価値を生み出すために

技術の使い方を考えるという役割

学生に向けて

取材者感想



第13回 平成30(2018)年7月17日取材・平成30(2018)年10月22日HP掲載
株式会社資生堂 GIC統括運営部マネージャー 石舘 周三 氏

美しい生活を創造する, ヒトを彩るサイエンス
前進し続け, 高く成長している資生堂
グローバル化を進める資生堂の研究開発職
キャリア選択とそのきっかけ
取材者感想



第14回 平成30(2018)年7月3日取材・平成30(2018)年10月29日HP掲載
ハリマ化成株式会社 常務取締役, 研究開発部門統括, 研究開発カンパニー長 西岡 務 氏

多様なキャリアから得た適応性
キャリアの転機
求められる人物像
取材者感想



第15回 平成30(2018)年10月9日取材・平成30(2018)年11月20日HP掲載
新日鐵住金株式会社 先端技術研究所 上席主幹研究員 米村 光治 氏

鉄鋼～究極のテクノロジー～
『総合力世界No. 1』を目指す新日鐵住金株式会社
世界最大の鉄鋼研究所・研究員を有する新日鐵住金株式会社
無限大に広がる可能性を秘めた素材・鉄
学位を取得し, 鉄研究に邁進したキャリア
学生・研究員にむけたアドバイス
取材者感想



第16回 平成30(2018)年11月6日取材・平成31(2019)年1月21日HP掲載

武田薬品工業株式会社 薬剤安全性研究所/再生医療ユニット 主席研究員 篠澤 忠紘 氏

グローバル化した製薬企業における理系研究者のキャリアパス

Patient centricityを掲げる武田薬品工業
多様な人材が集まる武田薬品の研究拠点
製薬研究に邁進する研究者の歩み
海外留学で広がる視野
研究者として必要なこと
取材者感想



第17回 平成30(2018)年10月23日取材・平成31(2019)年1月31日HP掲載

テクノデータサイエンス・エンジニアリング株式会社 第2データサイエンスグループ 第2チーム長
和田 吉満 氏

データから育まれるビジネスの価値

データサイエンティストとして社会に貢献する
キャリア選択のためのアドバイス
取材者感想



第18回 平成31(2019)年1月15日取材・平成31(2019)年2月18日HP掲載

特許庁 審査第四部伝送システム(移動体通信システム) 審査官 行武 哲太郎 氏

スペシャリスト&ジェネラリスト 審査官の魅力とは?

キャリア選択とそのきっかけ
キャリアの転機について
大学生時代を振り返って
取材者感想



第19回 平成30(2018)年11月20日取材・平成31(2019)年3月11日HP掲載

株式会社野村総合研究所 コンサルティング事業本部 プリンシパル, 上席コンサルタント
木下 貴史 氏

今求められている価値提供を戦略的に生み出すコンサルティング
キャリア選択とそのきっかけ
コンサルティング業という仕事について
大学生時代に必要なこと
取材者感想



第20回 平成30(2018)年12月18日取材・平成31(2019)年3月HP掲載予定

シュプリンガー・ネイチャー Nature Photonics 編集員 堀内 典明 氏

研究者から学術論文誌編集員へ
論文に判定を下す責任
新たなキャリアを見つけるまで
キャリア選択へのアドバイス
取材者感想



(3) 若手研究者の研究紹介

第20回 平成29(2017)年12月6日取材・平成30(2018)年4月6日HP掲載

広島大学学術院(大学院先端物質科学研究科) 水川 友里 助教

好奇心を持ち, 他分野との融合を探求する
現在の研究
現在の研究に至るまで
学生生活
留学生活
教員になってから初めてわかったこと
研究者としての心得
研究者を目指す学生に一言
取材者感想



第21回 平成30(2018)年2月28日取材・平成30(2018)年5月25日HP掲載
広島大学学術院(大学院総合科学研究科) 栗田 梨津子 助教

アボリジニをみつめて

ー都市に住む「アボリジニ」のアイデンティティを考えるー

多文化主義とアボリジニ

都市のアボリジニが抱えるアイデンティティの揺らぎ

今後の展望:白人・アボリジニ・アフリカ難民の新しい関係をみる

研究に取り組むきっかけ

学生の方へのメッセージ

取材者感想



第22回 平成30(2018)年3月26日取材・平成30(2018)年9月6日HP掲載
広島大学学術院(大学院医歯薬保健学研究科) 小藤 智史 助教

99%の失敗の中から得られる成功

現在取り組んでいる研究について

「がん細胞と脂質代謝」

「がん細胞とエネルギー代謝」

研究者として医薬の分野に進んだ理由

がん研究に至ったきっかけ

99%の結果が示す、自身の予想との“違い”

研究の進め方

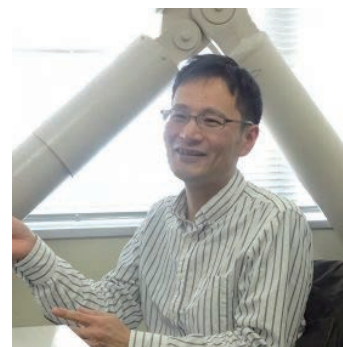
学生時代に大切にしていたこと

研究者としてものごとを多面的に見るためには

アメリカ留学を通して感じたこと

研究者を目指している大学院生の方へのメッセージ

取材者感想



第23回 平成30(2018)年6月13日取材・平成30(2019)年10月1日HP掲載
広島大学学術院(原爆放射線医科学研究所) 廣田 誠子 助教

放射線を「正しく」知るために

ー高度な科学技術を用いて社会に貢献するー

放射線の線量評価に取り組む

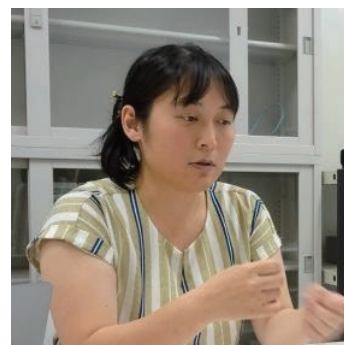
線量評価を用いて豊かな社会の実現を目指す

現在取り組んでいる研究のきっかけー東日本大震災とNPO活動

好奇心と深く追求する力

学生へのメッセージー自分を持つこと

取材者感想



トビにタカを産ませる ―生殖細胞をめぐるテクノロジー―

研究内容ー生殖細胞をめぐるバイオテクノロジー

- ① 始原生殖細胞の操作によって多様な鳥類を細胞レベルで保存する技術の開発
- ② 精子幹細胞の操作によって多様な動物を細胞レベルで保存する技術の開発
- ③ 効率的なニワトリ生産を目指した遺伝子機能の解析や生殖細胞の発生分化メカニズムの解明

生き物が好きだった少年時代ー生物を“保存”したいという思い

研究者を志して大学へーバイオテクノロジーへのあこがれ

研究活動をする上で知っておいて欲しいこと

学生へのメッセージー為せば成る

取材者感想



10-2. 山口大学独自の取組

10-2-1. 実施体制

山口大学においては、広島大学を中心とするコンソーシアム運営協議会で検討された事項を着実に実施するため、平成 27(2015)年度に「科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業に係る国立大学法人山口大学実行委員会」(以下、「学内実行委員会」と呼ぶ。)を設置した(図 1)。以降、事業はこの学内実行委員会の下で実施している。

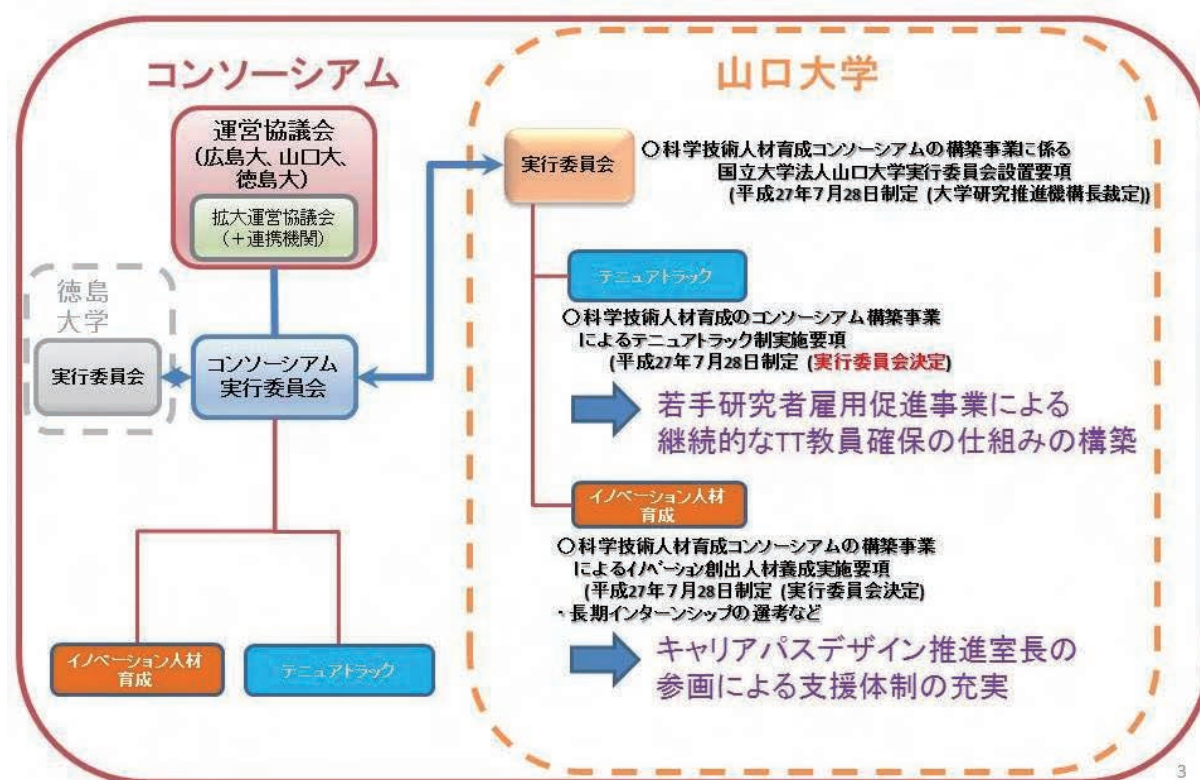


図 1 山口大学における本事業の実施体制

10-2-2. イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラム

(1) 定着に向けた学内体制の整備

◆長期インターンシップの共通科目化

山口大学では平成 28(2016)年度に理系大学院を再編成し創成科学研究科を設置した。この研究科では、共通科目として長期インターンシップが設定されている。またこの研究科では、CPOT(実践教育プログラム)やイノベーション道場「志」(アントレプレナー工房)を立ち上げており、本事業としては今まで同様、今後もこの研究科との連携をはかり、イノベーション人材の養成を定着させていく。

◆キャリアパスデザイン推進室との連携

前述の研究科の再編成に合わせ、従来理工学研究科に所属し大学院生の進路開拓の支援をしていたキャリアパス形成支援室が、創成科学研究科所属のキャリアパスデザイン推進室となり、同様の業務を行なっている。キャリアパスデザイン推進室長は学内実行委員会のメンバーでもあり、緊密な連携を可能としている。

(2) 長期インターンシップ

長期インターンシップ生の学内での公募は、従来、その年度が始まってから開始していたが、これでは相手先企業とのマッチングに時間がかかるため、派遣時期が年度末になることが多かった。そこで平成 30(2018)年度は、予算成立を前提に、募集を前年度の 2 月から開始した。その結果、平成 30(2018)年度では上半期に 2 名を派遣した。なお計画では、長期インターンシップの予定数は毎年 2 名であったが、実際には、平成 28(2016)年度から平成 30(2018)年度までの 3 年間、予定を上回る 3 名を毎年派遣した。内訳は下の表 1 の通りである。

表 1 山口大学の長期インターンシップ派遣実績

年度	計画数	実績数		派遣期間		派遣された学生・研究者										受入れ先							
		応募者数	採用数	2 か月程度以内	3 か月程度以上	学年(派遣時)内訳				所属研究科内訳			性別内訳		国籍内訳		受入れ先セクター内訳				受入れ先国別内訳		
						D 1	D 2	D 3	P D 以上	理工農系	医学系	人 社 系	男性	女性	日本人	留学生	民間企業		公的機関・独法など	国内	海外		
		東証一部上場	ベンチャー・未上場	民間小計																			
平成 27(2015)年度	2	3	2	2		2				2			2					1	1	1	2		
平成 28(2016)年度	2	4	3	3		1	1	1		2		1	3		1	2		1	1	2	3		
平成 29(2017)年度	2	3	3	3			1	2		1		2	2	1	1	2	1	2	3		3		
平成 30(2018)年度	2	3	3	3		1			2	2		1	1	2		3		2	2	1	3		
平成 31(2019)年度	2																						
平成 32(2020)年度	2																						
平成 33(2021)年度	2																						

(3) その他の取組 : 「山口大学大学院生研究手帳」の配布

博士課程学生がイノベーション創出人材となる一助としてコンソーシアム全体で手帳を作成しているが、これを補完するため、本学では博士課程学生(特に創成科学研究科の学生)の科目履修やキャリアデザイン関係科目について、きめ細かにガイダンスするための冊子、「山口大学大学院生研究手帳」を制作し配布している。(図 2, 図 3, 表 2)

図 2

「山口大学
大学院生研究手帳」
の表紙 3 年分



○博士課程学生心得

この手帳は大学院博士課程に在学する学生および博士後期課程に進学を希望する学生に提供する。本来、博士後期課程に在籍する学生は1日も早く学生生活を終え社会で活躍することが期待され、できれば修士課程と合わせて1年短期し、もし可能ならば2年短期するよう努力していただきたい。そのためには出来だけ早く(研究に着手し、遂行し、成果を上げる必要がある。創成科学研究科の場合について具体的に記述しているが、他の研究科でも参考になるだろう。

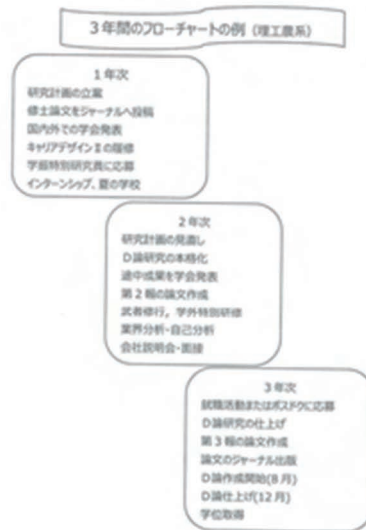
●博士進路上の一般的プログラム(博士後期課程3年間の工程表)

キャリアデザイン推進室では、大学院生が自らのキャリアパスを確立するようにキャリアデザインⅡ(通年2単位)の企画実施、インターシップの紹介、その他の助成・相談を行っている。そして各種研究資金・奨学金の応募に関する助成、学位をとるために必要なこと、博士人材を求めている社会などについての情報を提供している。

博士後期課程3年の計は進学時にある。次頁の工程表の例を参考にして、各自のより詳しい工程表を立てよう。なお、博士課程修了に必要な要件(学位審査の基準)は専門分野・所属する専攻ごとに異なる。

●ジャーナル論文の書き方

論文を書く前に研究が必要である。研究はまずテーマを探すことから始まるが、このテーマは指導教員に指示されることが多い。現在のように世界中で研究が多岐にわたって行われるとき、学生自らがオリジナルなテーマを探すのは容易ではない。そのようなこともあって指導教員の知恵を仰ぐことになる。テーマが決まれば、文献を調べ、熟読する。その中で、未解決部分、不明部分を探す。この結果に基づいて研究計画を立てる。この研究計画は指導教員とよくディスカッションを行い、計画が出来上がった後に研究を実施する。研究結果をまとめ報告書作りをし、



20

21

図3 「山口大学大学院生研究手帳」の中身の一部

表2 「山口大学大学院生研究手帳」の配布先

年度	印刷部数	配布部数			配布先キャンパス内訳															
		うち学生への配布数	うち教員への配布数	学生(創成科学研究科=理・農のみ)	吉田キャンパス										常盤キャンパス					
					学生(東アジア研究科=Dのみの大学院)		教員			職員・その他	吉田キャンパス小計	学生		職員	常盤キャンパス小計					
					D1 全員	D2 以上	理	農	時間学・総科セ			東アジア等	D1			M1				
平成 28(2016)年度	1000	732	439	281	9	135	24			68	33	4	4	10	287	19	252	172	2	445
平成 29(2017)年度	800	454	454		8	113	2	12	6	20	10	0	12	10	193	24	56	175	6	261
平成 30(2018)年度	700	552	552		7	115		15		11	10			27	185	22	314	25	6	367

10-2-3. テニュアトラック導入による若手研究者の自立・流動促進プログラム

(1) 定着に向けた学内体制の整備

◆若手研究者雇用促進事業の強化

本学では、平成 27(2015)年度に、補助金によらない本学独自のテニュアトラック(TT)教員の雇用事業を開始している(表 3★の 4 名)。平成 28(2016)年度から、この制度によるスタート研究費支援や女性教員が採用された場合の部局へのインセンティブ付与など制度を一層整備・強化し、現在に至っている。

◆若手研究者の海外研修等事業

TT 制度とは別に、本学予算による若手研究者の海外研修等の制度(若手研究者短期海外派遣プロジェクト)で若手研究者を海外に派遣した。

(2) テニュアトラック教員採用実績

表 3 に本学において各事業で採用したテニュアトラック教員数を示す。

コンソーシアム事業では、表 3 の●に示すように、平成 27(2015)年度 2 名を皮切りに、平成 28(2016)年度以降平成 30(2018)年度まで各 1 名採用した。この中で特に平成 28(2016)年度は女性限定公募による採用であった。

表 3 山口大学のテニュアトラック教員の採用実績

現役TT教員のセルに着色。Wは女性教員を、()は元TT教員のテニュア獲得日や転出年月を示す。

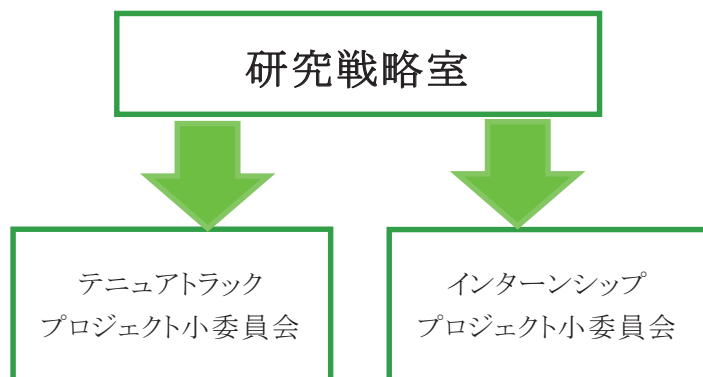
所属部局	平成 23(2011)年度	平成 24(2012)年度	平成 25(2013)年度	平成 26(2014)年度	平成 27(2015)年度	平成 28(2016)年度	平成 29(2017)年度	平成 30(2018)年度	
医学系研究科	1名 (平成28年7月 テニュア獲得) W ◆		1名 (平成28年3月 転出) W ▲				1名 (平成30年2月 転出) ★		
創成科学研究科 (理)		1名 (平成29年4月 テニュア獲得) ■			1名 ●	1名 ★			
創成科学研究科 (工)	1名 (平成29年1月 テニュア獲得) ◆	1名 (平成29年10月 テニュア獲得) ■	1名 (平成28年3月 転出) ▲				1名 ●	1名 ●	
創成科学研究科 (農)			1名 (平成30年8月 テニュア獲得) ▲			1名 W ●			
共同獣医学部		1名 (平成29年12月 テニュア獲得) W ■			1名 ●				
時間学研究所					1名 ★			1名 ★	
年次別採用者数	2	3	3		3	2	2	2	
採用者数累計	2	5	8	8	11	13	15	17	
テニュアトラック普及・定着事業による採用									
◆平成 23(2011)年度公募事業による採用	■平成 24(2012)年度公募事業による採用	▲平成 24(2012)年度(後期)公募事業による採用	●コンソーシアム事業による採用		★自主財源による採用				

10-3. 徳島大学独自の取組

10-3-1. 実施体制

事業開始とともに本学の研究戦略室(室長＝研究担当理事・副学長)において、若手研究者の自立・流動促進プログラムを推進する為の「テニュアトラックプロジェクト小委員会」と、イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラムを推進する為の「インターンシッププロジェクト小委員会」を設置する等、本事業を推進する体制を整備し、テニュアトラック教員の採用や長期インターンシップの派遣に向けて活動を実施している。

[学内実施体制]



10-3-2. 若手研究者の自立・流動促進プログラム

テニュアトラック教員の公募に際しては、大学全体として計画的に取り組むため、研究戦略室会議にて、各部局からの採用提案を受けた上で、最も適切と考えられる部局で公募を実施することとしている。

平成 30(2018)年度は 10 月にテニュアトラック教員(ロボット工学)を 1 名採用した。
各教員の今年度の活動は、次のとおりである。

◆谷原特任助教(第 3 期採用)

- ・「遺伝子改変による、医療研究用モデルブタの作出」をテーマに、今年度は昨年度から引き続き新たに遺伝子改変ブタ 2 種の作製を行い、各々論文投稿準備中である。
- ・国内外での学会等に 3 回参加し、計 6 回の口頭発表を行った。
- ・論文発表は 9 本、また 1 本が印刷中
- ・平成 31(2019)年度科研費に申請するとともに、日本 IDDM ネットワークと 5 年間、「ゲノム編集技術を用いた自己免疫機能の改変による自然発症 1 型糖尿病モデルブタの開発」に採択された。

◆Karanjit 特任助教(第 4 期採用)

- ①O₂ や CO₂ などの小分子を活性化させるための高活性で再利用可能なナノクラスター触媒の設計と調製及び周囲条件下での多成分カップリング反応に関する研究
- ②不斉炭素-炭素結合形成反応のためのキラル不均一触媒の開発に関する研究を実施
- ③新たなインドール骨格構築法の開発研究を実施
 - ・論文は、5 報が掲載された。また、3 報が投稿準備中。
 - ・学部生、大学院生向け科学コミュニケーション能力養成の講義(英語)を担当
 - ・平成 31(2019)年度科研費に申請中

・特筆すべき事項として、下記論文が、フロントカバーを飾ったことがあげられる。

○Highly active and reusable Hydrotalcite-supported Pd(0) catalyst for Suzuki coupling of aryl bromides and chlorides; **Sangita Karanjit**, Masaya Kashihara, Atsushi Nakayama, Lok Kumar Shrestha, Katsuhiko Ariga, Kosuke Namba, Tetrahedron 2018, 74, 948-954 (Front Cover).

◆黒田特任助教(第6期採用)

- ・「転写因子 IRF7 による脂肪細胞炎症-代謝制御システムの解明」をテーマに、脂肪細胞において肥満・メタボリックシンドロームに関連する転写因子, IRF7 を同定した。また, IRF7 欠損マウスに対し糖・エネルギー代謝, 遺伝子発現解析を行うことで IRF7 の生理機能を検討した。
- ・論文は, 2 本掲載(英語原著論文(共著))
- ・学部生, 大学院生向け講義, 実習及び研究指導を担当
- ・平成 30(2018)年度から 2 年間, 科学研究費助成事業(若手研究)に採択
「脂肪組織由来分泌タンパク質による肝マクロファージ機能制御と NASH 病態への関与」

◆松井助教(第9期採用)

- ・無動力で足の背屈を支援する空気式歩行支援シューズを用いた, 糖尿病患者の神経性足潰瘍予防に向けた歩行支援装置の開発と, 拘縮患者のための手首・手指伸展リハビリテーション装置の開発を進めている。
- ・論文一報を投稿準備中
- ・国際学会へ参加準備中
- ・平成 31(2019)年度科研費申請中

また, 平成 31(2019)年度 10 月以降に採用するテニュアトラック教員の分野について, 研究戦略室内で検討した結果, 次世代フォトニクス研究分野で 1 名公募することが決定した。

なお, テニュアトラック教員の公募に際しては, 特に次の点に配慮している。

- ・JREC-IN, コンソーシアム HP, 本学 HP 等に, 英語及び日本語の公募要領を掲載するとともに, 公募期間は原則 2 か月を確保するよう努力することで, 幅広い人材を募る。
- ・公募要領に女性研究者への支援を明記することにより, 女性研究者の応募を促す。
- ・公募期間の長期確保, 英語版公募要領の作成, 質問への英語対応等外国人研究者が応募しやすい環境を確保する。

採用後は, 研究支援・産官学連携センターに配置している URA により, 外部資金獲得に関するサポート(公募情報提供, 説明会開催, 申請書作成支援等)等を行っている。

また, 研究環境整備の一環として, 平成 30(2018)年度は, テニュアトラック規則を改正し, テニュアトラック教員が出産に伴う産前産後休暇及び育児休業を取得できる仕組みに改め, 第 4 期採用教員が産前産後休暇を取得した。

[テニュアトラック教員採用数(計画)]

	平成 26 (2014) 年度	平成 27 (2015) 年度	平成 28 (2016) 年度	平成 29 (2017) 年度	平成 30 (2018) 年度	平成 31 (2019) 年度	平成 32 (2020) 年度	平成 33 (2021) 年度
春着任		第 2 期	第 4 期	第 6 期	第 8 期	第 10 期	第 12 期	第 14 期
秋着任	第 1 期(冬)	第 3 期	第 5 期	第 7 期	第 9 期	第 11 期	第 13 期	第 15 期
徳島大学	0	1	1	1	1	1	1	1
コンソ全体	4	8	8	8	8	8	8	8

[テニュアトラック教員採用数(実績)]

	公募開始	公募締切	最終選考	採用日	応募分野	応募者数
第 3 期	平成 27(2015)年 4 月 28 日	平成 27(2015)年 6 月 25 日	平成 27(2015)年 8 月 26 日	平成 28(2016)年 2 月 1 日	家畜繁殖学	1
第 4 期	平成 27(2015)年 10 月 13 日	平成 27(2015)年 12 月 28 日	平成 28(2016)年 2 月 29 日	平成 28(2016)年 4 月 1 日	有機合成薬学	7(1)
第 6 期	平成 28(2016)年 10 月 11 日	平成 28(2016)年 12 月 12 日	平成 29(2017)年 2 月 1 日	平成 29(2017)年 4 月 1 日	メタボローム栄養学	1
第 9 期	平成 29(2017)年 12 月 28 日	平成 30(2018)年 4 月 2 日	平成 30(2018)年 7 月 19 日	平成 30(2018)年 10 月 1 日	ロボット工学	3(1)
第 11 期	未定	未定	未定	未定	次世代フォトニクス研究	

※()は女性

10-3-3. イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラム

(1)長期インターンシップ

平成 26(2014)年度から、毎年 2 名の長期インターンシップ派遣を目標として事業を進めている。平成 30(2018)年度は、前年度までと引き続き全学的に派遣者を募ったところ、第 8 期、第 9 期と応募があり、最終的に 1 名を理化学研究所(仙台)に、もう 1 名を北欧研究所(コペンハーゲン)に派遣した。なお、今年度初めて、任期付き教員(助教。学位取得後 3 年)を、海外に派遣することができた。

また、今年度に派遣した 1 名は企業に就職が内定した。

なお、派遣先については、派遣する学生と受入先のニーズを踏まえた多様なものになっている。

[長期インターンシップ派遣(計画)]

	平成 26 (2014) 年度	平成 27 (2015) 年度	平成 28 (2016) 年度	平成 29 (2017) 年度	平成 30 (2018) 年度	平成 31 (2019) 年度	平成 32 (2020) 年度	平成 33 (2021) 年度
前期		第 2 期	第 4 期	第 6 期	第 8 期	第 10 期	第 12 期	第 14 期
後期	第 1 期	第 3 期	第 5 期	第 7 期	第 9 期	第 11 期	第 13 期	第 15 期
徳島大学	2	2	2	2	2	2	2	2
コンソ全体	6	18	18	18	18	18	18	18

[長期インターンシップ派遣(実績)]

	所属	学年	派遣先	派遣期間
第1期	2名選考のみ			
第2期	先端技術科学教育部	D3	三菱レイヨン(株)・広島	平成 27(2015)年 9 月 3 日 ～12 月 3 日
第3期	先端技術科学教育部	D1	(株)インフォマティクス・大阪	平成 27(2015)年 11 月 9 日 ～平成 28(2016)年 1 月 9 日
第4期	先端技術科学教育部	D2	ニタコンサルタント(株)・徳島	平成 28(2016)年 6 月 10 日 ～8 月 9 日
第5期	栄養生命科学教育部	D1	理化学研究所・兵庫	平成 28(2016)年 10 月 1 日 ～12 月 31 日
第7期	薬科学教育部	D1	東京都医学総合研究所・東京	平成 30(2018)年 2 月 1 日 ～3 月 31 日
第8期	先端技術科学教育部	D3	理化学研究所・仙台地区	平成 30(2018)年 9 月 18 日 ～12 月 17 日
第9期	地方創生センター	助教	北欧研究所・デンマーク	平成 30(2018)年 12 月 29 日 ～平成 31(2019)年 3 月 29 日

(2) その他の活動

博士後期課程学生のコミュニケーション能力の向上を目的として、毎年秋に未来博士3分間コンペティションを開催している(@広島大学)。平成 30(2018)年度は、昨年度に引き続き本学から挑戦する学生を選出する学内選考会を、本学で実施した第7回成果報告会と合わせて7月23日に実施した。当日、昨年度を上回る日本語部門6名、英語部門7名(両部門出場者含む)の参加があった。最終的に本学からは、日本語部門3名、英語部門4名を本選に派遣し、9月15日の本選では、英語部門で1名が受賞した。

[未来博士3分間コンペティション 2018 参加者]



(3) 特筆すべき活動

コンソーシアムの連携機関への新規加入を促進するため、広島大学とともに事業紹介の為の一般事業向けパンフレットを作成し、企業、機関への説明を積極的に行っている。平成 30(2018)年度は、本事業についての理解・関心を広めるべく、次のイベントに参加し、ポスター展示・紹介を行った。

- ・9月28日 徳島大学 社会産業理工学研究交流会(旧エンジニアリングフェスティバル)(徳島市)
- ・10月11日～13日 徳島ビジネスチャレンジメッセ2018(徳島市)

また、様々な分野の企業の研究者または人事関係者等を講師に招聘し、会社概要や研究開発内容の紹介、研究者の業務、企業の求める人材像等について講演いただく人材セミナーを、平成30(2018)年度は2回開催した。

・第70回コンソーシアム人材セミナーin 徳島

「規模の大小を問わず、お客様を驚かす、売れる商品・サービスのつくり方や、お客様を喜ばし続ける商売人としての考え方、アクションとは！」

平成30(2018)年8月10日(研究支援・産官学連携センターと連携)

・第71回コンソーシアム人材セミナーin 徳島

「変化の時代における融合コストマネジメント」

平成30(2018)年11月14日(研究支援・産官学連携センターと連携)

併せて、研究者としてのキャリアアップを目指す機会として、次のセミナーを開催した。

・EURAXESS 事業説明会

「求む！ヨーロッパと研究交流したい研究者 日欧共同研究&研究者交流を目指す」

平成30(2018)年4月12日

・【平成30(2018)年度研究倫理セミナー・第4回研究倫理啓発セミナー】

—科学者の Well-being のための志向倫理—

平成31(2019)年2月22日(研究支援・産官学連携センター及びAWAサポートセンターと共催)

更に、博士人材を増やすための取組として、学生の意識啓発のためにコンソーシアムで作成した小冊子や、新D1の学生が自覚を持って大学院生活を送ることを狙って作成した「4年手帳」を、入学ガイダンス時に配布した。

11. 外部評価

11-1. 外部評価委員会

若手研究人材養成担当では、外部の関連組織・有識者の方に外部評価委員を委嘱し、本システムの外部評価を受けている。外部の方の意見を真摯に受け止め、より良い取組とするよう努めている。

11-1-1. 第4回外部評価委員会

【日 時】平成30(2018)年10月4日(木) 13:30～15:40

【場 所】ホテルグランヴィア広島3F 天平

◆外部評価委員(五十音順)

三菱ケミカル株式会社 大竹研究所 主席研究員	入江 菊枝
広島県商工労働局 イノベーション推進部長	上丸 敦仁
近畿大学工学部教授, 次世代基盤技術研究所 3D 造形技術研究センター長	京極 秀樹
公益財団法人とくしま産業振興機構 理事長	熊谷 幸三
国立大学法人東京工業大学理学院化学系 教授	鈴木 啓介
経済産業省中国経済産業局 地域経済部次長	松井 眞一
株式会社広島銀行法人営業部シニアマネージャー	向井 稔
地方独立行政法人山口県産業技術センター イノベーション推進センター医療県連推進チーム プロジェクトプロデューサー	安田 研一

◆総合講評

本プログラムは、平成29(2017)年度までの4年間で、「イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラム」および「テニュアトラック導入による若手研究者の自立・流動促進プログラム」とも、所期の目標に向かって顕著な実績を上げられ、優れた次世代研究者教育プログラムとなっていると評価できる。

「イノベーション創出人材の実践的養成・活用プログラム」においては、企業等への長期インターンシップ派遣、未来博士3分間コンペティションや課題提案型ワークショップなどの開催によるシーズ・ニーズの出会いの場の提供など顕著な活動として評価できる。また、「テニュアトラック導入による若手研究者の自立・流動促進プログラム」においても、メンター及び研究支援者による相談業務、HP や若手研究者ポートフォリオの作成など独自の取組が実施されていることは評価できる。特に、テニュアトラック教員の採用については、その成果が顕著であり、女性教員、外国人教員の採用、さらに採用後の評価・ケアシステムも着実に実施されており大いに評価できる。また、昨年課題として挙げられた地域企業との連携が不十分であるとの指摘に対しては、連携企業を大幅に増やす努力をされ、長期インターンシップ等を通じて企業への就職に実績も出てきている。しかし、地方創生の観点からは、地域企業あるいは行政機関とのさらなる密接な連携が不可欠である。

本プログラムが今後とも発展し、継続していくためには、再度現状の課題を抽出して改善していくことが重要である。外部評価委員会として、以下の課題を挙げておくので、さらなる改善に尽力していただきたい。

1. 本プログラムへの参画企業も大幅に増やす努力をされ、昨年指摘のあった地域企業との連携強化に関しては改善がみられるが、まだ企業との連携は十分ではないと推察される。今後、企業との連

携を実質化するために Face to Face の取組を行うことが重要であるとともに、本プログラムの取組や若手研究者ポートフォリオなどについて、さらに発信力を高めるための広報活動を強化することが必要である。

2. 来年度以降については、補助金による運営が難しいとのことであるので、自己経費での運営が求められることから、企業との連携をさらに強化して金銭的な支援を仰ぐとともに、行政機関との連携も一層深めていくことにより側面的な支援を仰ぐ方策を検討していくことが必要である。また、本プログラムでは、非常に多くの項目について実施されていることは評価できるが、今後の自己経費による運営を考慮すると、重要な項目に絞り込むことも検討する必要がある。今後、地域企業さらには行政機関との連携を考慮した、本プログラムの運営システムを構築していくことが重要な課題である。
3. 本プログラムの今後の継続性の観点から、大学間連携や学内における連携の在り方についてについて、十分に検討しておくことが必要である。

以上の課題を検討していただき、地方創生を推進する優れた人材育成プログラムを構築していただき、日本を代表するプログラムとなることを期待する。

**未来を拓く地方協奏プラットフォーム
平成 30(2018)年度 成果報告書**

【発行年月】 平成 31(2019)年 3月

**【編集・発行】 「未来を拓く地方協奏プラットフォーム」運営協議会事務局
広島大学グローバルキャリアデザインセンター
(若手研究人材養成担当)**

【所在地】 〒739-8514 東広島市鏡山一丁目 7番1号 (学生プラザ 2F)

【TEL】 082 -424 -2058 【FAX】 082 -424 -4565

※無断複写・転載を禁じます



未来を拓く地方協奏プラットフォーム

HIRAKU

Home for Innovative Researchers and
Academic Knowledge Users